

病院概要 2023



目次

理念・基本方針・患者さんの権利	2
病院長あいさつ	3
1. 病院沿革	4
2. 歴代病院長	6
3. 病院組織図	7
4. 施設基準	8
5. 業務概況	10
(1) 診療科別患者数	10
(2) 放射線検査件数	11
(3) 診療科別手術件数	12
(4) 臨床検査件数	12
(5) 処方せん調剤数	12
(6) 病理診断科件数	13
(7) 先進医療実施一覧	13
(8) 施設	14
(9) 職員数	14
(10) 許可病床数	14
(11) 手術実施件数一覧	15
6. 診療科紹介	
総合診療科	16
循環器内科	18
呼吸器内科	20
膠原病・リウマチ内科	22
生活習慣病・糖尿病センター（糖尿病・代謝内科）	24
腎臓内科	26
骨・内分泌内科（内分泌内科）	28
消化器内科	30
肝胆膵内科（肝臓・胆嚢・膵臓内科）	32
小児科（新生児）	34
神経精神科	36
皮膚科	38
放射線科	40
放射線治療科	42
核医学科	44
消化器外科	46
乳腺外科	48
心臓血管外科	50
肝胆膵外科（肝臓・胆嚢・膵臓外科）	52
呼吸器外科	54
小児外科	56
脳神経外科	58
整形外科	60
泌尿器科（腎臓移植）	62
女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学）	64
女性診療科（婦人科腫瘍）	66

眼科	68
耳鼻いんこう科	70
麻酔科・ペインクリニック科	72
形成外科	74
血液内科（血液内科・造血細胞移植科）	76
脳神経内科	78
歯科口腔外科	80
感染症内科	82
ゲノム診療科	84
リハビリテーション科	86
病理診断科	88
集中治療科	90
緩和ケア内科	92
7. 中央部門等紹介	
中央臨床検査部（臨床検査科）	94
中央放射線部	96
病理部	98
中央手術部	100
救命救急センター	102
集中治療センター（ICU/CCU）	104
リハビリテーション部	106
内視鏡センター	108
人工じん部	109
輸血部	110
医療情報部	112
薬剤部	114
看護部	116
栄養部	118
医療機器部	120
臨床研究・イノベーション推進センター	122
患者総合支援センター	124
国際診療支援センター	130
先端予防医療部（附属クリニック MedCity21）	132
卒後臨床研修センター	136
がんセンター	138
ゲノム医療センター	139
化学療法センター	140
緩和ケアセンター	142
高精度放射線治療センター	143
医療安全センター	144
新規技術・医薬品審査部	145
医療の質・安全管理部	146
感染制御部	148
8. 施設案内	152

大阪公立大学医学部附属病院の理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき

- 1 地域住民の健康に寄与する質の高い医療を提供します。
- 2 こころ豊かで信頼される医療人を育成します。
- 3 医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます。

「智」は知恵を育む知識や技術の習得の大切さを、
「仁」は人のもつ痛みや悩みを理解する心の大切さを、
「勇」は正しい判断に基づく決断力の大切さを、
それぞれ表しています。

基本方針

- ◇患者さん本位の安全で質の高い医療を提供します。
- ◇地域医療の向上に寄与します。
- ◇健康・予防医学を推進します。
- ◇最新の高度医療を提供します。
- ◇人間味豊かな優れた医療人を育成します。
- ◇新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います。
- ◇質の高い多彩な研究を推進します。

患者さんの権利

- ◇安全で質の高い医療を受けることができます。
- ◇自由意志に基づき治療を選択することができます。
- ◇十分な説明と情報提供を受けることができます。
- ◇セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受けることができます。
- ◇人の尊厳を尊重した医療を受けることができます。
- ◇医療に関する個人情報やプライバシーが保護されます。
- ◇健康教育を受けることができます。



病院長あいさつ

日頃より、大阪公立大学医学部附属病院に格別のご高配を賜り心より感謝申し上げます。
2022年10月1日より、病院長を拝命しました中村博亮と申します。

本院は、2022年4月に大阪府立大学と大阪市立大学が統合し、国内最大規模の公立大学の附属病院として、「大阪公立大学医学部附属病院」へ名称を変更いたしました。大阪市内唯一の大学病院、かつ特定機能病院として、地域医療を支えるとともに、患者さん

に満足していただける安全で質の高い医療を提供すべく、日々努力を続けています。

当院は地域がん診療連携拠点病院、造血幹細胞移植推進拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、大阪府難病診療連携拠点病院、大阪府災害拠点病院などの指定を受け、その役割を果たしております。

2021年1月にJMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)、2022年4月からは大阪府外国人患者受入拠点医療機関の認可を受け、大学病院としての役割を果たしつつ、今後、国際的な人の往来増加や大阪・関西万博の開催に向けて、高度医療を必要とされる外国人受診者の受入れ体制整備にも尽力いたします。

また、2022年4月には、「化学療法センター」「ゲノム医療センター」「高精度放射線治療センター」「緩和ケアセンター」を統合し、新たにかんセンターを設立しました。大学病院としてがん診療を専門とする医療者を育成し、拠点病院として地域の医療機関と連携しながら、がん医療へ貢献したいと考えております。

そして、先端予防医療部附属クリニック MedCity21 では、健康寿命の延伸に応えるため、大学病院の持つ専門性の高い人材と高度先進医療を活かした健診および診療を行っています。引き続き、患者さんの健康づくりに取り組むとともに、予防医療の推進にも寄与いたします。

今後も大学病院として高度な総合医療機関の役割を果たしながら、患者さんのお気持ちに寄り添える病院であるよう、より一層切磋琢磨してまいります。患者さんへの良質な医療の提供のため、地域医療情報連携ネットワークを活用し、地域医療機関や開業医の皆様が電子カルテの閲覧、WEB予約システムを活用いただける環境を整備し、病連携・病診連携を深めてまいりますので、引き続きのご理解、ご支援をお願い申し上げます。

2023年4月

大阪公立大学医学部附属病院は病院機能評価認定病院です。

本院は公益財団法人日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価(機能種別版評価項目3rdG:ver.1.1)の認定を受けています。2023年5月に3rdG:Ver.2.0を受審、更新認定予定です。

《病院機能評価とは》

医療を見つめる第三者の目。それが病院機能評価です。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者(サーベイヤー)が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

(公益財団法人日本医療機能評価機構HPより)



1 病院沿革

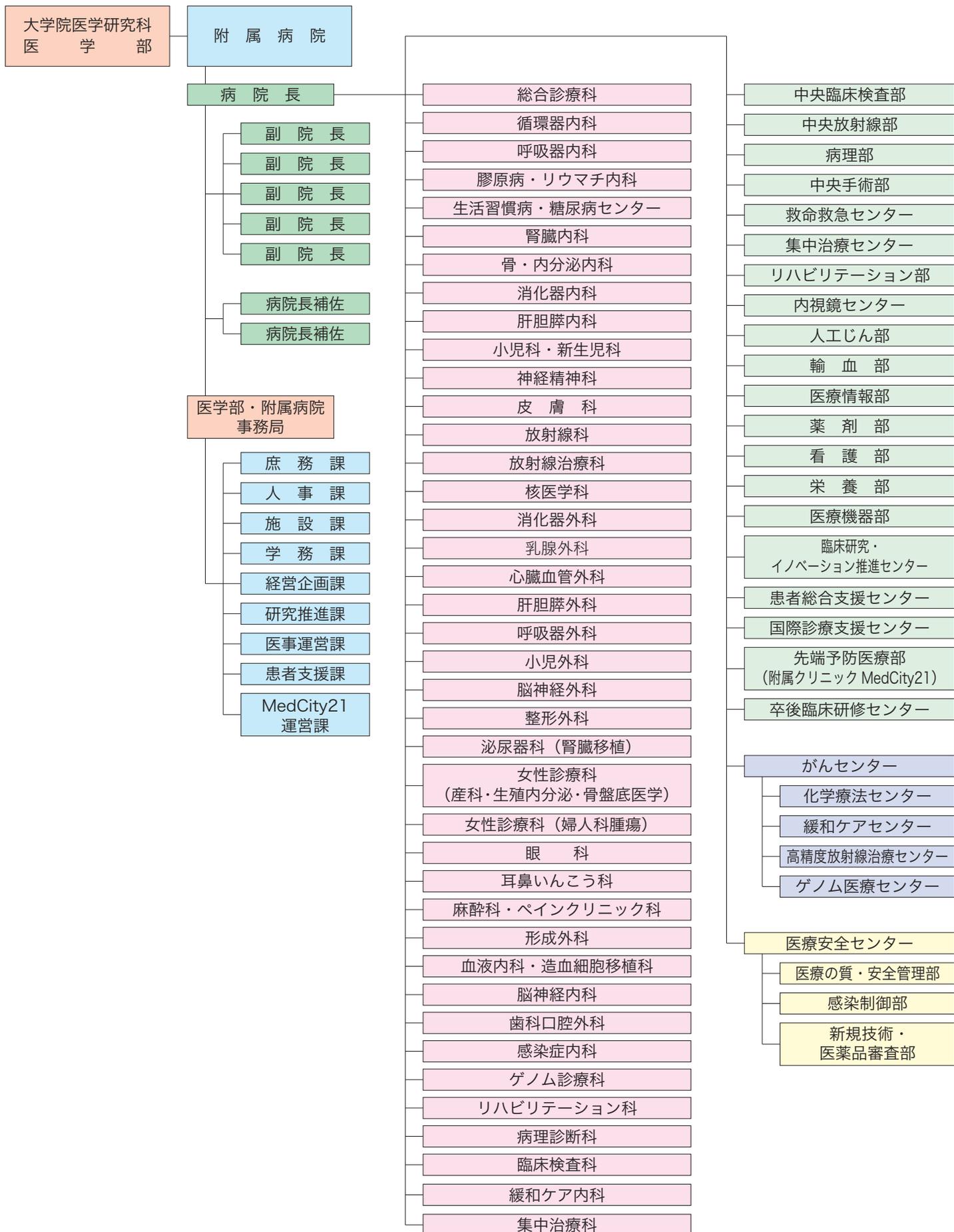
1944 (昭和19)年 4月	市立医学専門学校設立 (北区西扇町12番地) 設立認可 S19. 2. 29 市立南市民病院 (篤志家岸本吉右衛門氏の寄付と市費により大正14年6月建設阿倍野区旭町1丁目61番地) を市立医専附属病院とする
1947 (昭和22)年 7月	大学予科を設置 医科大学設置認可 S22. 6. 18
1948 (昭和23)年 4月	市立医科大学開設 旧制 学部開設認可 S23. 2. 20 附属病院は市立医科大学附属病院となる
1955 (昭和30)年 4月	市立医科大学は市立大学に編入、医学部となる 編入にともない医学部附属病院となる
1956 (昭和31)年 3月	附属病院北館竣工 (12, 279, 4 m ²)
1958 (昭和33)年 4月	大学院医学研究科設置 設置認可 S31. 3. 31
1961 (昭和36)年 2月	附属病院南館 (ガンセンター) 竣工 (1, 808 m ²)
1967 (昭和42)年 11月	附属病院東館竣工 (25, 705 m ²)
1970 (昭和45)年 4月	附属病院研修医制度 発足
5月	附属病院研究医制度 発足
7月	解剖体慰霊碑建立
1971 (昭和46)年 6月	医学部・附属病院両事務組織統一
1974 (昭和49)年 5月	附属病院内に金塚小学校養護学級開設
10月	大阪市立大学みおつくし会 (篤志献体者の会) 発足
1977 (昭和52)年 9月	附属病院中央放射線部リニアック棟竣工 (382 m ²)
11月	附属病院中央臨床検査部 コンピュータ導入
12月	附属病院中央放射線部リニアック診療開始
1985 (昭和60)年 7月	附属病院が高度先進医療機関として認可される 附属病院泌尿器科にて腎結石破碎装置稼動
1986 (昭和61)年 2月	附属病院にてCCU室 (冠疾患集中治療室) 稼動
7月	附属病院にてICU室 (集中治療室) 稼動
1987 (昭和62)年 3月	附属病院医事業務機械化開始
8月	附属病院中央放射線部にて電磁波温熱療法開始
1988 (昭和63)年 4月	附属病院にて脊髄誘発電位測定開始
1990 (平成2)年 4月	附属病院に病理部設置
1992 (平成4)年 10月	新附属病院竣工
1993 (平成5)年 4月	病院診療科として血液内科、老年科・神経内科、形成外科、総合診療科を新設 病院中央部門として救急部、集中治療部、冠疾患集中治療部、リハビリテーション部、内視鏡部、人工じん部、輸血部、医療情報部、中央病歴部、中央材料部、薬剤部、栄養部を設置
5月	附属病院本館・南館・北館・東館を順次解体し、現地にて建替え、 新附属病院オープン (許可病床数1, 200床)
6月	附属病院前期・後期研究医制度 発足
1997 (平成9)年 2月	特定機能病院として厚生大臣の承認を受ける
3月	「大阪府災害拠点病院」の指定を受ける
4月	心臓血管外科を新設 医療研修センターオープン
2000 (平成12)年 6月	病院中央部門として安全管理対策室の設置 (H23 4月に医療安全管理部に名称変更)
2003 (平成15)年 8月	許可病床数1, 020床へ変更
2004 (平成16)年 4月	卒後臨床研修センター開設
2005 (平成17)年 12月	医薬品・食品効能評価センター開設
2006 (平成18)年 4月	地方独立行政法人への移行により開設者が公立大学法人大阪市立大学となる
2007 (平成19)年 3月	スキルスシミュレーションセンター開設
4月	病院診療科を臓器・疾患別に改編
5月	病院中央部門として、化学療法センター、臨床工学部を設置 財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価 (Ver. 5. 0) の認定病院として認定を受ける

2008 (平成20) 年 4 月	厚生労働省より「DPC 対象病院」の指定を受ける
6 月	許可病床数 1,005 床へ変更
7 月	大阪府より「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受ける
2009 (平成21) 年 4 月	大阪市より「認知症疾患医療センター」の指定を受ける
	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受ける
2010 (平成22) 年 2 月	大阪府より「救命救急センター」の承認及び「救急病院」の指定を受ける
4 月	許可病床数 1,003 床へ変更
10 月	大阪府より「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
2011 (平成23) 年 4 月	病院中央部門として、患者総合支援センターを設置
7 月	許可病床数 982 床へ変更
2012 (平成24) 年 5 月	公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価 (Ver. 6.0) の認定病院として更新認定を受ける
2013 (平成25) 年 4 月	許可病床数 980 床へ変更
	病院中央部門として、感染制御部を設置
10 月	厚生労働省より「造血幹細胞移植推進拠点病院」に認定される
2014 (平成26) 年 3 月	ハイブリッド手術室システムの本格稼働開始
4 月	公立大学で全国初の健診施設となる先端予防医療部附属クリニック MedCity21 を開設
7 月	病理診断科を新設
2015 (平成27) 年 2 月	職業性胆管癌臨床・解析センターを開設
7 月	救急科を新設
10 月	歯科・口腔外科、感染症内科を新設
2016 (平成28) 年 1 月	リハビリテーション科を新設
4 月	許可病床数 972 床へ変更
2017 (平成29) 年 4 月	臨床検査科を新設
	病院中央部門として病理診断科を病理部に変更
	入退院支援センターを設置
5 月	公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価 (3rdG:Ver.1.1) の認定病院として更新認定を受ける
	ドクターカー稼働開始
8 月	中央臨床検査部、輸血部、病理部、感染制御部の臨床検査室が、日本適合性認定協会 ISO15189 の認定を受ける
	医薬品・食品効能評価センターを臨床研究・イノベーション推進センターに改変
2018 (平成30) 年 4 月	厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」の指定を受ける
	厚生労働省より「認定臨床研究審査委員会」の認定を受ける
	臨床工学部、中央材料部、中央手術部の一部を統合し、医療機器部を設置
11 月	大阪府より「大阪府難病診療連携拠点病院」の指定を受ける
2019 (平成31) 年 4 月	法人統合により開設者が公立大学法人大阪となる
	医療安全センターを新設、その中に医療安全管理部 (現: 医療の質・安全管理部)、感染制御部、新規技術・医薬品審査部 (新設) を設置
	ゲノム医療センターを設置
2020 (令和 2) 年 11 月	許可病床数 965 床へ変更
2021 (令和 3) 年 1 月	外国人患者受入医療機関認証制度 (JMIP) の認証取得
4 月	腎・泌尿器センター、集中治療センター (ICU/CCU) を開設
2022 (令和 4) 年 4 月	大阪公立大学医学部附属病院へ名称変更
	がんセンターを設置
	大阪府外国人患者受入拠点医療機関 認可を受ける

2 歴代病院長

医専附属病院長	土 居 利 三 郎	昭和 19. 4 ~昭和 23. 9 (1944. 4 ~ 1948. 9)
医大附属病院長	木 下 良 順	昭和 23. 9 ~昭和 24. 4 (1948. 9 ~ 1949. 4)
//	小 田 俊 郎	昭和 24. 4 ~昭和 28. 4 (1949. 4 ~ 1953. 4)
//	桜 根 好 之 助	昭和 28. 4 ~昭和 30. 3 (1953. 4 ~ 1955. 3)
医学部附属病院長	桜 根 好 之 助	昭和 30. 4 ~昭和 32. 4 (1955. 4 ~ 1957. 4)
//	澤 田 平 十 郎	昭和 32. 5 ~昭和 36. 6 (1957. 5 ~ 1961. 6)
//	藤 野 守 次	昭和 36. 6 ~昭和 40. 6 (1961. 6 ~ 1965. 6)
//	藤 森 速 水	昭和 40. 6 ~昭和 42. 6 (1965. 6 ~ 1967. 6)
//	池 田 一 三	昭和 42. 6 ~昭和 44. 3 (1967. 6 ~ 1969. 3)
事 務 取 扱	小 谷 勉	昭和 44. 3 ~昭和 44. 9 (1969. 3 ~ 1969. 9)
//	塩 田 憲 三	昭和 44. 9 ~昭和 46. 2 (1969. 9 ~ 1971. 2)
医学部附属病院長	塩 田 憲 三	昭和 46. 2 ~昭和 47. 3 (1971. 2 ~ 1972. 3)
//	小 谷 勉	昭和 47. 4 ~昭和 49. 3 (1972. 4 ~ 1974. 3)
//	白 羽 弥 右 衛 門	昭和 49. 4 ~昭和 51. 3 (1974. 4 ~ 1976. 3)
//	山 本 祐 夫	昭和 51. 4 ~昭和 55. 3 (1976. 4 ~ 1980. 3)
//	西 村 周 郎	昭和 55. 4 ~昭和 59. 3 (1980. 4 ~ 1984. 3)
//	前 川 正 信	昭和 59. 4 ~昭和 61. 3 (1984. 4 ~ 1986. 3)
//	梅 山 馨	昭和 61. 4 ~平成 2. 3 (1986. 4 ~ 1990. 3)
//	藤 森 貢	平成 2. 4 ~平成 6. 3 (1990. 4 ~ 1994. 3)
//	森 井 浩 世	平成 6. 4 ~平成 8. 3 (1994. 4 ~ 1996. 3)
//	中 井 義 明	平成 8. 4 ~平成 10. 3 (1996. 4 ~ 1998. 3)
//	木 下 博 明	平成 10. 4 ~平成 12. 3 (1998. 4 ~ 2000. 3)
//	荻 田 幸 雄	平成 12. 4 ~平成 14. 3 (2000. 4 ~ 2002. 3)
//	吉 川 純 一	平成 14. 4 ~平成 16. 3 (2002. 4 ~ 2004. 3)
//	原 充 弘	平成 16. 4 ~平成 24. 3 (2004. 4 ~ 2012. 3)
//	石 河 修	平成 24. 4 ~平成 28. 3 (2012. 4 ~ 2016. 3)
//	平 川 弘 聖	平成 28. 4 ~平成 30. 3 (2016. 4 ~ 2018. 3)
//	平 田 一 人	平成 30. 4 ~令和 4. 3 (2018. 4 ~ 2022. 3)
//	中 村 博 亮	令和 4. 10 ~ (2022. 10 ~)

3 病院組織図



※本紙は特別な表記がない限り、2023年4月の情報をもとに作成しております。

4 施設基準

届出施設基準一覧

2023年4月1日現在

基本診療料（入院基本料・入院基本料等加算・特定入院料）、入院時食事療養費、酸素の購入単価

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算2
歯科診療特別対応連携加算
特定機能病院入院基本料（一般病棟7対1、精神病棟13対1）
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1 20対1
急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上）
看護職員夜間配置加算 12対1-1
看護補助加算2
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1
無菌治療室管理加算2
放射線治療病室管理加算1
放射線治療病室管理加算2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染対策向上加算1
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算1
報告書管理体制加算
後発医薬品使用体制加算2
病棟薬剤業務実施加算1
病棟薬剤業務実施加算2
データ提出加算
入退院支援加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算2
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1
救命救急入院料4
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
総合周産期特定集中治療室管理料
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
看護職員処遇改善評価料
入院時食事療養I

特掲診療料

外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料I
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料（臓器移植後）
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
一般不妊治療管理料
下肢創傷処置管理料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1
連携充実加算
ニコチン依存症管理料
がん治療連携計画策定料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
胎児心エコー法
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
人工臓臓検査、人工臓臓療法

長期継続頭蓋内脳波検査
長期脳波ビデオ同時記録検査1
脳磁図（自発活動を測定するもの）
脳磁図（その他のもの）
脳波検査判断料1
神経学的検査
補聴器適合検査
黄斑局所網膜電図
全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
前立腺針生検法（MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの）
経気管支凍結生検法
口腔細菌定量検査
睡眠時歯科筋電図検査
画像診断管理加算1
ポジトロン断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
C T撮影及びMRI撮影
冠動脈C T撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（I）
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
運動器リハビリテーション料（I）
呼吸器リハビリテーション料（I）
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
医療保護入院等診療料
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
人工腎臓
導入期加算3及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する
糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
口腔粘膜処置
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
センチネルリンパ節加算
皮膚移植術（死体）
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
四肢・軀幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
後縦韌帯骨化症手術（前方進入によるもの）
椎間板内酵素注入療法
腫瘍脊椎骨全摘術
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び
両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、
植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極除去術
両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び
両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
補助人工心臓
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
腹腔鏡下小切開副腎摘出術
腹腔鏡下小切開腎部分切除術
腹腔鏡下小切開腎摘出術
腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び
腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び
腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術

腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
生体部分肝移植術
体外衝撃波碎石破砕術
腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術
腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下膀胱頭部腫瘍切除術
腹腔鏡下膀胱頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）
（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
同種死体腎移植術
生体腎移植術
膀胱水圧拡張術及びハナノ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下仙骨腔固定術
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
医療機器安全管理料（歯科）
歯科治療時医療管理料
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない
持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査
染色体検査の注 2 に規定する基準
骨髓微小残存病変測定
BRCA1/2 遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
抗アデノ随伴ウイルス 9 型 (AAV9) 抗体
抗 HLA 抗体（スクリーニング検査）及び抗 HLA 抗体（抗体特異性同定検査）
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
脳腫瘍覚醒下マッピング加算
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
頭蓋内電極植込術（脳深部電極によるもの）
（7本以上の電極による場合）に限る。）
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
角結膜悪性腫瘍切除術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法））及び
水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
網膜再建術
経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
人工中耳植込術
植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、
植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V 型（拡大副鼻腔手術）及び
経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、
下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）

肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので
内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内視鏡下筋層切開術
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）
内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
陰瘻瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
胸腔鏡下弁置換術
経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術）
経カテーテル大動脈弁置換術（経皮的肺動脈弁置換術）
胸腔鏡下弁置換術
経皮的僧帽弁クリップ術
不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテルの手術によるもの）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
腹腔鏡下子宮癒着部修復術
内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
体外式膜型人工肺管理料
医科点数第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術
（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術）
輸血管理料 I
貯血式自己血輸血管理体制加算
コーディネート体制充実加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシビテート作製術（用手法）
同種クリオプレシビテート作製術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
口腔粘膜血管腫凝固術
レーザー機器加算
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
週周期薬剤管理加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1 回線量増加加算
強度変調放射線治療（IMRT）
画像誘導放射線治療（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
デジタル病理画像による病理診断
病理診断管理加算 2
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算 2
クラウン・ブリッジ維持管理料

ご不明な点等ございましたら各診療科または職員まで
お問い合わせください。

5 業務概況

(1) 診療科別患者数 (2022年度 入院・外来延患者数、1日平均患者数) 2022年4月 - 2023年3月

	入 院		外 来	
	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
総合診療科	342	0.9	3,244	13.3
循環器内科	7,945	21.8	15,992	65.8
呼吸器内科	8,965	24.6	19,076	78.5
膠原病・リウマチ内科	1,868	5.1	7,400	30.5
生活習慣病・糖尿病センター	2,697	7.4	14,211	58.5
腎臓内科	4,596	12.6	10,328	42.5
骨・内分泌内科	1,769	4.8	9,424	38.8
消化器内科	8,424	23.1	23,299	95.9
肝胆膵内科	5,241	14.4	17,778	73.2
小児科・新生児科	7,982	21.9	12,219	50.3
神経精神科	9,152	25.1	21,508	88.5
皮膚科	4,487	12.3	22,081	90.9
放射線科	2,114	5.8	1,214	5.0
放射線治療科	-	-	4,199	17.3
核医学科	406	1.1	921	3.8
消化器外科	8,392	23.0	13,747	56.6
乳腺外科	2,470	6.8	12,453	51.2
心臓血管外科	5,625	15.4	3,515	14.5
肝胆膵外科	8,565	23.5	10,270	42.3
呼吸器外科	3,561	9.8	3,923	16.1
小児外科	494	1.4	1,118	4.6
脳神経外科	11,170	30.6	11,001	45.3
整形外科	17,596	48.2	32,296	132.9
泌尿器科(腎臓移植)	12,201	33.4	27,095	111.5
女性診療科(産科・生殖内分泌・骨盤底医学)	9,334	25.6	12,477	51.3
女性診療科(婦人科腫瘍)	11,365	31.1	18,545	76.3
眼科	4,795	13.1	29,186	120.1
耳鼻いんこう科	7,440	20.4	27,334	112.5
麻酔科・ペインクリニック科	548	1.5	11,421	47.0
形成外科	3,707	10.2	9,201	37.9
血液内科・造血細胞移植科	11,016	30.2	10,338	42.5
脳神経内科	3,655	10.0	8,430	34.7
感染症内科	679	1.9	2,484	10.2
ゲノム診療科	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	41,272	169.8
救命救急センター	4,938	13.5	113	0.5
病理診断科	-	-	-	-
臨床検査科	-	-	-	-
緩和ケア内科	-	-	-	-
集中治療科	-	-	-	-
医科計	193,539	530.2	469,113	1,930.5
歯科口腔外科	515	1.4	9,858	40.6
医科歯科計	194,054	531.7	478,971	1,971.1
新生児	1,445	4.0		

(2) 放射線検査件数

(2022年度)

X線検査			部位件数	
	単純撮影	胸腹・骨撮影		80,818
		乳房		419
		ポータブル撮影		23,118
		計		104,355
	骨塩定量	—	7,297	
	血管造影	—	3,340	
透視検査	—	3,576		

CT検査			部位件数
	入院		15,426
	外来		55,433
	計		70,859

MRI検査			部位件数
	入院		2,926
	外来		15,117
	計		18,043

核医学検査			部位件数	
	PET以外	入院		423
		外来		2,073
		計		2,496
	PET	入院		91
		外来		1,289
計			1,380	

放射線治療			部位件数	
	外部照射	X線および電子線治療		7,470
		定位治療		520
		IMRT		4,812
		全身照射		23
		計		12,825
	外部照射以外	腔内照射		43
		組織内照射		5
		計		48
	治療計画	X線および電子線治療		368
		定位治療		94
		IMRT		244
		全身照射		9
		計		715
腔内照射			43	
組織内照射			5	
計			48	

(3) 診療科別手術件数

(2022年度)

	手術件数		手術件数		手術件数
総合診療科	0	核医学科	0	耳鼻いんこう科	427
循環器内科	199	消化器外科	431	麻酔科・ペインクリニック科	14
呼吸器内科	23	乳腺外科	337	形成外科	482
膠原病・リウマチ内科	0	心臓血管外科	304	血液内科・造血細胞移植科	10
生活習慣病・糖尿病センター	0	肝胆膵外科	324	脳神経内科	0
腎臓内科	0	呼吸器外科	312	歯科口腔外科	48
骨・内分泌内科	0	小児外科	88	感染症内科	0
消化器内科	40	脳神経外科	478	救命救急センター	98
肝胆膵内科	0	整形外科	1,048	ゲノム診療科	0
小児科・新生児科	0	泌尿器科	768	リハビリテーション科	0
神経精神科	0	女性診療科(産科・ 生殖内分泌・骨盤底医学)	409	緩和ケア内科	0
皮膚科	292	女性診療科(婦人科腫瘍)	554	集中治療科	0
放射線科	0	眼科	1,285	総計	7,971
放射線治療科	0				

(4) 臨床検査件数

(2022年度)

区分	入院	外来	健診(検診)	合計
一般検査	88,343	175,765	51,560	315,668
血液学的検査	249,565	327,676	24,084	601,325
生化学的検査	1,267,656	2,495,676	342,370	4,105,702
免疫学的検査	88,892	397,150	8,785	494,827
微生物学的検査	77,082	18,245	0	95,327
その他検体検査	36,149	6,584	3,172	45,905
生理機能検査	13,845	53,629	38,538	106,012
合計	1,821,532	3,474,725	468,509	5,764,766

(5) 処方せん調剤数

①処方せん調剤数(内服・外用)

(2022年度実績)

	枚数	件数	剤数
入院	193,415	442,529	2,954,076
外来	7,308	17,252	247,195

②処方せん調剤数(注射薬)

	枚数	件数	剤数
入院	618,223	967,621	1,268,541
外来	25,970	31,092	41,297

(6) 病理診断科件数

(2022 年度)

組織検査集計	入院	外来	健診(検診)	合計
組織件数	7,149	7,371	757	15,277
迅速件数	710	44	0	754
ブロック数(個)	44,565	8,885	757	54,207
1臓器	5,939	6,272	0	12,211
2臓器	729	338	0	1,067
3臓器以上	469	81	0	550
標本診断のみ	12	680	0	692
免疫件数	2,730	2,343	0	5,073
ホルモンレセプター	262	413	0	675

細胞診集計	入院	外来	健診(検診)	合計
婦人科細胞診	419	11,259	4,625	16,303
婦人科以外	1,881	4,542	1,625	8,048
標本診断のみ	320	2	0	322
術中迅速細胞診	2	127	0	129
合計	2,622	15,930	6,250	24,802

剖検	院外(人)	院内(人)	死亡数(人)	院内解剖率(%)
	10	15	181	8%

(7) 先進医療実施一覧

(2023年4月1日現在)

本院で実施している先進医療【A】		
先進医療名	承認年月日	診療科名
CYP2D6 遺伝子多型検査 ----- ゴーシェ病患者のうち経口投与治療薬を投与される予定の患者	令和1年8月1日	小児科・ 新生児科

本院で実施している先進医療【B】		
先進医療名	承認年月日	診療科名
S-1+ パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法 ----- 膀胱癌(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	令和2年4月1日	肝胆膵外科

(8) 施設

附属病院 敷地面積：15,825.53 m² 所在地：大阪市阿倍野区旭町1-5-7 (2023年4月1日現在)

建 物	階数		延面積 (m ²)	建設年月	備 考
	地上	地下			
附 属 病 院	19	4	86,878.48	1992年10月	
駐 車 場	1	4	10,642.41	1995年6月	
病 院 補 完 施 設	2~3	—	777.88	1991年5月	阿倍野区旭町1-3-15 (あべのアストビル2F~3F)
医 療 情 報 訓 練 施 設	13	2	216.62	1995年4月	阿倍野区旭町1-10-6 (あべのメディックスビル415)
看 護 師 若 草 寮	14	1	2,309.66	1989年1月	阿倍野区旭町2-1・1-600 (あべのマルシェ4F~7F) 収容定員51人 (2人室=24室 3人室=1室)
看 護 師 西 今 川 寮	3	—	1,043.78	1994年11月	東住吉区西今川4-19-1 収容定員28人 (個室=28室)
元看護専門学校教室	14	1	2,411.29	1989年8月	阿倍野区旭町2-1・1-100 (あべのマルシェ171号室)
元看護専門学校倉庫	14	1	35.83	1989年1月	阿倍野区旭町2-1・1-800 (あべのマルシェ289号室)
研修医・研究医宿舎	14	1	577.44	1989年1月	阿倍野区旭町2-1・1-800 (あべのマルシェ8F) 収容定員14人
病 院 書 庫	14	1	97.08	1989年8月	阿倍野区旭町2-1・1-200 (あべのマルシェ281号室、283号室)
そ の 他 建 物 (連絡廊下及び地下道)	—	1	328.51	1967年11月	

(9) 職員数

(2023年4月1日現在)

	常 勤	非常勤
医師	536	181
歯科医師	7	5
小 計	543	186
薬剤師	89	0
栄養士	12	0
臨床検査技師	76	7
診療放射線技師	67	1
臨床工学技士	32	0
理学療法士	13	1
作業療法士	4	0
視能訓練士	8	0
言語聴覚士	7	0
歯科衛生士	4	1
看護師	994	109
助産師兼看護師	64	0
事務職員	154	27
医療ソーシャルワーカー	10	0
治験コーディネーター	15	3
技術職員	2	0
技能職員	41	19
その他の職員	163	89
合 計	2,298	443

※合計人数は医師も含んでいます。

※大学院、MedCity21、先端予防医療部、学務課、阿倍野医学図書館除く

(10) 許可病床数

(2023年4月1日現在)

	一般病床	精神病床	合計
許可病床数	927	38	965

(11) 2022年1月～12月における手術実施件数一覧

医科点数表第2章第10部手術通則第5号及び第6号並びに歯科点数表第2章第9部手術通則第4号に掲げる手術

1 区分1に分類される手術

区分	手術名	手術の件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	173件
イ	黄斑下手術等	338件
ウ	鼓室形成手術等	33件
エ	肺悪性腫瘍手術等	315件
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術	176件

2 区分2に分類される手術

区分	手術名	手術の件数
ア	靭帯断裂形成手術等	52件
イ	水頭症手術等	59件
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1件
エ	尿道形成手術等	4件
オ	角膜移植術	0件
カ	肝切除術等	185件
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	52件

3 区分3に分類される手術

区分	手術名	手術の件数
ア	上顎骨形成術等	17件
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	21件
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	6件
エ	母指化手術等	4件
オ	内反足手術等	1件
カ	食道切除再建術等	9件
キ	同種死体腎移植術等	47件

4 区分4に分類される手術(胸腔鏡下・腹腔鏡下手術)

手術の件数
977件

5 その他の区分に分類される手術

手術名	手術の件数
人工関節置換術	192件
乳児外科施設基準対象手術	3件
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	63件
冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)及び体外循環を要する手術	271件
経皮的冠動脈形成術	27件
急性心筋梗塞に対するもの	4件
不安定狭心症に対するもの	3件
その他のもの	20件
経皮的冠動脈粥腫切除術	4件
経皮的冠動脈ステント留置術	92件
急性心筋梗塞に対するもの	3件
不安定狭心症に対するもの	17件
その他のもの	72件

General Medicine

診療方針

循環器内科や消化器内科などの臓器別診療システムは、専門的で高度な医療を患者さんに提供出来る大きな医学的進歩をもたらしましたが、症状から特定の診療科を決める診断に困難を感じる場合も多くあります。当総合診療科は、診断がついていない患者さんに対応し、適切な診療を受けられるガイド役としての役割を担っています。不明熱や全身倦怠感などの全身に関わる症状に対する診断のプロフェッショナルとして、横断的な広い知識で、臓器を特定しない領域に対応しています。また、総合診療科では、地域と大阪公立大学医学部附属病院との橋渡し役としての機能を有しております。今後ともご支援の程よろしくお願いたします。

診療科の特徴

「大学病院を受診させたいが、担当診療科がわからない」、「現在診療中であるが、大学病院の医師の意見も聞いてみたい」等の患者さんがおられましたらご紹介ください。紹介状を持たない初診患者さんや診断のついていない患者さんの診療を行っています。当科は、総合内科専従スタッフ、専門領域をもつ医師（肝胆膵、循環器、呼吸器、消化器、整形外科）ならびにシニアレジデントで診療に当たっています。病状が軽症の場合は、当科で診療を完結させ、専門的な臓器別診療が必要と判断した場合には、大学病院をはじめとした適切な診療科へ紹介させていただきます。また、当科は、医学教育部門も兼ねているため、「十分な問診と身体診察から、診断にせまる」、「病変臓器のみにとらわれず、常に心理・社会的背景を含めた全身に気を配って診療を行う」、すなわち、「病でなく人を診る」という基本的診察能力の向上を、研修医をはじめとする若手医師に徹底しております。訪れられた患者さんからは、「こんなに話を聞いてもらえるとは思わなかった」、「じっくり身体診察してもらって安心した」等のご意見もいただいております。原因のはっきりしない症状、検査結果や健康診断で異常を指摘されてお困りの際にご紹介いただければと思います。

対象疾患

【主力疾患】

- 不明熱
- 原因不明の症状や検査結果全般
- 体重減少
- 全身倦怠感
- 浮腫
- 意識消失
- 関節痛
- 頭痛
- 胸痛
- 腹痛
- 腰背部痛
- 慢性咳嗽
- 慢性下痢
- 筋力低下
- めまい
- しびれ
- 呼吸困難
- 動悸



しゅとう たいち

首藤 太一

[専門・担当]

診療科部長／教授

総合外科、総合内科、総合診療

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
栩野 吉弘 とちの よしひろ	診療科副部長／准教授	総合内科／呼吸器内科／総合診療
豊田 宏光 とよだ ひろみつ	准教授	総合内科／整形外科／総合診療
鎌田 紀子 かまた のりこ	講師	総合内科／消化器内科／総合診療
並川 浩己 なみかわ ひろき	講師	総合内科／総合診療
福本 一夫 ふくもと かずお	講師	総合内科／総合診療
幕内 安弥子 まくうち あやこ	病院講師	総合内科／総合診療
奥山 直木 おくやま なおき	医員	総合内科／総合診療
山内 健 やまうち たけし	医員	総合内科／総合診療

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Cardiovascular Medicine

診療方針

大阪公立大学循環器内科は、臨床、研究、教育を通じて医師としての成長を図り、患者さんのためにつくすことを基本理念としています。当科の診療疾患は、冠動脈疾患、心不全、心筋症、弁膜症、不整脈、高血圧、大動脈疾患、末梢血管疾患、肺動脈疾患などです。薬物療法のみならず、カテーテルインターベンション、カテーテル心筋焼灼術や各種最新のデバイス治療も積極的に施行しています。また、当科の関連病院の循環器センターとしての役割も果たしています。急性冠症候群に関しては、救命救急部と連携し救急患者の受け入れを行っております。大阪市内唯一の大学病院循環器センターとして、市民の皆様の医療に貢献してまいります。

診療科の特徴

当科では、あらゆる循環器疾患に対して診療をおこなっています。特に、心筋梗塞、狭心症などの冠動脈疾患は緊急性を伴うため、24時間体制で緊急カテーテル治療に対応しております。高齢化社会の到来により増加している弁膜症に対しては、心臓血管外科と協力のもと、外科手術が迅速におこなえる体制を構築しております。

また、経皮的動脈弁留置術（TAVI）、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitralClip）、経皮的左心耳閉鎖術など、より低侵襲で施行できる各種カテーテル治療も積極的に行っております。

難治性不整脈に対しては、薬物治療のみならず、ペースメーカー、植込み型除細動器、カテーテル心筋焼灼術などを施行しています。また、心疾患の終末像である心不全も増加していますが、従来の薬物治療に加えて、ペースメーカー治療や心臓リハビリテーションなどにも積極的に取り組んでいます。心臓移植が必要な治療抵抗性の重症心不全例に対しては、国立循環器病研究センターとも連携して治療にあたっております。

対象疾患

【主力疾患】

- 冠動脈疾患全般
- 狭心症
- 心筋梗塞
- 急性心不全
- 慢性心不全
- 心筋症（拡張型、肥大型）
- 不整脈全般
- 心房細動
- 頻脈性不整脈
- 徐脈性不整脈
- 弁膜症全般
- 大動脈弁狭窄症
- 僧帽弁閉鎖不全症
- 心房中隔欠損症
- 動脈管開在症
- 閉塞性動脈硬化症
- 動脈硬化全般

【対応できる疾患】

- 先天性心血管疾患全般
- 心室中隔欠損症
- 肺性心疾患
- 肺高血圧
- 大動脈疾患全般
- 大動脈瘤
- 大動脈解離
- 心サルコイドーシス
- 心アミロイドーシス
- ブルガダ症候群
- QT延長症候群
- 心ファブリー病
- 高安病
- 深部静脈血栓症
- 肺血栓塞栓症
- 高血圧
- 感染性心内膜炎

主な認定施設一覧

日本循環器学会専門医研修施設、日本超音波医学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈学会 日本心電学会 研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本脈管学会認定研修指定施設、経カテーテルの大動脈弁置換術（TAVR）専門施設、経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設、経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行認定施設、潜性脳梗塞に対する卵円孔開閉鎖術実施施設、経皮的動脈管閉鎖術施行認定施設、トランスサイレンチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル導入施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、左心耳閉鎖システム実施施設、パワードシースによる経静脈的リード抜去術認定施設



ふくだ だいじゅ

福田 大受

診療科部長／教授

[専門・担当]

循環器疾患全般、動脈硬化性疾患、冠動脈疾患、
メタボリック症候群

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
泉家 康宏 いずみや やすひろ	診療科副部長／准教授	心不全／心筋症／動脈硬化／高血圧／肺高血圧症
山崎 貴紀 やまざき たかのり	講師	虚血性心疾患／末梢動脈疾患／心不全
伊藤 朝広 いとう あさひろ	講師	弁膜症／先天性心疾患／構造的な心疾患の診断・治療
大塚 憲一郎 おおつか けんいちろう	講師	冠動脈疾患／血管病／CT・MRI・血管内画像診
柴田 敦 しばた あつし	病院講師	心不全／心筋症／心臓リハビリテーション
北田 諒子 きただ りょうこ	病院講師	心不全／心臓画像診断／心臓CT・MRI
吉山 智貴 よしやま ともたか	病院講師	不整脈／カテーテルアブレーション／デバイス植え込み
小川 真奈 おがわ まな	病院講師	弁膜症／構造的な心疾患の診断・治療
山口 智大 やまぐち ともひろ	病院講師	冠動脈疾患／低侵襲カテーテル治療／肺高血圧症
島田 健晋 しまだ たけのぶ	病院講師	虚血性心疾患／末梢動脈疾患
田村 尚大 たむら しょうた	病院講師	不整脈／カテーテルアブレーション／デバイス植え込み

主な診療実績（2022年度）

冠動脈造影検査（PCI等は除く）	345件	バルーン肺動脈形成術（BPA）	26件
冠動脈インターベンション（PCI総数）	178件	ホルター心電図	909件
末梢動脈インターベンション（EVT総数）	34件	冠動脈（心臓）CT検査	1073件
カテーテルアブレーション	189件	心臓MRI検査	125件
永久型ペースメーカー（リードレスペースメーカー含む）	67件	経胸壁心エコー検査	6992件
植え込み型除細動器（TV-ICD/S-ICD）	10件	経食道心エコー検査	424件
心臓再同期療法（CTR-P/CRT-D）	19件	下肢血管エコー検査	961件
経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）	86件	心臓リハビリテーション	4229件
経皮的僧帽弁修復術（MitraClip）	12件	心肺運動負荷試験（CPX）	213件
経皮的心房中隔欠損閉鎖術／経皮的卵円孔開閉鎖術	9件	心筋生検	39件
経皮的左心耳閉鎖術（LAAO）	10件	下大静脈フィルター留置	12件
経静脈的リード抜去術	7件		

（経静脈的リード抜去術は追加項目になります。）

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Respiratory Medicine

診療方針

慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺がん、アレルギー疾患の気管支喘息の増加など、呼吸器疾患はますます我々の日常生活を脅かすものとなりつつあります。当科外来では、幅広い呼吸器疾患に対応できるように月曜日から金曜日まで呼吸器専門医2～3名の体制にて再診、初診患者さんに対応しています。加えて、COPD外来、睡眠時無呼吸外来、化学療法センター外来などの各種の専門外来を設けて深く専門的診療も提供しています。また、安定期の患者さんのQOL（生活の質）も重視し、病診連携・病病連携にも取り組んでおり、地域の先生方と協力しながら、呼吸器疾患の診療に取り組んでいます。検査、診断、治療方針決定、呼吸器リハビリテーション、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法の導入など、多くの呼吸器疾患患者さんのご紹介をお待ちしております。

診療科の特徴

呼吸器内科は、気道・肺・胸膜・縦隔などを扱う内科です。

呼吸器関連学会の指導医・専門医を多数有し、幅広い呼吸器疾患に対応可能です。

(1) 気管支喘息

呼気一酸化窒素濃度測定、気道過敏性検査による的確な診断を行い、吸入ステロイド等の治療を導入しています。重症喘息では、生物学的製剤や最新の気管支サーモプラスティを導入しており、早期診断から治療、難治例まで、トータルマネジメント可能な体制を整えています。

(2) COPD

COPDは全世界では死因の第三位を占める重要な呼吸器疾患です。早期からの禁煙、気管支拡張薬導入に加えて、進行例では在宅酸素療法、在宅非侵襲的間欠的陽圧人工呼吸、在宅ハイフローセラピーなどの呼吸療法の導入や呼吸リハビリテーションも行っています。

(3) 肺がん

診療は呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科と複数科により連携を取り、チーム治療を実施しています。進行肺がんにおいても、気管支鏡検査、超音波検査（EBUS-TBNA）、クライオバイオプシー、局所麻酔下胸腔鏡を用いて、迅速に診断から治療につなげています。治療は最新の分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤を含めた集学的治療を行っています。

対象疾患

【主力疾患】

- 気管支喘息
- COPD
- 間質性肺炎
- 原発性肺癌
- 呼吸器感染症（肺結核を除く）
- 胸膜炎
- 慢性咳嗽
- 睡眠時無呼吸症候群

【対応できる疾患】

- 気胸
- 縦隔腫瘍
- 気管支拡張症
- 副鼻腔気管支症候群
- びまん性汎細気管支炎
- 肺サルコイドーシス
- 肺血栓塞栓症（診断のみ）



かわぐち ともや

川口 知哉

[専門・担当]

診療科部長／教授

肺腫瘍

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
金澤 博 かなざわ ひろし	准教授	COPD / 気管支喘息
浅井 一久 あさい かずひさ	診療科副部長 / 准教授	COPD / 気管支喘息
渡辺 徹也 わたなべ てつや	講師	呼吸器内科全般
佐藤 佳奈子 さとう かなこ	病院講師	呼吸器内科全般
松本 吉矢 まつもと よしや	病院講師	呼吸器内科全般
木村 達郎 きむら たつお	先端予防医療学 准教授	肺腫瘍
栩野 吉弘 とちの よしひろ	総合医学教育学 准教授	COPD / 気管支喘息 / 睡眠時無呼吸症候群
金田 裕靖 かねだ ひろやす	臨床腫瘍学 准教授	肺腫瘍
澤 兼士 さわ けんじ	臨床腫瘍学 講師	肺腫瘍
谷 陽子 たに ようこ	臨床腫瘍学 病院講師	肺腫瘍

主な診療実績

(1) 年間の通院患者数

気管支喘息 約 350 人、COPD 約 250 人、肺がん 約 350 人、間質性肺疾患 約 100 人

(2) 2022 年度の実績

・気管支鏡検査	488 件	・クライオバイオプシー	167 件
・超音波気管支鏡ガイド下針生検	125 件	・エコーガイド下針生検	10 件
・CT ガイド下針生検	3 件	・局所麻酔胸腔鏡検査	24 件

上記以外に蛍光内視鏡 (AFI) など最新の機器で対応しています。

また、運動負荷試験は年間 約 150 件施行し、労作時呼吸困難の診断・治療方針決定に取り組んでいます。他に在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法は年間 約 50 件、一泊二日の睡眠時無呼吸精密検査 (ポリソムノグラフィー) は年間 約 100 件を実施しています。

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

膠原病・リウマチ内科

Clinical Immunology and Rheumatology

ごあいさつ

2021年4月、旧膠原病内科と旧内分泌・骨・リウマチ内科のリウマチ部門を統合した膠原病・リウマチ内科を開設いたしました。当院ではこれまで全身性エリテマトーデスなどの膠原病を膠原病内科で、関節リウマチなどのリウマチ性疾患を内分泌・骨・リウマチ内科で診療しておりましたが、ご紹介いただく際、その境界が大変わかりにくいとのご指摘を多数頂いておりました。この度、膠原病・リウマチ性疾患を総合的に診療する専門科を新設することで、よりわかりやすく、ご相談頂きやすい体制を整えていきたいと考えております。今はまだ立ち上げたばかりの小規模な教室であり、至らない点多々あるかと存じますが、今後は外来・入院を含めた診療体制を充実させ、先生方のお力添えも賜りながら、本分野における地域医療の発展にお役立てできるよう日々精進していきたいと考えておりますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

診療方針

膠原病・リウマチ性疾患の症状は全身多岐に渡るため、様々な診療科が集う大学病院の特性を生かし、他の専門科と相談しながら、多角的な診察の上での診断・治療を行うよう心掛けています。一方で、これら疾患では人生を通じたフォローを必要とすることが多いため、地域医療を担う先生方との連携が不可欠であると考えています。可能な限りすべての患者さんにかかりつけ医をお持ちいただき、先生方との病病・病診連携を十分に図ることで、それぞれの長所を生かした安心感のある医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

診療科の特徴

近年の膠原病・リウマチ性疾患における治療技術の進歩は目覚ましく、様々な分子標的薬や免疫抑制薬・免疫調整薬に開発より、かつては難治性であった多くのケースでも寛解を目指せる時代になってきました。一方で、薬剤を選択する際の診断的根拠については依然未解明な部分が多く、また最新治療に対しても抵抗性を示す症例も少なからず存在しています。そこで、当科では患者さんの診療結果をデータベース化することで、その解析結果から得られるエビデンスをもとに、それぞれの症例に最も適した治療法を選択するよう、十分に検討しながら治療をすすめるようにしています。

対象疾患

【主力疾患】

- 関節リウマチ
- 全身性エリテマトーデス

【対応できる疾患】

- 多発性筋炎・皮膚筋炎
- 全身性強皮症
- 混合結合組織病
- シェーグレン症候群
- 血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、巨細胞動脈炎など）
- リウマチ性多発筋痛症 / RS3PE 症候群
- ベーチェット病
- 成人発症スチル病
- 再発性多発軟骨炎
- IgG 4 関連疾患



はしもと もとむ

橋本 求

診療科部長／教授

[専門・担当]

膠原病・リウマチ性疾患（関節リウマチ、SLE など）

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
山田 真介 やまだ しんすけ	准教授	リウマチ性疾患（関節リウマチなど）
渡部 龍 わたなべ りゅう	講師	膠原病（血管炎・肺高血圧症など）
福本 一夫 ふくもと かずお	講師	膠原病／総合診療
勝島 将夫 かつしま まさお	病院講師	膠原病／リウマチ性疾患

主な診療実績（2022年度）

外来再診患者数 1088 例		入院患者数 101 例	
関節リウマチ	385 例	全身性エリテマトーデス	20 例
全身性エリテマトーデス	197 例	血管炎症候群※	14 例
強皮症	66 例	関節リウマチ	13 例
血管炎症候群※	65 例	多発性筋炎／皮膚筋炎	10 例
シェーグレン症候群	55 例	IgG 4 関連疾患	7 例
リウマチ性多発筋痛症／RS3PE 症候群	36 例	混合結合組織病	4 例
混合結合組織病	35 例	リウマチ性多発筋痛症／RS3PE 症候群	3 例
ベーチェット病	34 例	強皮症	2 例
多発性筋炎／皮膚筋炎	33 例	シェーグレン症候群・ベーチェット病・	
IgG 4 関連疾患	24 例	成人発症スチル病・家族性地中海熱・	
成人発症スチル病	13 例	抗リン脂質抗体症候群・乾癬性関節炎・	
再発性多発軟骨炎	4 例	強直性脊椎炎	各 1 例
その他	141 例	その他	26 例

※血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、巨細胞動脈炎など）

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

生活習慣病・糖尿病センター (糖尿病・代謝内科)

外来受付

2階14番 TEL. (06) 6645-2311

初診：月～金曜 午前9時～午前10時30分

Diabetes Center

診療方針

生活習慣病・糖尿病センターでは、糖尿病をはじめ、肥満症、高血圧症、脂質異常症等の代謝関連疾患を受け持っております。これらの疾病の発症早期の予防・教育指導から進展した合併症に至るまで幅広く担当し、ご紹介のニーズに応えることができるよう努力しております。当診療科の骨・内分泌内科および腎臓内科とは、疾患の合併症や病態と関わりが深いため、分け隔てなく緊密に連携をとって診療しております。疾患の多くが慢性疾患で様々な合併症を有するという特性上、当院の他診療科とも密に連携して患者さんトータルの問題点を解決し、関連する各診療科および地域の医療機関に安心して連携して診療していただけるように尽力しております。

診療科の特徴

糖尿病、脂質異常症、肥満症などの生活習慣病の合併症の制圧を目指して、①発症早期から患者さんの生活習慣改善指導・教育を行っております。指導にあたっては専門知識を持った薬剤師、栄養士、看護師による幅広い指導で、患者さん自身が疾患に対して深く理解し継続治療できるよう支援しております。②近年は数多くの糖尿病治療薬が登場しており、高度な専門知識をもって個々の病態を詳細に分析して、患者さんの背景・ライフスタイルにもマッチした治療の選択を行います。③持続血糖モニタリング (CGM) やグルコースクランプ法を用いた専門的な病態解析や、最新の超音波や動脈硬化測定機器・高度な診断機器により、早期に合併症を評価し積極的な予防・治療介入を行っております。④1型糖尿病など特殊な糖尿病に対して、専門的なインスリン指導や、CGM 付きインスリンポンプ (SAP) やカーボカウントなど最新の治療も専門外来『iPumpCGM 外来』を設けて積極的に診療を行っております。⑤周術期、妊娠、足潰瘍・壊疽等の各種合併症治療時の糖尿病管理を他診療科との連携により積極的に行います。特に外科系など他診療科で入院される糖尿病患者さんが適切な治療を受けられるよう、当センターの Diabetes Control/Care Team (DCT) がきめ細かな血糖管理を担当しております。また糖尿病性足潰瘍・壊疽については複数の診療科から成る症例検討会『フットケアカンファレンス』を定期的で開催し、患者さまのトータルな治療に取り組んでおります。⑥原因不明の低血糖など特殊な糖代謝疾患の精密検査を行い診断につなげます。⑦『疲労』を研究・診療する『疲労クリニカルセンター』を開設し、慢性疲労症候群を中心に高度な専門診療を『慢性疲労外来』にて行っております。⑧糖尿病をはじめとする代謝異常を有する高度肥満症 (BMI 35kg/m² 以上) に対して積極的な評価・治療を行います。

対象疾患

【主力疾患】

- 2型糖尿病
- 1型糖尿病
- 糖尿病性腎症
- 脂質異常症
- 家族性高コレステロール血症
- 動脈硬化症
- 肥満症
- 高度肥満症
- 高尿酸血症
- 慢性腎不全
- 高血圧症
- メタボリックシンドローム
- 慢性疲労症候群
- 妊娠糖尿病
- 糖尿病合併妊娠

【対応できる疾患】

- 各種の低血糖症
- 糖尿病ケトアシドーシス
- 高血糖高浸透圧昏睡
- 閉塞性動脈硬化症
- 足潰瘍・足壊疽
- 糖代謝に関わる内分泌疾患



えもと まさのり

繪本 正憲

診療科部長／教授

[専門・担当]

糖尿病、糖尿病性腎症、肥満症、内分泌

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
庄司 哲雄 しょうじ てつお	研究教授	糖尿病／脂質異常症／糖尿病性腎症
塩井 淳 しおい あつし	教授	糖尿病／内分泌疾患
森 克仁 もり かつひと	准教授	糖尿病／糖尿病性腎症
森岡 与明 もりおか ともあき	診療科副部長／准教授	糖尿病／肥満症／先進糖尿病治療
越智 章展 おち あきのぶ	講師	糖尿病／糖尿病足病変／糖尿病性腎症
山崎 祐子 やまざき ゆうこ	講師	糖尿病／周術期血糖管理
角谷 佳則 かくたに よしのり	病院講師	糖尿病／先進糖尿病治療
倉恒 弘彦 くらつね ひろひこ	客員教授	慢性疲労症候群

主な診療実績（2022年度）

2型糖尿病（入院）：	182例
1型糖尿病（入院）：	27例
高血糖緊急症（入院）：	10例
低血糖症（入院）：	5例
糖尿病足病変（入院）：	15名
外来フットケア：	80名
DCTによる他科入院患者の血糖管理：	465例
うち産科周産期血糖管理：	50例
インスリンポンプ療法：	33例
うちSAP療法：	9例
透析予防外来（腎症進行予防外来）：	193件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Nephrology

診療方針

当科は、腎炎・ネフローゼ症候群の治療を中心に、糖尿病性腎症や腎硬化症による慢性腎臓病（CKD）の管理から透析導入にいたるまで、腎疾患全般を診療対象とし、幅広くかつ専門性の高い診療を行っております。それぞれの腎疾患の病態に合わせた治療とともに、多彩な合併症に対しても多面的な診断と治療を行います。当科の外来診療は、生活習慣病・糖尿病センター、骨・内分泌内科と同じフロアで行われており、病棟診療も互いの診療科で協力し合い、ご紹介いただきました患者さんの腎疾患をトータルに診療させていただくことができるというのが最大の特色であります。地域医療機関との連携を密にし、理想的な医療環境の構築に努力いたして参ります。

診療科の特徴

健診で血尿・蛋白尿を指摘された方から、ネフローゼ症候群を呈するような重篤な症例まで、幅広く対応しております。特に、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の診断および治療は腎臓内科の特色であり、当科でも腎生検による正確な病理診断をおこない、ステロイド治療をはじめ、種々の免疫抑制剤併用療法、血液浄化法の併用による治療を積極的に行っております。最近では、IgA腎症に対し、扁桃摘出術・ステロイドパルス療法も行い、良好な実績をあげております。また、慢性腎臓病（CKD）の対策にも力を入れており、腎機能低下を防ぐため、降圧治療・減塩・栄養指導に努めております。CKDが進行した場合、当院の人工腎部と協力し、透析導入もおこなっております。現在、透析導入の原因疾患の一位である糖尿病に対しては、生活習慣病・糖尿病センターと協力し、軽症の糖尿病性腎症から透析導入に至るまですべての腎症病期に対応可能です。

対象疾患

【主力疾患】

- CKD
- 微小変化型ネフローゼ症候群
- 巣状分節性糸球体硬化症
- ループス腎炎
- 膜性腎症
- 膜製増殖性糸球体腎炎
- IgA腎症
- IgA血管炎
- 急速進行性糸球体腎炎
- 間質性腎炎
- 糖尿病性腎症
- 腎アミロイドーシス
- 多発性嚢胞腎

【対応できる疾患】

- 腎炎・ネフローゼ症候群全般
- 急性腎障害
- 電解質異常
- 末期腎不全



えもと まさのり

繪本 正憲

[専門・担当]

診療科部長／教授

糖尿病性腎症、慢性腎臓病（CKD）、透析療法

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
森 克仁 もり かつひと	診療科副部長／准教授	糖尿病性腎症／糸球体腎炎／ネフローゼ症候群／慢性腎臓病（CKD）／透析導入
津田 昌宏 つだ あきひろ	講師	糸球体腎炎／ネフローゼ症候群／糖尿病性腎症／慢性腎臓病（CKD）／透析導入
仲谷 慎也 なかに しんや	講師	糸球体腎炎／ネフローゼ症候群／糖尿病性腎症／慢性腎臓病（CKD）／多発性嚢胞腎／透析導入
上殿 英記 うえどの ひでき	病院講師	糸球体腎炎／ネフローゼ症候群／糖尿病性腎症／慢性腎臓病（CKD）／透析導入

取り組み

①検尿異常、ネフローゼ症候群、原因不明の腎障害等に対し、年間100例前後の方に、エコーガイド下の腎生検を行っております。光学顕微鏡、蛍光抗体法、必要な症例には電子顕微鏡も行い、正確な病理診断のもと治療方針を決定いたします。②糖尿病性腎症進行予防外来（透析予防外来）：医師・看護師・管理栄養士による専門外来。早期から進展した糖尿病性腎症まで、腎症進行を防ぐため、薬物・食事・生活指導（集約的治療）に対応しています。（担当医：森 克仁、他）。③糸球体濾過量（GFR）測定ゴールドスタンダードであるイヌリンクリアランスを測定し（担当医：津田 昌宏、他）、腎移植症例をはじめ腎機能の正確な評価もおこなっています。④多発性嚢胞腎のトルバプタン治療を行っております（担当医：仲谷 慎也、他）。⑤血液透析導入、腹膜透析導入、各種血液浄化法を行います（担当：泌尿器科・人工じん部と協力）

主な診療実績（2022年度）

入院患者数：	375例
腎生検：	120例
透析導入：	37例
多発性嚢胞腎（トルバプタン新規導入）：	5例
IgA腎症（口蓋扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法）：	23例
ANCA関連血管炎（免疫抑制療法）：	12例
（血漿交換）：	4例
糖尿病透析予防外来（指導）：	193件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

骨・内分泌内科（内分泌内科）

Endocrinology

診療方針

骨・内分泌内科（内分泌内科）では、さまざまな内分泌疾患、代謝性骨疾患を受け持っており、最新のエビデンスに基づく高度医療を提供いたします。さらに、これらの疾患は多彩な合併症を有していることが多く、御紹介頂く患者さんにも多くの病態が合併することが考えられます。当診療科では症例カンファレンスを生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科と合同して行うことにより、内分泌診療以外にも内科全般の病状管理を行い全人的な医療を提供することを心がけています。病状が安定した状態では、地域医療機関との連携により治療を継続することを心がけ、病診連携の確立など地域医療への貢献にも努力しています。

診療科の特徴

内分泌部門では、日常診療で見逃されやすい甲状腺・副腎・下垂体疾患や核酸代謝異常などを中心に内分泌疾患全般の診断・治療を行っています。スクリーニング検査で偶発的に発見された副腎腫瘍につきましても、短期間の検査入院で、その評価をいたします。また、甲状腺腫瘍につきましても、耳鼻咽喉科と連携しております。

骨部門では、代謝性骨疾患の診断・治療を行っています。代謝性骨疾患の代表である骨粗鬆症につきましても、重症例・難治症例をご紹介いただいております。その評価と最適治療法の提示をいたします。原発性副甲状腺機能亢進症や2次性副甲状腺機能亢進症・特発性副甲状腺機能低下症といったカルシウム・リン代謝異常症についての診療実績が豊富です。骨パジェット病、低リン血症性くる病・骨軟化症のような稀な疾患についても、骨生検を含めた積極的な検査と最新の治療を行っており、近畿圏のみならず全国より患者さんをご紹介いただいております。

対象疾患

【主力疾患】

- バセドウ病 ●橋本病 ●甲状腺腫瘍 ●副腎腫瘍 ●クッシング症候群 ●原発性アルドステロン症
- 褐色細胞腫 ●クッシング病 ●先端巨大症 ●プラクチノーマ ●下垂体機能低下症
- 尿崩症 ●骨粗鬆症（原発性・二次性） ●原発性副甲状腺機能亢進症 ●副甲状腺機能低下症
- 低リン血症性くる病・骨軟化症 ●高尿酸血症・痛風

【対応できる疾患】

- MEN1 ●MEN2 ●インスリノーマ ●下垂体炎 ●免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害
- 低尿酸血症 ●アジソン病 ●その他の内分泌疾患（甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、性腺など）
- 骨パジェット病 ●その他の代謝性骨疾患



えもと まさのり

繪本 正憲

診療科部長／教授

[専門・担当]

内分泌・糖尿病

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
塩井 淳 しおい あつし	教授	内分泌／糖尿病
今西 康雄 いまにし やすお	診療科副部長／准教授	代謝性骨疾患／カルシウム・リン代謝
藏城 雅文 くらじょう まさふみ	講師	内分泌／尿酸代謝
永田 友貴 ながた ゆうき	講師	内分泌／甲状腺疾患
都井 律和 とい のりかず	病院講師	内分泌

主な診療実績（2022年度：入院）

代謝性骨疾患／カルシウム・リン代謝異常症	97名
副腎疾患	78名
視床下部・下垂体疾患	41名
電解質異常	14名
糖・核酸代謝関連	2名
その他	4名

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Gastroenterology

診療方針

当科は大阪市内唯一の大学病院の消化器内科として各種消化器内視鏡の検査や治療、消化管疾患の診療に精力的に取り組んでいます。一般市中病院では診断や治療が難しい消化器疾患を大学病院として積極的に受け入れ、大学病院ならではの最新の検査・治療を行っております。地理的に利便性の高い本院の特色を生かして、地域医療を担っておられる御施設、先生方と連携し、高度な診療を提供して参りたいと思っておりますので、宜しく御願致します。

診療科の特徴

当科の診療は食道から胃、小腸、大腸、胆膵を含む全ての消化器疾患を網羅しています。特に消化管腫瘍、胃食道逆流症、食道運動障害（食道アカラシア等）、好酸球性消化管疾患、機能性消化管疾患、小腸疾患、炎症性腸疾患、胆膵疾患に関しては、一般市中病院では対応困難な先進的な検査や治療を取り入れています。消化管腫瘍に対しては早期癌に対する内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）や化学療法を重点的に行っています。最近注目されている好酸球性消化管疾患、炎症性腸疾患については、日本有数の高い診療実績があります。小腸疾患についてはカプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡検査に取り組み、胆膵疾患については内視鏡治療や、超音波内視鏡による精査、穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）を行うなど、積極的に取り組んでいます。

対象疾患

【主力疾患】

- 胃・十二指腸潰瘍 ● H. pylori 感染症 ● 胃癌 ● 食道癌 ● 大腸癌 ● 胆道癌・膵癌
- 胃食道逆流症 ● 食道運動障害（食道アカラシア等） ● 好酸球性消化管疾患 ● 機能性消化管疾患
- 小腸疾患 ● 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管ペーチェット病等）
- 胆膵疾患（内視鏡検査・治療） ● 大腸ポリープ

【対応できる疾患】

- 咽頭腫瘍（内視鏡治療） ● 胃ポリープ ● 消化管ポリポース ● 消化管悪性リンパ腫
- 消化管神経内分泌腫瘍 ● 消化管粘膜下腫瘍 ● 自己免疫性胃炎 ● 胃・食道静脈瘤 ● 消化管出血
- 消化管感染症 ● 虚血性腸炎



ふじわら やすひろ

藤原 靖弘

[専門・担当]

診療科部長／教授

上部消化管

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
平良 高一 たいら こういち	診療科副部長／准教授	上部消化管／化学療法
永見 康明 ながみ やすあき	准教授	上部消化管
田中 史生 たなか ふみお	准教授	上部消化管
鎌田 紀子 かまた のりこ	総合医学教育学 講師	下部消化管
細見 周平 ほそみ しゅうへい	講師	下部消化管
大谷 恒史 おおたに こうじ	講師	上部消化管
福永 周生 ふくなが しゅうせい	講師	上部・下部消化管
灘谷 祐二 なだたに ゆうじ	先端予防医療学 講師	上部消化管
大南 雅揮 おおみなみ まさき	講師	上部消化管
丸山 紘嗣 まるやま ひろつぐ	病院講師	胆道・膵臓
西田 裕 にしだ ゆう	病院講師	下部消化管
東森 啓 ひがしもり あきら	病院講師	上部消化管
沢田 明也 さわだ あきなり	病院講師	上部・下部消化管
田上 光治郎 たのうえ こうじろう	病院講師	胆道・膵臓
中田 理恵子 なかた りえこ	病院講師	下部消化管
垣谷 有紀 かきや ゆき	病院講師	胆道・膵臓
中田 晃暢 なかた あきのぶ	病院講師	上部消化管／化学療法

主な診療実績（2022年度）

上部消化管内視鏡検査	APC（上部・下部）	EUS・FNA
ESD・上部EMR	ERCP・EST	上部・下部バルーン拡張術
胃食道静脈瘤治療	下部消化管内視鏡検査	大腸ポリペクトミー・EMR
高解像度食道内圧検査	小腸内視鏡検査（カプセル・バルーン）	POEM（内視鏡的筋層切開術）

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

肝胆膵内科

(肝臓・胆嚢・膵臓内科)

外来受付

2階16番 TEL. (06) 6645-2316

午前8時45分～午後4時45分 [平日]

[初診：月火水木金 / 午前9時～午前10時30分]

Internal Medicine; Hepato-Biliary-Pancreatic Diseases

診療方針

大阪公立大学医学部附属病院は大阪府肝疾患診療連携拠点病院に指定されており、厚生労働省が推進するウイルス性肝炎とそれに基づく肝癌撲滅への政策を実現するために活動しています。肝胆膵内科は院内に11名の日本肝臓学会専門医を有し、診療・教育・研究活動を行いつつ、病病、病診連携を推進し、また、最新の医学情報を市民の皆様にお届けすべく市民公開講座や肝臓病教室を定期的に行っております。一方、近年増加傾向にある胆道・膵臓系の癌に対してもがん化学療法の専門医が最新の治療を提供しています。また、ウイルス性肝炎や肝胆膵癌の新薬治験も行っておりますのでお問い合わせください。

診療科の特徴

肝胆膵内科では、肝疾患を中心に胆・膵領域の疾患も含めて診断・治療を行っています。C型肝疾患に対する直接作用型抗ウイルス薬(DAA)治療およびB型肝疾患へのインターフェロンや核酸アナログ治療を精力的に行っています。また臨床治験も数多く導入しており、患者さんにいち早く新薬を使用できるように体制を整えています。

肝細胞癌に対する局所治療の症例数は大阪でも有数であります。外科や放射線科と密に連携を取り治療を行っています。当科の特徴として人工胸腹水併用や腹腔鏡併用下で治療を行っており、通常の経皮的治療困難症例も施行可能です。また胆道癌・膵癌に対する化学療法も最新のレジメンにて対応しています。

超音波を用いて体外的に肝臓の硬さを測定したり、肝疾患の栄養療法に積極的に取り組んで実績を上げるなど、他施設にはない試みも行っています。

対象疾患

[主力疾患]

- 急性肝炎
- 慢性肝炎
- 肝硬変
- 肝癌
- 自己免疫性肝疾患
- 原発性胆汁性胆管炎
- 脂肪肝・脂肪肝炎
- 急性アルコール性肝炎 (アルコール依存症は対象外)
- 肝のう胞
- 薬剤性肝障害
- 肝腫瘍
- 体質性黄疸
- 特発性門脈圧亢進症
- 胆石
- 胆嚢ポリープ
- 胆嚢腫瘍
- 急性膵炎
- 慢性膵炎
- 膵腫瘍

[対応できる疾患]

- 代謝性肝疾患



かわだ のりふみ

河田 則文

診療科部長／教授

[専門・担当]

肝疾患全般

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
榎本 大 えのもと まさる	診療科副部長／病院教授	肝疾患全般／ウイルス性肝炎
打田 佐和子 うちだ さわこ	准教授	肝疾患全般／肝癌局所治療
藤井 英樹 ふじい ひでき	講師	肝疾患全般／脂肪性肝疾患
萩原 淳司 はぎはら あつし	講師	肝癌／胆道癌／膵癌
川村 悦史 かわむら えつし	講師	肝胆膵疾患全般
小塚 立蔵 こづか りつぞう	講師	肝胆膵疾患全般
元山 宏行 もとやま ひろゆき	病院講師	肝胆膵疾患全般
小谷 晃平 こたに こうへい	病院講師	肝胆膵疾患全般
小田桐 直志 おだぎり なおし	病院講師	肝胆膵疾患全般
武藤 芳美 むとう よしみ	病院講師	肝胆膵疾患全般

主な診療実績（2022年度）

肝細胞癌に対する局所治療		肝細胞がんに対する肝動注	16 件
[ラジオ波]	22 件	肝細胞がんに対する全身抗がん剤治療導入	42 例
[マイクロ波]	9 件	慢性 C 型肝炎・肝硬変への抗ウイルス治療	37 件
[エタノール注入]	0 件	慢性 B 型肝炎・肝硬変への抗ウイルス治療	17 件
肝生検	150 件	胆管がんに対する全身抗がん剤治療導入	11 例
肝細胞がんに対する肝動脈塞栓	154 件	膵臓がんに対する全身抗がん剤治療導入	20 例

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

小児科 (新生児)

Pediatrics (Neonatology)

診療方針

新生児から思春期までこどもの健康をまもるために診療しております。新生児部門は在胎24週の早期産や400gに満たない超低出生体重児を治療できる新生児集中治療室 (NICU) を9床設置し、産科と合同でカンファレンスを開き地域周産期医療センターとして府下全域から母子を受け入れております。小児内科では、先天代謝異常症などの希少疾患から、アトピー性皮膚炎・ぜん息などのアレルギー疾患まで幅広く診療しております。また白血病や悪性腫瘍、難治性てんかんなど長期入院の患者さんのために療養環境の改善にもつとめています。医療的ケア児の付き添いなしでの入院も受け入れ可能です。さらに小児センターとして小児内科だけでなく小児外科と協力して虫垂炎やヘルニアなども入院管理をおこなっておりますので先生方からの御紹介をお待ちしております。

診療科の特徴

新生児マススクリーニングの精査機関として、フェニルケトン尿症を初めとするアミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症・脂肪酸代謝異常症などを専門的に診療しています。大阪府難病診療連携拠点病院として、ムコ多糖症・ファブリー病などのライソゾーム病をはじめとして、先天代謝異常症を中心に高度先進医療を提供しています。小児血液腫瘍疾患については、小児がん拠点病院の近畿ブロックの連携病院として質の高い小児がん医療と療養支援を提供しています。小児糖尿病については、皮下センサーと連動したインスリンポンプ (SAP) など先進的なデバイス導入を積極的に実施し、患者会活動を通じたピアサポートも充実しています。小児神経疾患としては、てんかん診療に注力しており、難治性てんかんの薬物治療をはじめ、包括的専門的医療を提供するてんかんセンターとして、脳神経外科による外科手術にも対応しています。拡大新生児スクリーニング対象疾患である脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療可能施設です。遺伝性疾患に対しては、小児ゲノム診療外来を設置し、認定遺伝カウンセラーによるカウンセリングを提供しています。

対象疾患

[主力疾患]

- フェニルケトン尿症
- ムコ多糖症
- ゴーシェ病
- ポンペ病
- ファブリー病
- てんかん
- 新生児疾患
- 新生児外科疾患
- 糖尿病
- 急性リンパ性白血病
- 急性骨髄性白血病
- 悪性リンパ腫
- 神経芽腫
- 特発性血小板減少症
- 再生不良性貧血
- アレルギー疾患
- 小児生活習慣病
- 脊髄性筋萎縮症

[対応できる疾患]

- 末梢神経障害
- 筋疾患
- 発達障害
- 注意欠陥多動性障害
- 神経免疫疾患
- 脳変性疾患
- Wilms 腫瘍
- 肝芽腫
- 横紋筋肉腫
- ユーイング肉腫
- 好中球減少症
- 脳腫瘍
- ガングリオシドーシス
- ロイコジストロフィー
- その他先天代謝異常症
- 循環器疾患
- ニーマンピック病
- 神経伝達物質病
- 急性髄膜炎
- けいれん群発・重積症



はまざき たかし

濱崎 考史

診療科部長／教授

[専門・担当]

先天代謝異常症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
時政 定雄 ときまさ さだお	准教授	血液／悪性腫瘍
瀬戸 俊之 せと としゆき	准教授／病院教授	小児神経・代謝疾患／遺伝性疾患
佐久間 悟 さくま さとる	講師	小児神経疾患／てんかん
大西 聡 おおにし さとし	講師	新生児
田中 えみ たなか えみ	講師	新生児
服部 妙香 はっとり たえか	講師	小児神経疾患
平井 香 ひらい かおる	病院講師	児童精神医学／ 自閉スペクトラム症を中心とした神経発達症
柚山 賀彦 ゆやま よしひこ	病院講師	糖尿病

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Neuropsychiatry

診療方針

外来では、専門医療を中心に、統合失調症、双極性障害（躁うつ病）、うつ病、不安障害、摂食障害、児童の精神障害、老年期の精神障害や認知症、身体疾患に伴う精神障害、職場不適応や職場に関係して生じる精神障害全般にわたり広い範囲での診療を行い、最良の治療を提供することを目指しています。入院治療では、大学病院にある神経精神科として先進医療の提供に取り組み、また、精神科病院や精神科診療所と連携し役割分担を行い、身体合併症の治療等を優先的に行っています。病棟は閉鎖病棟ですが、できる限り開放的処遇を図り、短期入院治療を中心に行っています。

診療科の特徴

統合失調症、双極性障害（躁うつ病）、うつ病、老年期の精神障害など、精神科全般にわたる疾患について、主に薬物療法による治療を行っています。総合病院の特性を活かし、他診療科とのリエゾン・コンサルテーション精神医療、緩和ケアチームへの参画も行っています。児童の専門外来では、外来中心の治療を行っています。摂食障害については1980年頃より数多くの治療経験と実績を持っており、種々の精神療法、行動療法、薬物療法などを併用して治療を行っています。外来治療が中心ですが、短期間の入院治療も行っています。もの忘れ外来では、心理・行動症状を呈する認知症の診断、治療を中心に行っています。

対象疾患

【主力疾患】

- 統合失調症 ● 双極性障害（躁うつ病） ● うつ病 ● 不安障害 ● 職場の精神障害
- 老年期精神障害と認知症 ● 児童の精神障害 ● 摂食障害

【対応できる疾患】

- その他一般精神疾患



いのうえ こうき

井上 幸紀

[専門・担当]

診療科部長／教授

精神科疾患全般、産業精神医学、ストレスの生化学、気分障害

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
岩崎 進一 いわさき しんいち	診療科副部長／准教授	精神科疾患全般／産業精神医学／神経症性障害
山内 常生 やまうち つねお	講師	精神科疾患全般／摂食障害／産業精神医学
出口 裕彦 でぐち やすひこ	講師	精神科疾患全般／産業精神医学／うつ病／双極性障害
原田 朋子 はらだ ともこ	講師	精神科疾患全般／摂食障害
影山 祐紀 かげやま ゆうき	講師	精神科疾患全般／うつ病／双極性障害／気分障害の分子生物学的研究
丸田 純平 まるた じゅんぺい	講師	精神科疾患全般／老年精神医学／認知症
後藤 彩子 ごとう あやこ	助教	精神科疾患全般／児童精神医学
黒住 日出夫 くろずみ ひでお	病院講師	精神科疾患全般／老年精神医学／認知症
太尾 恵理 ふとお えり	特任助教	精神科疾患全般／大学生のメンタルヘルス

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Dermatology

診療方針

皆様こんにちは。我々の診療科は、「難治性皮膚疾患の臨床研究拠点」を目指して日夜努力しております。皮膚疾患は大きく炎症性皮膚疾患と皮膚腫瘍に分類できると思います。炎症性皮膚疾患ではアレルギー疾患、アトピー性皮膚炎、乾癬、水疱症、脱毛症の中でも入院を要するようなレベル、そしていろいろな医院や病院にて通常治療ではコントロールできないようなレベルをコントロール可能なレベルにすることを目標としています。また、皮膚腫瘍では治療可能な状態では、オーソドックスで的確な治療を心がけ、現在治療が難しい状態は可能な限りの最善を尽くす、そして将来は治療可能となる研究を進めることを目指す診療科でありたいと思っています。

診療科の特徴

地域住民が安心して受診でき、地域の医師が安心して紹介できる施設を目指しております。当院は性質上、急性期を扱う特定機能病院であるので、必要であれば速やかに入院対応できることも特徴としています。理念としては、1) 現代医学的に見て最善と思われる医療を提供する、2) わかりやすい納得できる説明を行う、3) 他の医療機関から安心して紹介できる病院となる、の3つがあります。疾患としては薬疹や接触皮膚炎などに対して、アレルギー検査は包括的に行えると自負致しております。アトピー性皮膚炎では教育入院も含めた総合的治療・診断・生活習慣指導を行い病状に応じて生物学的製剤やJAK阻害剤による治療を行います。乾癬では的確な外用療法指導、光線治療から最先端の生物学的製剤治療までをカバーします。また、乾癬によく合併する関節症状については当院膠原病・リウマチ内科および整形外科と積極的に連携して治療にあたっています。水疱症では、診断の難しいケースも、種々の分子生物学的・組織学的手法を用いて診断いたします。その上で、ステロイドを始めとする全ての免疫抑制療法や免疫グロブリン大量療法、血漿交換療法まで対応できます。脱毛症では、円形脱毛症に対するステロイドパルス療法も含めて、診断・治療を積極的に行っております。白斑などの色素異常についても外用療法・光線療法を行っています。一方、皮膚腫瘍ではメラノーマ、有棘細胞癌、基底細胞癌を始め各種皮膚腫瘍を扱っています。皮膚悪性腫瘍取り扱い規約やガイドラインに則った治療、特に正確な手術療法、積極的な化学療法および免疫チェックポイント阻害剤や低分子化合物による治療、的確な放射線療法を行うことをモットーとしています。また、外来手術室を整備しできるだけ速やかな治療を行えるようにしています。強皮症を始めとする膠原病についても当院膠原病・リウマチ内科と積極的に連携して治療にあたっています。

対象疾患

[主力疾患]

- アトピー性皮膚炎
- 接触皮膚炎
- 薬疹
- 乾癬
- 水疱症（天疱瘡・類天疱瘡）
- 蕁麻疹
- 掌蹠膿疱症
- 脱毛症
- 白斑
- メラノーマ
- 有棘細胞癌
- 基底細胞癌
- 膠原病
- 血管炎
- 遺伝性皮膚疾患

[対応できる疾患]

- リンパ腫
- 結節性紅斑
- スイート病
- ベーチェット病
- 光線過敏症
- サルコイド
- 皮膚感染症



つるた だいすけ

鶴田 大輔

[専門・担当]

診療科部長／教授

水疱症、乾癬、炎症性皮膚疾患

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
今西 久幹 いまにし ひさよし	診療科副部長／准教授	毛髪疾患／アトピー性皮膚炎
立石 千晴 たていし ちはる	健康・医療イノベーション学 准教授 皮膚科兼務	水疱症／乾癬／アトピー性皮膚炎／炎症性皮膚疾患
大霜 智子 おおしも ともこ	講師	皮膚科全般／アトピー性皮膚炎
平田 央 ひらた ちか	講師	皮膚科全般／皮膚腫瘍
廣保 翔 ひろやす しょう	講師	皮膚科全般／自己免疫性水疱症／白斑
後藤 寛之 ごとう ひろゆき	病院講師	皮膚腫瘍／皮膚外科／皮膚病理学
林 恵理子 はやし えりこ	病院講師	皮膚科全般／皮膚アレルギー疾患
小澤 俊幸 おざわ としゆき	特任教授	皮膚整容外科／皮膚腫瘍／レーザー／創傷治癒

専門外来

専門外来（乾癬バイオ外来、アトピー性皮膚炎外来、水疱症外来、脱毛専門外来、腫瘍外来、白斑外来）

主な手術や処置の件数（2022年度）

皮膚良性腫瘍	171 件
皮膚悪性腫瘍（総数）	116 件
有棘細胞癌	24 件
基底細胞癌	32 件
乳房外 Paget 病	15 件
悪性黒色腫	17 件
Bowen 病	22 件
その他の皮膚悪性腫瘍	6 件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Diagnostic and Interventional Radiology

診療方針

当科は大きく画像診断と IVR（画像診断を応用した非外科的低侵襲治療）の2部門に分かれています。

画像診断においては、院内の各診療科からの依頼に応じて専門的知識に基いた適切な指示のもと各種の画像検査を行い、ほぼ全ての画像は放射線科医が読影し画像診断報告書を作成しております。地域の医療機関からの直接の検査依頼は受け付けておりませんが、院内各科からのコンサルトは随時受け付けております。

IVR においては、IVR 専門外来・病床を有しており、地域の医療機関ならびに院内各科からの依頼に応じて、IVR 治療を行っております。放射線科以外の各診療科に紹介や入院された患者さんにおきましても、IVR 治療の適応がある場合には、当科の IVR スタッフが治療に当たらせていただいております。

診療科の特徴

画像診断部門においては、2台の最新鋭の320列CTと2台の64列CT、3台の3Tと1台の1.5TのMRIの医療機器を用いて検査を行っています。検査は概ね全て放射線科医が担当し年間CTが約6万件、MRIが約2万件の検査を行っており、これは全国の公立大学病院で群を抜いて多い件数です。各臨床科とも共同で臨床治験なども行っています。

IVR 部門においては、血管造影撮影装置搭載 Cone-beam CT と IVR-CT の2台を使用し、年間約900-1000件の治療を行っています。血管系 IVR とラジオ波焼灼術に力を入れ、特に門脈圧亢進症に対する治療については国内有数の症例数です。内訳は選択情報をご参照ください。

対象疾患

[主力疾患]

- 肝細胞癌
- 転移性肝癌
- 胃静脈瘤
- 肝性脳症
- 経頸静脈的肝生検（診断のみ）
- 閉塞性動脈硬化症
- 胸腹部大動脈瘤
- 肺癌
- 転移性肺癌
- 内分泌腫瘍（選択的静脈サンプリング）（診断のみ）
- 内臓動脈瘤
- 子宮筋腫

[対応できる疾患]

- バット・キアリ症候群に対する静脈閉塞解除術
- 難治性腹水に対する経静脈的門脈静脈短絡作成術（自費診療）
- 腎血管性高血圧症に対する腎血管拡張術
- 多発性嚢胞腎に対する腎動脈塞栓術
- 血管内異物除去
- 異所性静脈瘤に対する静脈塞栓術
- 動静脈奇形に対する塞栓術
- 動脈性消化管出血に対する塞栓術
- 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術
- 脾腫に対する脾動脈塞栓術
- 腎腫瘍に対するラジオ波焼灼術
- 圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術
- 膿瘍に対するCTガイド下ドレナージ術
- 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術
- 胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術



みき ゆきお

三木 幸雄

[専門・担当]

診療科部長／教授

画像診断（中枢神経）

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
下野 太郎 しもの たろう	診療科副部長／准教授	画像診断（全般）
山本 晃 やまもと あきら	准教授	放射線カテーテル治療
城後 篤志 じょうご あつし	講師	放射線カテーテル治療
立川 裕之 たてかわ ひろゆき	講師	画像診断
影山 健 かげやま けん	講師	画像診断／放射線カテーテル治療
立川 裕之 たてかわ ひろゆき	講師	画像診断
田北 大昂 たきた ひろたか	講師	画像診断
塚本 太郎 つかもと たろう	病院講師	画像診断
出口 亮 でぐち りょう	病院講師	放射線カテーテル治療／救急医学
前林 真理子 まえばやし まりこ	後期研究医	画像診断／放射線カテーテル治療
森本 真美 もりもと まみ	後期研究医	画像診断
村井 一超 むらい かずき	後期研究医	画像診断／放射線カテーテル治療
阪中 英里加 さかなか えりか	後期研究医	画像診断
富田 雄一郎 とみた ゆういちろう	後期研究医	画像診断
酒井 峻介 さかい しゅんすけ	後期研究医	放射線カテーテル治療／救急医学
前田 裕之 まえだ ひろゆき	後期研究医	画像診断

主な診療実績（2022年度）

肝臓癌に対する動注塞栓術（TACE）	237件	造影診断	84件
肝臓癌に対する動脈塞栓術（TAE）	18件	動脈硬化性下肢動脈狭窄に対する治療（EVT・PTA）	35件
肝臓癌に対する動注療法（TAI）	30件	外傷や術後出血に対するTAE	58件
肝臓癌に対するエタノール注入療法（PEIT）	1件	CTガイド下ドレナージ	39件
副腎静脈サンプリング	5件	PICC/CVポート	85件
胃静脈瘤・肝性脳症に対するBRTO	28件	PICC/CVカテーテル	146件
T2EL塞栓	7件	脾動脈部分塞栓術（PSE）	7件
腎瘻造設	6件	経静脈的肝生検（TJLB）	19件
肝・肺・腎癌に対するラジオ波（RFA）	35件	胸部大動脈瘤に対するステントグラフト（TEVAR）	14件
内臓動脈瘤に対する塞栓術	20件	腹部大動脈瘤に対するステントグラフト（EVAR）	43件
リンパ管造影	20件	経皮経肝的門脈塞栓術（PTPE）	9件
バドキアリ症候群に対する血管拡張術（PTA）	4件	子宮動脈塞栓術（UAE）	15件
内臓神経ブロック	8件	気管支動脈塞栓術（BAE）	4件
下肢静脈瘤に対するRFA	6件	開腹下挙上空腸塞栓	1件
動静脈奇形に対する塞栓術（TAE）	11件	経皮経肝的硬化療法（PTS）	8件
難治性腹水に対するデンプーシャント	1件	動脈動注リザーバー	4件
難治性腹水に対するTIPS	1件	血流改変	1件
IVCフィルター	1件	合計	1046件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Radiation Oncology

診療方針

放射線治療は、手術療法、化学療法とともにがん治療の3本柱の一つです。ほぼすべてのがん（悪性腫瘍）が放射線治療の対象となります。機能や形態の温存が可能で、低侵襲かつ先進的な治療法として、がん医療の中で多くの役割を担っています。近年の放射線照射技術の進歩は目覚ましく、米国ではがん患者さんの約3分の2が放射線治療を受けています。根治（完治）を目指す治療にも、辛い症状を和らげるための緩和的治療としても幅広く対応できることが特徴のひとつでもあります。また、手術や薬物療法と合わせた集学的治療の一環として、治療成績の向上や身体的負担の軽減を目指した新規治療にも複数の診療科とともに取り組んでいます。

地域医療を担っておられるご施設、先生方と連携し、今後とも、質の高い治療を提供して参りたいと思います。また、放射線治療の適応に迷われる症例のご相談も随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

診療科の特徴

当院では通常の放射線治療だけでなく、高精度放射線治療と呼ばれる先進的な治療に早くから取り組んできました。高精度放射線治療には強度変調放射線治療 (IMRT) / 強度変調回転放射線治療 (VMAT)、定位放射線治療、画像誘導放射線治療といった治療法・照射技術が含まれます。IMRT は腫瘍に放射線を集中し、隣接する正常臓器に対しては影響を低く抑えることのできる体にやさしい治療法です。VMAT はその応用型で、照射装置を回転しながらIMRTを行います。当院では全国に先駆けてVMATを開始しましたが、現在ではこの方法が主流となっています。これによって治療時間も大幅に短縮し、患者さんの負担軽減につながっています。定位放射線治療とは、5cm以下の小さい病変に対して、三次元的に多方向からミリ単位の精度で放射線を照射することのできる治療法です。ピンポイント照射とも呼ばれています。画像誘導放射線治療とは治療直前に骨や腫瘍の位置を画像で確認し、正確に位置合わせを行う方法です。

これらの治療を患者さんに安心して受けて頂けるよう、放射線治療専門医、がん放射線療法看護認定看護師、放射線治療専門技師、医学物理士などの専門職を配し充実したスタッフで体制を整えています。

また、当院では2022年度よりMR リニアック (Unity、エレクタ社製) が稼働を開始しています。これは体内にある腫瘍をMRIにてリアルタイムに、かつ三次元的に視認しながら放射線を狙い撃ちすることのできる画期的な装置です。画像工学やIT技術の進歩と相俟って、これまで以上に体にやさしい、新たな治療法を提供できる装置として、多くの可能性が期待されています。日本ではまだ殆ど稼働していませんが、西日本では当院が唯一、使用可能な施設となります。

対象疾患

【主力疾患】

- 脳腫瘍
- 頭頸部腫瘍
- 肺がん
- 乳がん
- 食道がん
- 膵臓がん
- 直腸がん
- 前立腺がん
- 子宮がん
- 皮膚悪性腫瘍
- 転移性腫瘍

【対応できる疾患】

- 甲状腺がん
- 肝がん
- 肝・胆道系腫瘍
- 膀胱がん
- 肛門がん
- 骨・軟部悪性腫瘍
- 血液 悪性腫瘍
- 小児がん
- 甲状腺眼症
- ケロイド



しづや けいこ

澁谷 景子

診療科部長／教授

[専門・担当]

放射線治療全般

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
細野 雅子 ほその まさこ	准教授	放射線治療全般
井口 治男 いのくち はるお	講師	放射線治療全般
荻野 亮 おぎの りょう	講師	放射線治療全般
林 謙治 はやし けんじ	病院講師	放射線治療全般
椋本 宜学 むくもと のぶたか	病院講師	医学物理学、放射線治療計画
椋本 直希 むくもと なおき	後期研究医	放射線治療全般
山岸 睦美 やまぎし むつみ	後期研究医	放射線治療全般
糸山 廣重 いとやま ひろしげ	前期研究医	放射線治療全般
阪上 茉衣 さかがみ まい	大学院・医員	放射線治療全般
濱浦 信成 はまうら のぶなり	大学院・医員	放射線治療全般

主な診療実績（2022年度）

脳・脊髄	31件	婦人科	25件
頭頸部（甲状腺含む）	41件	泌尿器	80件
食道	26件	うち前立腺	67件
肺・気管・食道	140件	造血器リンパ系	29件
うち肺	135件	皮膚・骨・軟部	23件
乳腺	153件	その他の悪性	4件
肝・胆・膵	42件	良性	23件
胃・小腸・結腸・直腸	13件		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Nuclear Medicine

診療方針

核医学科は、放射性同位元素を用いた診断・治療を行っています。診断は、がん診断にかかせないFDG-PET/CT検査、認知症を対象とした脳血流SPECT検査など年間凡そ4000件の核医学検査を行っております。2019年10月に、京阪神の大学病院・特定機能病院に先駆けて半導体PET/CTを導入し高い診断能で通常の診断に加え、MedCity21におけるFDG-PET/CT検診も行っております。治療は、病院7階に全国有数の核医学治療病室3室を有し、甲状腺がん患者さんの院内紹介のみならず、地域医療機関との病診連携として、大阪市内・府下・他府県より多くの紹介患者さんを受け入れており、年間130人以上の治療を行っております。2019年1月からソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法も開始しています。外来では前立腺癌骨転移、甲状腺機能亢進症の核医学治療を院内外から広く受け付けています。核医学治療は被ばくなどの問題もあり、診察時間を十分にとって、患者さん・ご家族にしっかり説明し納得いただいてから治療を進めるように心がけています。

診療科の特徴

地域の医療機関からのご依頼に関しては、核医学検査は、前処置等行う必要が多く、ご予約即検査日時決定とならずご不便をおかけしますが、先生から核医学科にご連絡をお願いします。心筋シンチ検査に関しては循環器内科が担当になります。FDG-PET/CT検査に関しては保険要件を満たすご依頼に関しては核医学科でお申し込みが可能となっております。先生から核医学科にご連絡をお願いします。現在当科では、I-131による、甲状腺がん転移に対する内用治療、甲状腺機能亢進症に対する内用治療、Lu-177によるソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法、Ra-223による前立腺癌骨転移の4つを行なっています。全てに健康保険が適応されます。甲状腺がんの転移と神経内分泌腫瘍に対する内用治療は当院7階にある隔離病室(3床)で入院治療となります。後の2つは外来治療です。いずれの治療も府下全域、近畿各県からご紹介いただいております。紹介時には、診療情報提供書に加え、甲状腺がん転移と神経内分泌腫瘍の場合には、転移部位(頸部及び肺など)のCT、血液データなどを添えて、甲状腺機能亢進症の場合には血液データを添えて地域医療連絡室よりご予約ください。前立腺癌骨転移のRa-223治療は、泌尿器科に受診をお願いします。

対象疾患

【主力疾患】

- 甲状腺がん転移治療 (入院) ● Lu-177による神経内分泌腫瘍治療 (入院)
- I-131による残存甲状腺症破壊治療 (入院・外来) ● 甲状腺機能亢進症 (外来)
- Ra-223による去勢抵抗性前立腺癌骨転移治療 (外来) ● FDG-PET/CT検査 ● 脳血流SPECT検査
- 骨シンチ検査 ● ガリウムシンチ検査 ● 甲状腺シンチ検査 ● 副甲状腺シンチ検査
- 腎動態・静態シンチ検査 ● 肝アジアロシンチ検査 ● ソマトスタチン受容体シンチ検査

【対応できる疾患】

- 悪性腫瘍 ● 脳血管障害・てんかん・認知症 ● 甲状腺機能異常 ● 炎症性疾患 (不明熱を含む)
- 骨腫瘍・骨転移・代謝性骨疾患 ● 副甲状腺腺腫・副甲状腺機能異常 ● 腎機能異常・水腎症・VUR
- 肝機能異常 ● 唾液腺腫瘍・唾液腺障害 ● 副腎腫瘍・副腎機能障害



かわべ じょうじ

河邊 讓治

[専門・担当]

診療科部長／病院教授

核医学

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
東山 滋明 ひがしやま しげあき	診療科副部長／講師	核医学
吉田 敦史 よしだ あつし	病院講師	核医学

主たる外来と検査

- ①核医学科 初診担当医 河邊讓治 月・水 初診受診希望は地域医療連絡室経由で予約可能です。
- ②治療実績 2022 年度入院実績 I-131 内用療法 (128 件)、
神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法 (23 件)
- ③ラジウム外来 (金) 担当医：東山滋明、(泌尿器科から院内紹介が必要)
- ④ FDG-PET/CT 検査 (東山滋明)
- ⑤肝アシアロシンチ検査
- ⑥肺血流シンチ検査、副甲状腺シンチ検査、ソマトスタチン受容体シンチ検査、神経内分泌 RI 外来 (木) (吉田敦史)

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Gastroenterological Surgery

診療方針

私ども消化器外科は、癌などの悪性疾患や、炎症性腸疾患の分野では国内でもトップクラスの治療件数を有しております。近年では低侵襲手術（鏡視下手術、ロボット支援下手術）を積極的に取り入れ、ロボット手術の技量を認定された専門医も各臓器別に在籍し、より高度な安全性の高い外科手術を提供する体制を整えています。

また、「あきらめない集学的がん治療」との方針で、遠隔転移を伴う場合でも化学療法や放射線治療と外科手術を組み合わせ治療を行っております。さらに、がんの遺伝子異常を解析するがん遺伝子パネル検査や新たな治験や臨床試験にも積極的に参加し、総合的にがんの治療を行っています。術後は出来るだけ地域の先生方との病診連携、病病連携を大切に、継続した患者さんの術後ケアに努めております。本年度より、高度肥満に対する減量手術を開始しました。多数の患者さんのご紹介をお待ち申し上げます。

診療科の特徴

我々消化器外科では消化器領域、いわゆる食道から肛門に至る消化器疾患の治療を行っており、手術件数は年間500件以上で、特にがん治療の専門科として国内でも有数の治療実績を誇っております。当科で扱っている主ながんは食道がん、胃がん、大腸がん、転移性消化器腫瘍であり、それぞれの疾患ごとに経験豊富な専門医がそろっています。また鏡視下手術、ロボット手術の専門医も多数在籍しています（内視鏡外科学会技術認定医：食道、胃、大腸、計8名）。そして手術だけでなく抗がん剤や放射線療法、免疫療法、遺伝子パネル検査などを組み合わせた集学的治療にて治療成績を向上させる努力をおこなっており、他科との連携を密にして患者さんに最適な治療法を提供させていただきます。また患者さんがご自身の病気や治療の事を十分に理解したうえで安心して治療を受けて頂くために、患者さんとの対話を大切にしております。がん以外にも良性の消化器腫瘍や炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、消化管粘膜下腫瘍、食道裂孔ヘルニア、肥満減量などの外科治療も行っており、経験豊富な専門医が責任を持って治療を担当させていただきます。侵襲の大きながん手術も安全に受けさせていただくため、早くから歯科、栄養外来、リハビリ部門、入退院支援センターなどと連携を取り、治療を進めています。

対象疾患

[主力疾患]

- 食道癌
- 胃癌
- 大腸癌
- 直腸癌
- 小腸腫瘍
- 転移性消化器腫瘍
- 消化管粘膜下腫瘍
- GIST
- 炎症性腸疾患
- 後腹膜腫瘍

[対応できる疾患]

- 食道裂孔ヘルニア
- 食道アカラシア
- 胃食道逆流症
- 食道憩室
- 肥満減量手術



まえだ きよし

前田 清

診療科部長／教授

[専門・担当]

下部消化管、炎症性腸疾患

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
李 栄柱 り しげる	講師	上部消化管
豊川 貴弘 とよかわ たかひろ	講師	上部消化管
渋谷 雅常 しぶたに まさつね	講師	下部消化管／炎症性腸疾患
田村 達郎 たむら たつろう	講師	上部消化管
福岡 達成 ふくおか たつなり	講師	下部消化管／炎症性腸疾患
吉井 真美 よし まみ	講師	上部消化管／肥満手術
三木 友一郎 みき ゆういちろう	病院講師	上部消化管
笠島 裕明 かさしま ひろあき	病院講師	下部消化管／炎症性腸疾患
八代 正和 やしろ まさかず	研究教授	上部消化管／遺伝性疾患

主な診療実績（2022年度）

食道癌手術（開胸）	3件	胃癌手術（開腹）	13件	大腸癌（開腹）	12件
食道癌手術（胸腔鏡）	15件	胃癌手術（腹腔鏡）	50件	大腸癌（腹腔鏡）	107件
食道癌手術（ロボット）	35件	胃癌手術（ロボット）	22件	大腸癌（ロボット）	51件
そのほか（食道疾患）	8件	胃粘膜下腫瘍摘出術	10件	炎症性腸疾患	30件
		そのほか（胃疾患）	5件	その他（大腸疾患）	49件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

再診予約 外来へお電話ください。緊急時に対応いたします。

地域医療機関の先生方へ

毎日各臓器の専門医が診察します。診断目的でも結構ですのでご紹介ください。退院後は連携して治療をお願いいたします。

Breast Surgery

診療方針

私どもの乳腺外科では乳がんをはじめとする乳腺疾患を扱っています。わかりやすい説明による納得のいく治療を信条に診療を行っており、内科、形成外科、放射線治療科など関連各科と連携してチーム医療を実践しています。乳がんの手術は年間250～300件行っており、乳房温存手術や再建手術など根治性と整容性が両立されるような手術を行っております。また外来診療スタッフは全員が日本乳癌学会乳腺専門医の資格を有しており、科学的根拠に基づいた質の高い診療を行っております。

診療科の特徴

- ・乳がん診療のエキスパートによる高水準の診断・治療を提供しています。
- ・患者さんに寄り添い、配慮に溢れる診療体制が整っております。
(就労・子育てなど、通常の社会生活を送りながら治療を受けてもらえるように支援いたします)
- ・大学病院の強みを活かし、他施設では難しい治療の提供が可能です。
- ・手術件数や薬物療法の実施件数は関西屈指です。
- ・トリプルネガティブ乳がんや転移・再発乳がんなどの難治性乳がんの治療実績は、世界的にも有数の施設となっております。
- ・がん診療連携拠点病院として、地域の開業医の先生方とともに乳がん診療に取り組んでいます。
- ・セカンドオピニオンについても多くの実績がありますので、お気軽にご相談ください。

対象疾患

[主力疾患]

- 乳腺疾患
乳癌、乳腺腫瘍



かしわぎ しんいちろう

柏木 伸一郎 [専門・担当]

分野長／准教授 乳腺

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
森崎 珠実 もりさき たまみ	講師	乳腺
荻澤 佳奈 おぎさわ かな	病院講師	乳腺
田内 幸枝 たうち ゆきえ	先端予防医療学病院講師	乳腺
後藤 航 ごとう わたる	病院講師	乳腺
高田 晃次 たかだ こうじ	病院講師	乳腺
藪本 明路 やぶもと あきみち	後期研究医	乳腺
孝橋 里花 こうはし りか	医員	乳腺

取り組み

当院は大学附属病院であり、診療、研究、教育の3つの役割を担っています。診療の面では的確な診断や標準治療はもちろんのこと、患者さんがより安全、安心、安楽に治療を受けることができるように他の診療科や看護師、薬剤師などの他職種との院内チームとしての連携や、地域のクリニック、検診施設 (MedCity21)、関連施設との病診・病病連携など病院内外での連携体制を大切にしています。また、研究の面では新しい治療法の開発につながるような臨床に即した研究を進めています。教育の面では医学生の教育のみならず多くの専門医師を育成することも重要ですので、日常診療を通じて多くの知識と経験が積めるように指導を行っています。

主な診療実績 (2022 年度)

乳腺手術件数 262 例

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Cardiovascular Surgery

診療方針

大阪公立大学心臓血管外科では安全で確実な手術をモットーに、心臓・血管疾患に対して外科治療を行っています。大学病院として先進的・治療も積極的に取り入れています。特に成人例の冠動脈疾患、弁膜疾患、大動脈疾患の手術を多く手がけており、安定した手術成績をあげています。最近では高齢者や複数の合併症を有する患者さんが多くなってきましたが、このような症例にも高度医療を行う施設として積極的に手術を行っています。手術適応の判断に難渋する症例でも、低侵襲治療や循環器内科・放射線科等との連携により解決可能な場合もあります。気軽にご相談頂ければ幸いです。手術はほぼ毎日行っており、緊急手術は随時受け付けています。外来診察・初診受付は月から金曜日まで毎日行っています。

診療科の特徴

後天性心疾患（狭心症、弁膜症）、大動脈疾患、末梢血管疾患など心臓血管外科疾患全般にわたる外科治療を行っています。従来からの標準的な手術以外に、小開胸低侵襲手術や経カテーテル的治療などの先進的・手術も積極的に行っています。

当科の特徴としては、「弁膜症治療の拠点」として様々なオプションを持っていることです。ダビンチによるロボット支援弁形成術はすでに160例を行い、全国の大学病院でトップの手術件数です。現在、保険診療でできるのは弁形成術のみですが、僧帽弁形成術のみならず三尖弁形成術との同時手術もロボットで行っています。

大動脈弁治療は今までの弁置換以外に経カテーテル的治療（TAVI）も行い、患者さんの状態やニーズに沿うようにハートチームで検討して手術方法を決めています。また、「自己弁温存大動脈弁基部再建」「自己心膜を用いた大動脈弁再建術」といった人工弁を使用しない大動脈弁治療も行っています。

胸部・腹部大動脈瘤へのステントグラフト治療、重症下肢虚血に対する下腿へのバイパス術など、血管領域にも幅広い治療方法を提供しています。

昨年度に集中治療センターが拡充され、緊急症例の対応も向上してきました。

対象疾患

【主力疾患】

- 狭心症
- 心筋梗塞
- 心臓弁膜症
- 大動脈弁狭窄症
- 大動脈弁閉鎖不全症
- 僧帽弁狭窄症
- 僧帽弁閉鎖不全症
- 肺動脈弁狭窄症
- 肺動脈弁閉鎖不全症
- 三尖弁閉鎖不全症
- 心臓腫瘍
- 大動脈解離
- 胸部
- 大動脈瘤
- 胸腹部大動脈瘤
- 腹部大動脈瘤
- 大動脈解離
- 閉塞性動脈硬化症

【対応できる疾患】

- 成人先天性心疾患
- 肺塞栓症・肺梗塞
- 下肢静脈瘤



しばた としひこ

柴田 利彦

[専門・担当]

診療科部長／教授

弁膜症、低侵襲手術

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
高橋 洋介 たかはし ようすけ	診療副部長／准教授	心臓血管外科／ロボット支援心臓手術
森崎 晃正 もりさき あきまさ	准教授	心臓血管外科／大血管手術／低侵襲手術
左近 慶人 さこん よしと	講師	心臓血管外科全般

施術の特徴

当院では、僧帽弁逆流に対する僧帽弁形成術を従来から積極的に行い、全国屈指の成績をあげています。とくに、弁を切除せずに人工腱索で治す術式「人工腱索ループテクニック」を用いた弁形成術では全国でトップの実績を持っています。この術式により複雑な病変に対する形成も可能です。胸骨正中切開での従来手術や小切開口ロボット手術でも同じ術式で行っており、その成績も同等です。

主な診療実績（2022年度）

先天性心疾患	7件	TEVAR	15件
弁膜症手術（複合手術含む）	205件	大動脈基部手術	6件
大動脈弁（TAVI含む）	140件	MICSもしくはダヴィンチ手術	45件
僧帽弁（複合手術含む）	76件	腹部大動脈瘤手術	22件
その他	5件	EVAR	30件
虚血性心疾患手術	22件	末梢血管	38件
胸部大血管手術（複合手術含む）	58件		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

肝胆膵外科

(肝臓・胆嚢・膵臓外科)

外来受付

2階08番 TEL. (06) 6645-2346

午前8時45分～午後4時45分 [平日]

[初診: 月火水木金 / 午前9時～午前10時30分]

Department of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery

診療方針

肝胆膵外科では、日本肝胆膵外科学会が認定する高度技能専門医や指導医を取得したスタッフのもと、安全で高度な手術を実施しています。低侵襲手術として、腹腔鏡下手術をはじめロボット支援下手術も十分に適応を判断したうえで、積極的に取り組んでいます。一方、悪性腫瘍に対しては、化学療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療を実施しています。肝胆膵疾患に対する新しい医療の開発と最新の医療の提供のため、全国レベルの種々の臨床試験や感染症対策など安全対策にも取り組んでいます。また、術後にご紹介いただいた病院や診療所と連携して継続した治療を行っています。

診療科の特徴

肝胆膵外科においては、肝胆膵領域の悪性疾患（肝細胞癌、肝内胆管癌、転移性肝癌、肝外胆管癌、胆嚢癌、膵癌）や良性疾患（胆石症、胆嚢ポリープ、胆道拡張症、膵・胆管合流異常）などに対する外科治療を行っています。これらの領域において最先端の治療法を導入あるいは開発し、内科や放射線科など他科との協力により、個々の病態に応じた総合的治療体系の確立と実践を目指しています。現在、年間約150例の肝切除や約100例の膵切除を行っていますが、これは全国でもトップクラスの肝・膵切除手術数であり、なかでも腹腔鏡下肝切除術や腹腔鏡下膵切除、さらにロボット支援下肝切除、ロボット支援下膵切除も積極的に行っています。肝細胞癌にはラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術、全身化学療法、抗ウィルス療法など、胆管癌や胆嚢癌などの胆道癌や膵癌に対しても、化学療法や放射線治療などの併用による集学的治療を行っています。

対象疾患

[主力疾患]

- 肝細胞癌
- 転移性肝癌
- 胆管癌
- 胆嚢癌
- 乳頭部癌
- 膵癌
- 肝硬変（移植）
- 胆石症
- 胆嚢ポリープ
- 肝内結石症
- 先天性胆道拡張症
- 膵・胆道合流異常
- 胆嚢炎・胆管炎
- 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）
- 膵神経内分泌腫瘍
- 膵嚢胞性腫瘍

[対応できる疾患]

- 後腹膜腫瘍
- 脾腫（摘脾）

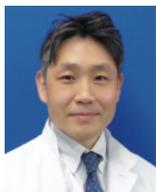
特別外来・特色

胆管がん特別外来について

総合診療科などとともに、印刷会社関連胆管癌に関する特別外来を行っています。特別外来での診療の対象となる方は、(1) 塩素系有機溶剤などの化学物質を扱う職場・工場等での勤務歴・作業歴があること、(2) かかりつけ医への受診や健康診断などで、肝機能障害や胆管がんの可能性があるとされる方です。また、1,2-ジクロロプロパンに曝露され健康管理手帳を交付された方の定期健診を行っています。特別外来で診療を受けるためには、当病院の地域医療連絡室にご連絡ください。

先進医療・特殊医療

2019年より、進行膵癌を除く膵腫瘍に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を開始し、2021年より、ロボット支援下膵体尾部切除術を開始しております。また、2022年度には、ロボット支援下肝切除ならびにロボット支援下膵頭十二指腸切除術を導入しました。肝切除の安全性を向上させるために、「経皮経門脈枝塞栓術」の一部を校費対象治療法として行っています



いしざわ たけあき

石沢 武彰

[専門・担当]

診療科部長／教授

肝胆膵外科、ロボット支援下手術、腹腔鏡下手術

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
木村 健二郎 きむら けんじろう	診療科副部長／准教授	肝胆膵外科／ロボット支援下手術／内視鏡下手術
新川 寛二 しんかわ ひろじ	講師	肝胆膵外科／ロボット支援下手術／内視鏡下手術／外科感染症学
西尾 康平 にしお こうへい	講師	肝胆膵外科／内視鏡下手術／外科緩和医療
大平 豪 おおひら こう	病院講師	肝胆膵外科／内視鏡下手術／外科緩和医療
木下 正彦 きのした まさひこ	病院講師	肝胆膵外科／ロボット支援下手術／内視鏡下手術
栗原 重明 くりはら しげあき	後期研究医	肝臓／胆道／膵臓
田中 涼太 たなか りょうた	後期研究医	肝臓／胆道／膵臓
櫛山 周平 くしやま しゅうへい	後期研究医	肝臓／胆道／膵臓
岡田 拓真 おかだ たくま	医員	肝臓／胆道／膵臓
谷 直樹 たに なおき	医員	肝臓／胆道／膵臓
川口 貴士 かわぐち たかし	医員	肝臓／胆道／膵臓
中西 紘一 なかにし こういち	医員	肝臓／胆道／膵臓
八田 康佑 はった こうすけ	医員	肝臓／胆道／膵臓
吉田 端樹 よした みずき	医員	肝臓／胆道／膵臓

主な診療実績（2022年度）

肝切除手術	131	肝葉切除手術	27
膵切除手術	105	膵全摘術	1
腹腔鏡下肝切除手術	69	腹腔鏡・内視鏡合同手術（十二指腸癌）	1
（内、ロボット支援下肝切除手術）	23	肝門部胆管癌手術	7
膵頭十二指腸切除手術	54	胆嚢摘出手術	49
腹腔鏡下膵頭十二指腸切除手術	16	腹腔鏡下胆嚢摘出手術	37
（内、ロボット支援下膵頭十二指腸切除手術）	6	腹腔鏡下総胆管結石手術	1
膵体尾部切除手術	45	脾臓摘出手術	5
腹腔鏡下膵体尾部切除手術	27		
（内、ロボット支援下膵体尾部切除手術）	11		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Thoracic Surgery

診療方針

呼吸器外科では、肺癌をはじめとする多様な呼吸器疾患に、個々の患者さんに最適の医療を提供できるよう心がけています。最近では早期癌に対して、胸腔鏡を併用した手術の頻度が非常に多く、術後の早期回復に役立っています。一方、進行癌に対する拡大手術も増加しており、一般の病院では治療の難しい疾患の治療を担うのも大学病院の責務であると考えています。当科では、年間約300人以上の方が呼吸器外科の手術を受けられ、さらに増加傾向にあります。より多くの方に健康を早く回復していただけるよう、我々は全力で協力します。

診療科の特徴

呼吸器外科に関する多様な手術療法に対応しています。特に肺癌の手術が多く、呼吸器内科、放射線科との定期的な合同カンファレンスにより、個々の患者さんの診療方針、治療方針を検討しています。早期癌に対しては、胸腔鏡を併用した低侵襲手術により、術後早期の回復を心がけています。

進行癌に対しても、浸潤臓器合併切除を伴う拡大手術、化学療法や放射線療法と手術を組み合わせた集学的治療などによって、根治性を追求しています。また、できるだけ気管支形成術を用いて肺機能温存を試みています。

さらに、他領域の外科手技が必要な難易度の高い手術も、各外科チームとの連携による合同手術により、安全な手術を行います。

対象疾患

【主力疾患】

- 原発性肺癌
- 転移性肺腫瘍
- 胸腺腫瘍
- その他の肺疾患
- その他の縦隔疾患
- その他の気管支疾患
- その他の胸膜・胸壁疾患
- その他の横隔膜疾患

主な診療実績 (2022年度)

(疾患別)		(術式別)	
原発性肺癌手術	199件	ロボット支援手術	41件
原発性肺癌手術の内訳		気管支形成術	4件
肺葉切除 (2肺葉切除含む)	135件		
区域切除	25件		
肺全摘術	1件		
部分切除	38件		
転移性肺腫瘍	34件		
縦隔腫瘍	20件		
気胸	5件		
その他	46件		



にしやま のりとし

西山 典利

[専門・担当]

診療科部長／病院教授

呼吸器外科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
泉 信博 いずみ のぶひろ	診療科副部長／講師	呼吸器外科
月岡 卓馬 つきおか たくま	講師	呼吸器外科
井上 英俊 いのうえ ひでとし	病院講師	呼吸器外科
原 幹太郎 はら かんたろう	病院講師	呼吸器外科

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Pediatric Surgery

診療方針

小児が手術を必要とする疾患となることはめったになく、全国的に見ても小児外科の手術数は成人と比べるととても少ないのが現状です。そのため、小児外科医の数も多くはありません。しかしながら、疾患の多様性においては成人と何ら変わるものではなく、先天性肺嚢胞や横隔膜ヘルニアのような呼吸器疾患、先天性食道閉鎖症や小腸閉鎖症、胃食道逆流症などの消化器疾患、胆道閉鎖症や胆道拡張症などの胆道系疾患、水腎症や膀胱尿管逆流症などの泌尿器疾患、神経芽腫や肝芽腫のような悪性腫瘍、あるいは鼠径ヘルニアや虫垂炎などの一般的な外科疾患、等々、多彩な疾患が見られます。当科では専門性にとらわれることなく、それらすべての疾患の初期診察から検査、治療、follow up に至るまで、一貫して行います。

また、小児の鼠径ヘルニア、虫垂炎、漏斗胸、重症心身障害児の胃食道逆流症などに対しては腹腔鏡下の低侵襲手術を行っております。

診療科の特徴

小児外科と成人外科にはいくつかの大きな違いがあります。

まず、疾患そのものの種類が違います。成人外科の疾患は、胆石や悪性腫瘍、あるいは動脈瘤や冠動脈疾患など、年月を経て徐々に発症するものが多いのですが、小児外科の疾患はほとんどが先天性の原因によるものです。そのため、小児外科で扱う疾患には、成人患者さんには見られないものが多くあります。また小児患者さんの多くは成長過程にあり、手術を行ったのち、体形や体質が大きく変化します。多くの疾患で、我々小児外科医は手術を行うだけではなく、治療の結果生じうる後遺障害や合併症を予測し、それに対応すべく長期にわたって患児の成長を見守ることも行っています。さらに乳幼児では、症状を明確に訴えることができないため、特に初期診断は困難なことがあります。このような症例に対しても、我々小児外科医は、時には自ら超音波検査やX線透視検査などを行い、診断、手術適応を決定しています。外科疾患かどうか判断に迷うような症例でも、遠慮なくご相談ください。

対象疾患

【主力疾患】

- 鼠径ヘルニア（脱腸）
- 陰嚢水腫
- 停留精巣
- 臍ヘルニア（でべそ）
- 漏斗胸
- 急性虫垂炎
- 腸重積
- 先天性胆道拡張症
- 胆道閉鎖症
- 新生児外科疾患
- 水腎症
- 膀胱尿管逆流症
- 便秘症
- 小児悪性固形腫瘍
- 胃食道逆流症

【対応できる疾患】

- 急性腹症
- 新生児外科疾患
- 小児外科疾患
- 重症心身障害児に対する外科治療

専門外来

小児外科外来は毎週月、火、木曜日です。地域医療連絡室あるいは小児外科外来受付 06-6645-2351 で予約可能です。緊急対応を要する場合は小児科ホットラインと連携して対応いたします。



なかおか たつお

中岡 達雄

診療科部長／准教授

[専門・担当]

新生児外科、小児内視鏡外科、漏斗胸

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
東尾 篤史 ひがしお あつし	後期研究医	小児外科全般
加藤 怜子 かとう れいこ	後期研究医	小児外科全般

主な診療実績（2022年度）

総数	90件
腹腔鏡下単径ヘルニア根治術	22件
漏斗胸手術	5件
新生児手術	15件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Neurosurgery

診療方針

当脳神経外科は1968年の設立以来、脳と脊髄の外科治療を担い、それらの発展のために活動してまいりました。対象疾患は、良性腫瘍、神経膠腫（グリオーマ）、血管障害、外傷、脊髄脊椎疾患、てんかん、パーキンソン病などの不随意運動と、多岐に渡ります。設立以来、変わる事のない「患者さん第一」の信念にもとづき、それぞれの分野において、最先端で高度の診療を提供するトップランナーでありつづけたいと思っております。

診療科の特徴

私達の施設は、頭蓋底に発生する良性腫瘍（髄膜腫、頭蓋咽頭腫、神経鞘腫、下垂体腺腫など）の分野において、世界をリードする拠点施設です。膨大な手術経験をもとに、多くの手術方法を開発し、世界に普及させてきました。近年では、高難度の手術を効率的に行うために内視鏡手術をいち早く導入し、従来よりも体への負担が軽い手術が行えるようになっております。神経膠腫（グリオーマ）の治療においては、脳機能を温存しながら最大限の摘出を行うことを目的とした「覚醒下手術」を積極的に行っております。また、個々の患者さんに合わせて、化学療法、放射線治療、腫瘍治療電場療法などを提供しています。血管障害に関しては、従来の動脈瘤クリッピング手術や頸動脈内膜剥離術などの顕微鏡下手術はもちろんのこと、動脈瘤コイル塞栓術、各種のステント留置術、急性期血行再建術などのカテーテル治療にも力を入れています。脳卒中診療に関しては、脳神経内科との連携によって急性期治療にも対応しています。脊椎脊髄疾患に関しては、頭蓋頸椎移行部から腰仙椎部に渡って発生する腫瘍、変性疾患、外傷、血管奇形に対応しています。近年では、術中画像ガイド下での椎体スクリュー固定、人工椎間板、術中血管造影を使用した脊髄血管奇形の治療など、新規治療にも多く取り組んでいます。てんかんの外科治療においては、長時間ビデオ脳波、PET、脳磁図などを駆使した診断を行い、最適な手術法を提供するとともに、定位的頭蓋内電極留置へのロボット手術の導入を他施設に先駆けて開始しております。パーキンソン病や不随意運動に対する定位脳手術においては、術中画像や神経生理機能ガイド下での精密な位置誘導技術を用いて安全で確実な外科治療を行っています。

脳神経外科疾患でお困りの患者さんがおられましたら、ぜひ、私達にご紹介賜りましたら幸いに存じます。

対象疾患

【主力疾患】

- 頭蓋底腫瘍 ● 髄膜腫 ● 頭蓋咽頭腫 ● 神経鞘腫 ● 下垂体腺腫
- 神経膠腫（グリオーマ） ● 転移性脳腫瘍 ● 脳動脈瘤 ● 内頸動脈狭窄症 ● 脳動静脈奇形
- モヤモヤ病 ● 脊髄腫瘍 ● 変形性脊椎症 ● 脊柱管狭窄症 ● 後縦靭帯骨化症 ● 脊髄空洞症
- キアリ奇形 ● 難治性てんかん ● パーキンソン病 ● 不随意運動
- 機能脳神経外科（三叉神経痛、顔面痙攣）

【対応できる疾患】

- 慢性硬膜下血腫 ● 脳内出血 ● 水頭症 ● 頭部外傷



ごとう たけお

後藤 剛夫

診療科部長/教授

[専門・担当]

脳腫瘍、頭蓋底外科、内視鏡手術、機能脳神経外科
(顔面けいれん、三叉神経痛、微小血管減圧術)

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
一ノ瀬 努 いちのせ つとむ	診療科副部長/准教授	脳血管障害/脳腫瘍/機能脳神経外科 (顔面けいれん、三叉神経痛、微小血管減圧術)
宇田 武弘 うだ たけひろ	講師	てんかん外科/脳腫瘍
内藤 堅太郎 ないとう けんたろう	講師	脊髄・脊椎疾患
森迫 拓貴 もりさこ ひろき	講師	脳腫瘍/頭蓋底外科/内視鏡手術/機能脳神経外科 (顔面けいれん、三叉神経痛、微小血管減圧術)
中条 公輔 なかじょう こうすけ	講師	覚醒下手術/脳腫瘍/脳血管障害
渡部 祐輔 わたなべ ゆうすけ	助教	脳血管内治療/脳血管障害
田上 雄大 たのうえ ゆうた	病院講師	脳腫瘍/てんかん外科/脳血管障害/ 脳神経外科全般
川嶋 俊幸 かわしま としゆき	後期研究医	脳腫瘍/パーキンソン・不随意運動の外科
池上 方基 いけがみ まさき	後期研究医	脳血管障害/脳腫瘍/頭蓋底外科/内視鏡手術
児嶋 悠一郎 こじま ゆういちろう	後期研究医	脳神経外科全般
石野 昇 いしの のぼる	後期研究医	脳神経外科全般

主な診療実績 (2022年度)

脳神経外科的手術の総数 ([1] + [2] + [4]) 474件

【1】直達手術の総数 386件	(5) その他 0件	(4) その他 0件
1 脳腫瘍 204件	4 奇形 1件	
(1) 摘出術 113件	(1) 頭蓋・脳 0件	【2】血管内手術の総数 78件
(2) 生検術 (開頭術) 2件	(2) 脊髄・脊椎 0件	(1) 動脈瘤塞栓術 (破裂動脈瘤) 3件
(2) 生検術 (定位手術) 12件	(3) その他 0件	(1) 動脈瘤塞栓術 (未破裂動脈瘤) 17件
(3) 経蝶形骨洞手術 67件	5 水頭症 28件	(1) 動脈瘤フローダイバーター留置 (未破裂動脈瘤) 16件
(4) 広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術 8件	(1) 脳室シャント術 19件	(2) 動静脈奇形 (脳) 3件
(5) その他 2件	(2) 内視鏡手術 0件	(2) 動静脈奇形 (脊髄) 0件
2 脳血管障害 31件	(3) その他 9件	(3) 閉塞性脳血管障害の総数 21件
(1) 破裂動脈瘤 4件	6 脊髄・脊椎 82件	(3) (上記のうちステント使用例) 9件
(2) 未破裂動脈瘤 13件	(1) 腫瘍 25件	(4) その他 18件
(3) 脳動静脈奇形 0件	(2) 動静脈奇形 1件	
(4) 頸動脈内膜剥離術 2件	(3) 変性疾患 (変形性脊椎症) 24件	【3】脳定位的放射線治療の総数 0件
(5) バイパス手術 7件	(3) 変性疾患 (椎間板ヘルニア) 7件	(1) 腫瘍 0件
(6) 高血圧性脳内出血 (開頭血腫除去術) 0件	(3) 変性疾患 (後縦靭帯骨化症) 3件	(2) 脳動静脈奇形 0件
(6) 高血圧性脳内出血 (定位手術) 0件	(4) 脊髄空洞症 1件	(3) 機能的疾患 0件
(7) その他 5件	(5) その他 21件	(4) その他 0件
3 外傷 14件	7 機能的手術 26件	
(1) 急性硬膜外血腫 4件	(1) てんかん 20件	【4】その他 10件
(2) 急性硬膜下血腫 2件	(2) 不随意運動・頭痛症 (刺激術) 3件	(上記の分類すべてに当てはまらない)
(3) 減圧開頭術 1件	(2) 不随意運動・頭痛症 (破壊術) 0件	
(4) 慢性硬膜下血腫 7件	(3) 脳神経減圧術 3件	

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Orthopedic Surgery

診療方針

当院整形外科は、運動器の疾患を主として診療しており、脊椎外科、関節外科、スポーツ整形外科、骨軟部腫瘍外科、リウマチ外科、足の外科、肩関節外科、手の外科、小児整形外科、リハビリテーション科とほぼすべての整形外科専門領域をカバーし、最新の治療法を積極的に取り入れています。また入院患者さんについては主として手術的治療を必要とする方を対象とさせていただきます。

診療科の特徴

当院整形外科は1948年に水野教授が開講されて以降、70年以上の歴史を持つ日本有数の整形外科学教室です。整形外科が扱う領域は脊椎外科、関節外科（肩 肘 股 膝 足）、関節リウマチ、手外科、スポーツ、骨軟部腫瘍外科、小児整形外科等と多岐にわたりますが、当院では、単一分野に偏ることなく、すべての分野を網羅しています。各分野とも日本整形外科学会に所属する各分野の専門医、認定医、指導医等の資格のある経験豊富な医師が、外来、入院、手術治療を担当します。いずれの分野においても世界トップレベルを目指しており、2022年度、2023年度版 Newsweek 社の World's Best Hospitals に整形外科部門で選出されています。特に、低侵襲脊椎手術、脊柱変形・側弯症手術、コンピューター支援手術、ロボット支援手術、顕微鏡下の組織再建術、最新の人工関節などの手術療法に加え、生物製剤など最新の薬物療法も全国に先駆けて積極的に導入しています。教育面においては、新専門医制度に先駆けて関連病院の先生方、病院と緊密に連携をとり“大阪公立大学整形外科クリニカルフェローシップ”という教育システムを採用しています。実践的な整形外科手術手技の修得、一般的な整形外科疾患の診断と治療、及び高度先端医療の実践に至るまで新専門医制度に対応した整形外科の後期研修を実現しており、毎年15人を越える新人医師を迎え活気にあふれる医局となっています。

対象疾患

【主力疾患】

- 腰部脊柱管狭窄症 ●椎間板ヘルニア ●頸椎症性脊髄症・神経根症 ●側弯症 ●骨粗鬆症性椎体骨折
- 脊椎すべり症 ●脊椎外傷 ●脊椎脊髄腫瘍 ●変形性股・膝関節症 ●寛骨臼形成不全
- 大腿骨頭壊死 ●変形性足関節症 ●膝前十字靭帯損傷 ●膝半月板損傷 ●膝円板状半月
- 外反母趾 ●膝離断性骨軟骨炎 ●膝蓋骨脱臼 ●股関節唇損傷 ●距骨離断性骨軟骨炎
- 骨軟部腫瘍 ●転移性骨腫瘍 ●腱板断裂 ●変形性肩関節症 ●反復性肩関節脱臼
- インピンジメント症候群 ●小児整形外科疾患 ●四肢先天異常 ●母指CM関節症
- デュブイトラン拘縮 ●手根管症候群 ●肘部管症候群

【対応できる疾患】

- Femoro-Acetabular Impingement ● 胸郭出口症候群 ● 上肢の偽関節 ● 下肢骨折変形治療
- キーンバック病 ● 関節リウマチ ● 良性悪性骨軟部腫瘍 ● 舟状骨骨折・偽関節
- 三角線維軟骨複合体損傷 ● 尺骨突き上げ症候群 ● 手根不安定症 ● 遠位橈尺骨関節障害
- 末梢神経障害 ● 腱損傷 ● 石灰性腱炎 ● 動揺肩 ● 投球障害肩 ● 肩鎖関節脱臼
- 上腕骨近位端骨折・変形治療 ● 凍結肩 ● 脊椎関節炎 ● 脊髄係留症候群 ● 脊髄終糸症候群

治療内容

脊椎外科では顕微鏡、内視鏡下手術から変形矯正手術まで、関節外科では小皮切手術、ナビゲーションシステムや手術支援ロボットを用いた人工膝関節・人工股関節、骨切り術を、肩関節外科では関節鏡手術からリバーstype人工関節まで、スポーツ整形外科では関節鏡視下手術などの低侵襲手術を得意としています。リウマチ外科では積極的に生物製剤を導入し、最新の治療を行っています。成人の足部疾患の手術にも対応します。手外科では、微小血管吻合技術や腱移行術を用いた高度な再建手術を行っています。骨軟部腫瘍外科では手術に加え、抗癌剤治療を併用して、悪性腫瘍であっても患肢温存を目指しています。小児整形外科では新生児から思春期までのあらゆる病態に対応しております。適応症例については地域医療連絡室を通じて御紹介ください。



てらい ひでとみ

寺井 秀富

[専門・担当]

診療科部長／准教授

脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
箕田 行秀 みのだ ゆきひで	診療副部長／准教授	膝／股関節外科
岡田 充弘 おかだ みつひろ	准教授	手外科／マイクロサージャリー／機能再建外科
豊田 宏光 とよだ ひろみつ	准教授	脊椎／骨粗鬆症／側弯症
加藤 相勲 かとう みのり	講師	脊椎／低侵襲手術／側弯症
大田 陽一 おおた よういち	講師	膝／股関節外科
鈴木 亨暢 すずき あきのぶ	講師	脊椎／脊髄腫瘍
洲鎌 亮 すがま りょう	講師	膝／股関節外科
間中 智哉 まなか ともや	講師	肩関節外科／肩関節鏡
高橋 真治 たかはし しんじ	講師	脊椎／脊髄／骨粗鬆症
細見 僚 ほそみ りょう	病院講師	小児整形外科
大戎 直人 おおえびす なおと	病院講師	骨軟部腫瘍／転移性骨腫瘍
真本 建司 まもと けんじ	病院講師	リウマチ外科／足の外科
玉井 孝司 たまい こうじ	病院講師	脊椎／脊髄／骨粗鬆症
山田 祐太郎 やまだ ゆうたろう	病院講師	リウマチ外科／足の外科
高田 尚輝 たかだ なおき	病院講師	骨軟部腫瘍／転移性骨腫瘍
西野 壱哉 にしのかずや	病院講師	スポーツ医学／関節鏡／膝
大西 裕真 おおにし ゆうま	病院講師	小児整形外科
橋本 祐介 はしもと ゆうすけ	特任教授	スポーツ医学／関節鏡／膝
岡野 匡志 おかの ただし	特任教授	リウマチ外科／足の外科／骨粗鬆症

主な診療実績 (2022年度)

脊椎	357件	下肢	160件	骨軟部腫瘍	137件
上肢・手	112件	スポーツ	93件	小児	29件
肩	93件	リウマチ	64件		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

再診予約 再診の予約の取消や日時の変更は、予約前日までに外来窓口までご連絡ください。予約状況等によりご希望の日時への変更が出来ない場合があります。また内容によっては、直接ご来院が必要になる場合があります。

地域医療機関の先生方へ

当科は専門的治療（手術）を主に行っています。地域医療連絡室で専門外来（脊椎・膝股関節・関節リウマチ・肩関節・スポーツ整形・骨軟部腫瘍・手外科・小児整形・整形一般）の予約をお取りください。

泌尿器科 (腎臓移植)

Urology (Kidney Transplantation)

診療方針

大阪公立大学泌尿器科の内田潤次と申します。泌尿器科は腎尿路、副腎、男性生殖器の疾患に対して治療を行う科です。当教室の大きな特徴として腫瘍学を含めた一般泌尿器科診療と腎移植・透析といった腎不全診療をバランスよく取り組んでいることが挙げられます。当科では地域医療を担っておられる診療所、病院の先生方よりご紹介頂いた患者さんの泌尿器疾患、腎不全に対して、大学病院ならではの高度先進医療を提供することが可能です。2021年4月より泌尿器科病棟は腎・泌尿器センターと名称変更しました。

現在、高齢化社会を迎え、前立腺肥大症、前立腺癌などの泌尿器関連疾患の罹患率は増加しています。高齢患者さんにも優しい治療を心がけています。医師、コメディカルスタッフが one team で泌尿器疾患、腎不全診療に当たっています。よろしくお祈りします。

診療科の特徴

当教室では泌尿器疾患、腎不全に対して最新の設備で最先端の治療を行っております。低侵襲手術として前立腺癌、腎細胞癌、腎盂尿管癌、膀胱癌に対してロボット支援下腹腔鏡手術、腹腔鏡手術を積極的に行っています。また、前立腺癌に対する永久挿入密封小線源治療、前立腺肥大症に対するレーザー治療、難治性疾患とされている間質性膀胱炎に対する高気圧酸素療法なども実施しています。高齢患者さんが増加傾向である現在、生命予後改善を目指した治療だけでなく、QOL (生活の質) の向上、更に健康寿命の延伸に向けた治療を実践しています。

末期腎不全の根治的治療ともいえる腎移植に関しては献腎移植、生体腎移植ともに施行し、現在までに腎移植件数 400 例以上の豊富な経験を有しています。生体腎移植 15 年生着率 89.0% を達成しており、我が国有数の腎移植施設となっています。腎不全治療のもう一つの柱である透析療法についても昭和 40 年代から現在まで積極的に取り組み、バスキュラーアクセスの作製や維持管理、腹膜透析チューブ留置術を数多くの患者さんに施行してまいりました。さらには長期透析合併症である二次性副甲状腺機能亢進症手術治療なども泌尿器科スタッフで行っています。当院は腎不全治療を包括的に実施できる西日本有数の泌尿器科です。

対象疾患

[主力疾患]

- 前立腺がん
- 腎臓がん
- 膀胱がん・腎盂尿管がん (尿路上皮がん)
- 精巣がん
- 副腎腫瘍
- 慢性腎不全 (生体腎移植、献腎移植)
- 慢性腎不全 (血液透析・腹膜透析・バスキュラーアクセストラブル・二次性副甲状腺機能亢進症手術)
- 前立腺肥大症
- 過活動膀胱
- 神経因性膀胱
- 尿路感染症
- 性機能障害
- 男性不妊
- 尿路結石症 (腎結石・尿管結石・膀胱結石)
- 女性泌尿器科

[対応できる疾患]

- 後腹膜腫瘍
- その他の泌尿器がん
- 間質性膀胱炎



うちだ じゅんじ

内田 潤次

[専門・担当]

診療科部長/教授

腎移植、泌尿器腫瘍、一般泌尿器

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
武本 佳昭 たけもと よしあき	病院教授	慢性腎不全
鞍作 克之 くらつくり かつゆき	診療科副部長/講師	性機能障害/泌尿器腫瘍/一般泌尿器
長沼 俊秀 ながぬま としひで	講師	慢性腎不全/腎移植
岩井 友明 いわい ともあき	講師	腎移植/泌尿器腫瘍/一般泌尿器
山崎 健史 やまさき たけし	講師	泌尿器腫瘍/一般泌尿器
町田 裕一 まちだ ゆういち	講師	腎移植/泌尿器腫瘍/一般泌尿器
加藤 実 かとうみのる	講師	泌尿器腫瘍/一般泌尿器
大年 太陽 おおとし たいよう	助教	泌尿器腫瘍/一般泌尿器
壁井 和也 かべい かずや	病院講師	腎移植/泌尿器腫瘍/一般泌尿器
行松 直 ゆきまつ なお	病院講師	泌尿器腫瘍/一般泌尿器/尿路結石
井口 圭子 いぐち けいこ	病院講師	排尿障害/泌尿器腫瘍/一般泌尿器/女性泌尿器
松江 泰佑 まつえ たいすけ	病院講師	泌尿器腫瘍/一般泌尿器

主な診療実績 (2022年度)

ロボット支援腎部分切除 (RAPN)	74 件	生体腎移植	27 件
ロボット支援前立腺全摘術 (RARP)	55 件	腹腔鏡下ドナー腎採取術	27 件
ロボット支援膀胱全摘術 (RARC)	20 件	腹腔鏡下副腎摘出術	25 件
ロボット支援腎摘除術 (RARN)	10 件	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TUR-Bt)	144 件
ロボット支援腎尿管全摘除術 (RANU)	18 件	透析関連外科手術	171 件
腹腔鏡下腎摘除術	17 件	前立腺癌小線源療法	20 件
腹腔鏡下腎尿管全摘術	13 件		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

女性診療科 (産科・生殖内分泌・骨盤底医学)

外来受付

2階07番 TEL.06-6645-2371

午前8時45分～午後4時45分(平日)

初診：平日 月～金 / 午前9時～10時30分

Obstetrics & Gynecology, Women's Lifecare Medicine

診療方針

女性診療科(女性生涯医学)では、妊産婦さんを対象とする産科領域、不妊症ならびにホルモン異常に伴う各種症状に対する治療を行う生殖内分泌領域、骨盤臓器脱や排尿障害に対する治療を行う骨盤底医学領域を対象として診療を行っています。産科領域ではあらゆる妊娠・分娩を受け入れ、特に多胎妊娠・前置胎盤・胎児発育不全・妊娠高血圧症など、リスクの高い妊娠や分娩の管理については豊富な経験を有しています。生殖内分泌領域では、ホルモン療法を中心とした薬物治療のほか、腹腔鏡や子宮鏡を用いた低侵襲な不妊症手術を積極的に行っています。骨盤底医学領域においては、薬物療法やリングを用いた保存的治療のほか、手術適応があれば膣式や腹腔鏡下に行う侵襲の少ない手術治療を行っています。

診療科の特徴

産科領域については、母胎集中治療室3床と新生児集中治療室9床を併設し、合併症の有無にかかわらず、当科での分娩を希望される妊婦さんを広く受け入れさせていただいています。一方で大学病院としての機能を果たすことも重要と考え、比較的広範囲の地域から母体搬送の受け入れを行っており、特に多胎妊娠・前置胎盤・胎児発育不全・妊娠高血圧症など、リスクの高い妊婦さんの受け入れ件数は多く、これまでの豊富な治療経験から産科医・助産師および小児科医・新生児担当看護師は、一刻を争うような緊急性の高い状況においても連携して最善の治療を提供できる体制が整っています。また、脳疾患・心疾患・交通外傷・産後の大量出血など、重篤で緊急性のある合併症を有する妊産婦さんを周産期医療と救命救急医療の連携により受け入れ、救命救急科・脳神経外科・循環器科・麻酔科・放射線科など関連する各科とともに治療することができる体制も確保しています(最重症妊産婦受け入れ施設)。さらに、偶発的な合併症が発生した妊産婦さんの受け入れも広く行っており、必要に応じて院内の関連診療科と連携し診療にあたっています。

生殖内分泌領域では、ホルモン療法による治療ならびに人工授精までの不妊治療を行っています(体外受精胚移植は現在行っておりません)。外科的治療としては、卵管瘤水腫など卵管が原因となっていると考えられる不妊症に対しては腹腔鏡を用いた手術治療を、着床障害の原因となっていると考えられる不妊症(粘膜下筋腫や子宮内膜ポリープなど)に対しては子宮鏡を用いた手術治療を行い、妊娠率向上に努めています。2022年からは卵管因子による不妊症に対して卵管鏡下卵管形成術を実施しています。

骨盤底医学領域では、骨盤臓器脱や排尿障害に対し新しい骨盤底再建手術の開発を進めています。膣式手術と腹腔鏡下手術の組み合わせによる骨盤臓器脱手術や、メッシュを用いた尿失禁に対する手術などを行い、良好な治療成績を得ています。

対象疾患

[主力疾患]

- 周産期に関連する疾患全般
- 内分泌障害
- 不妊症
- 不育症
- 女性生殖器の奇形
- 排尿障害
- 尿失禁
- 骨盤臓器脱



たちばな だいすけ

橘 大介

診療科部長／教授

[専門・担当]

周産期全般、胎児免疫、内分泌疾患、骨盤底医学

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
三枚 卓也 みすぎ たくや	診療科副部長／准教授	周産期全般／不妊症／内分泌障害
羽室 明洋 はむろ あきひろ	講師	不妊症／内分泌障害／腹腔鏡手術／骨盤底医学
田原 三枝 たはら みえ	講師	周産期全般／超音波医学／遺伝医学
栗原 康 くりはら やすし	講師	周産期全般／胎児エコー
北田 紘平 きただ こうへい	講師	周産期全般／遺伝医学／腹腔鏡手術／骨盤底医学

その他

専門外来として、胎児超音波外来、骨盤底再建外来がありますが、いずれの外来も一度初診外来の受診が必要となります。

主な診療実績（2022年度）

分娩	704件
帝王切開	263件
多胎妊娠	31件
前置胎盤	30件
母体搬送受け入れ	207件
異所性妊娠に対する腹腔鏡下手術	22件
卵巣嚢腫合併妊娠に対する腹腔鏡した手術	5件
不妊症に対する腹腔鏡下手術	
卵管開口、切除	24件
筋腫核出	15件
卵巣嚢腫核出	8件
不妊症に対する子宮鏡下手術（粘膜下筋腫・内膜ポリープ）	13件
骨盤臓器脱手術	22件
尿失禁手術	4件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

女性診療科（婦人科腫瘍）

Obstetrics & Gynecology, Gynecological Oncology

診療方針

女性病態医学（婦人科腫瘍学）では、主に女性骨盤内臓器に発生する疾患の診断および治療を担当しています。婦人科悪性腫瘍（婦人科がん）が主な対象疾患ですが、子宮頸癌の前癌病変である子宮頸部異形成上皮や子宮体癌の前癌病変である子宮内膜増殖症、良性の卵巣腫瘍や子宮筋腫・子宮内膜症などの疾患の診断や治療も行っています。良性腫瘍に対しては低侵襲である腹腔鏡下手術を行い、早期に社会復帰をしていただけるようにしています。また、子宮体癌に対する治療についても保険適応のある場合には腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を行っています。一方、進行したがんに対しては、根治性の高い手術を行い、薬物療法では抗がん剤治療のほか、分子標的治療や免疫療法など最新の治療も行っています。

診療科の特徴

当科では特に子宮頸がんの治療に力を入れており、初期がんに対する妊孕性温存手術、初期～早期がんに対する広汎子宮全摘出術、進行がんに対する放射線治療や化学療法を中心とした集学的治療まで、病勢に応じあらゆる治療に対応しています。当科における子宮頸がんに対する広汎子宮全摘出術の実施件数は全国有数です。放射線治療に関しては放射線治療科と連携し、根治性の高い治療を行っています。さらに当科では、子宮頸癌発生の予防に寄与すべく、前癌病変である異形成を管理することを目的とした専門外来を設け、癌に進行する前の段階で治療（子宮頸部円錐切除術）を受けていただけるようにしています。

子宮体がんは若年者を含め増加傾向にあることから、手術を中心とした標準的な治療に加え、適応のある場合には子宮内膜全面搔爬術とホルモン療法による妊孕性温存治療も行っています。また、初期癌と考えられるなど条件を満たす場合には腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を行っています。

卵巣がんは初期には自覚症状に乏しいことから進行がんが多いことが特徴です。進行がんに対する手術としては、病変の完全摘出が可能と判断すれば外科医や泌尿器科医の協力のもと病変の完全摘出を目指した手術を行い、一方で初回治療での完全摘出が困難と判断されれば腹腔鏡下に腹腔内の観察ならびに病変の生検のみを行い、先に薬物療法による治療で病変を縮小させてから根治手術を行っています。近年卵巣がんに対する薬物療法は飛躍的な進歩を遂げており、進行がんでも手術治療と薬物療法を組み合わせた集学的治療により長期生存が得られるようになってきました。

その他、希少がんである外陰がんや膣がんに対しても、消化器外科・形成外科・放射線治療科などと連携して治療にあたっています。また良性疾患では、子宮筋腫に対しては当科が開発した子宮筋層病変針生検で診断を行うことにより10cmを超えるような大きな筋腫でも手術を行わずに経過観察することもあります。過多月経の症状に対しては子宮内膜アブレーション（子宮内膜の焼灼術）治療や、放射線科（血管内治療科）と連携した子宮動脈塞栓術を行い、手術治療では腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術など低侵襲手術を積極的に行っています。

対象疾患

【主力疾患】

- 子宮頸がん
- 子宮体がん
- 卵巣がん
- 腹膜がん
- 卵管がん
- 膣がん
- 外陰がん
- 子宮頸部異形成
- 子宮筋腫
- 子宮内膜症



すみ としゆき

角 俊幸

診療科部長／教授

[専門・担当]

婦人科悪性・良性腫瘍、がんゲノム医療、婦人科一般

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
安井 智代 やすい ともよ	診療科副部長／准教授	婦人科悪性・良性腫瘍／婦人科一般
市村 友季 いちむら ともゆき	准教授	婦人科悪性腫瘍／子宮筋腫／子宮内膜症／ 子宮頸部異形成
福田 武史 ふくだ たけし	講師	婦人科悪性・良性腫瘍／婦人科一般
山内 真 やまうち まこと	講師	婦人科悪性・良性腫瘍／ロボット支援下手術
今井 健至 いまい けんじ	講師	婦人科悪性・良性腫瘍／婦人科一般
田坂 玲子 たさか れいこ	講師	婦人科悪性・良性腫瘍／婦人科一般

その他

専門外来として、子宮・卵巣悪性腫瘍治療後の管理外来、異形成管理外来、子宮筋腫・内膜症外来がありますが、いずれの外来も一度初診外来の受診が必要となります。

主な診療実績（2022年度）

子宮頸がん手術	35件
子宮体癌手術（癌肉腫を含む）	61件
子宮肉腫手術	2件
卵巣がん手術	64件
外陰癌手術	1件
悪性腫瘍に対する腹腔鏡下・ロボット支援下手術	15件
良性疾患に対する腹腔鏡下手術	98件
子宮頸部円錐切除術	117件
子宮鏡下手術	12件
子宮頸がんに対する放射線治療	10件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Ophthalmology

診療方針

大阪公立大学病院は大阪市内にある唯一の大学病院であり、眼科疾患における最終病院としての使命を担っています。現在は網膜疾患、ぶどう膜炎を中心とした、あらゆる難治性眼疾患に対応するべく診療体制の充実を図っており、実際に多くの患者さんをご紹介いただいています。2021年度には外来処置室を新設し、そこで小手術や硝子体注射を行えるようになりました。また、緊急疾患も積極的に受け入れており、毎年150例以上の緊急手術を施行しています。これからも各医療機関との連携を推進しながら皆様のニーズに応えるべく、柔軟な診療体制を継続して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

診療科の特徴

特に網膜疾患の診療については長年の伝統があり、中でも加齢黄斑変性の臨床、研究は世界レベルであると自負しております。当院では無侵襲で網膜のみならず脈絡膜の微細な構造が観察できる高深達光干渉断層計（SS-OCT）や光干渉断層血管撮影装置（OCTA）、広角眼底撮影装置などの検査機器、および光線力学療法や閾値下レーザー凝固装置などの治療機器を含めた最新の設備を揃え、あらゆる角度から得た情報をもとに豊富な経験と技量を持った臨床医による診療を行っています。一方、先進的な活動として多くの世界的な多施設研究や治験に参加してエビデンスの構築に携わると共に、患者さんの様々な背景因子を基にした個別化医療を推進して行きます。また手術に関しては網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔など殆どの網膜疾患に対して超低侵襲の27ゲージ硝子体手術システムに加えて2020年2月から関西圏では初となる4KCCDカメラと3D画像モニターを使用した最新のhead-up surgeryを開始しています。その他にもぶどう膜炎、緑内障、神経眼科、小児眼科の診療にも適応しています。

対象疾患

【主力疾患】

- 加齢黄斑変性
- 網膜剥離
- 糖尿病網膜症
- 網膜前膜
- 黄斑円孔
- 中心性漿液性脈絡網膜症
- 糖尿病黄斑症
- 網膜静脈閉塞症
- 眼外傷
- 白内障
- 眼腫瘍
- 眼窩疾患
- 緑内障
- ぶどう膜炎

【対応できる疾患】

- 神経眼科
- 斜視
- 弱視

専門外来・治療実績等

- ① 専門外来（月曜日午後：網膜外来、火曜日午後：眼底（黄斑）外来、木曜日午後：眼炎症・腫瘍外来／斜視・弱視外来（隔週）、金曜日午後：緑内障外来）
- ② 治療実績（網膜剥離手術、増殖糖尿病網膜症手術、黄斑円孔手術、網膜前膜手術、緑内障手術、白内障手術、硝子体注射、光線力学療法、眼腫瘍摘出術）



ほんだ しげる

本田 茂

診療科部長／教授

[専門・担当]

網膜硝子体疾患、未熟児網膜症、小児眼科、神経眼科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
河野 剛也 こうの たけや	診療科副部長／准教授	加齢黄斑変性／ぶどう膜炎／鈍的眼外傷
山本 学 やまもと まなぶ	講師	黄斑疾患／網膜硝子体疾患
田上 瑞記 たがみ みずき	講師	眼腫瘍／ぶどう膜炎／網膜硝子体疾患
平山 公美子 ひらやま くみこ	助教	網膜硝子体疾患
上野 洋祐 うえの ようすけ	病院講師	緑内障／白内障
居 明香 きよ あきか	病院講師	眼科全般／黄斑疾患
二瓶 亜樹 にへい あき	後期研究医	小児眼科
壺井 秀企 つばい ひでき	後期研究医	眼科全般／神経眼科
坂井 淳 さかい あつし	医員	眼科全般
三澤 宣彦 みさわ のぶひこ	医員	眼科全般

主な診療実績（2022年度）

水晶体再建術	994 件
硝子体手術	385 件
緑内障手術	135 件
網膜復位術	17 件
多焦点眼内レンズ	6 件
眼窩内腫瘍摘出術	24 件
斜視手術	21 件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

耳鼻いんこう科

外来受付

2階11番 TEL (06) 6645-2381

初診は月曜日から金曜日の9時～10時30分受付です（予約制）
 地域連携室を通して予約を取って頂くことも可能です。
 他院からの紹介状が必要です。再診は完全予約制です。

Otolaryngology, Head and Neck Surgery

診療方針

耳鼻咽喉科は、多彩な疾患（頭頸部腫瘍、めまい疾患、難聴・耳鳴、APD、中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、睡眠時無呼吸など）に対し、診断および治療を行っております。近隣地域の耳鼻咽喉科や内科の診療所を中心に多数の症例を御紹介いただき、評価や治療が終了後は紹介元にお戻りいただくという地域連携を行いながら、高度な医療を提供させていただければと考えておりますので、よろしくお願いたします。

診療科の特徴

当科の診療は耳鼻咽喉科全般を扱っております。頭頸部腫瘍に対しては手術療法や放射線療法、化学療法、免疫療法を行っており、早期がんに対しては鏡視下手術も行っております。めまい疾患に対しては原因をあきらかにするため種々の内耳機能検査を含んだ平衡機能検査を通院または入院で行っております。難治性メニエール病に対しては中耳加圧療法や内リンパ嚢開放によるめまいのコントロールも積極的にすすめております。また難治性耳鳴に対する治療としてTRT療法については全国でも有数の治療経験があると自負しております。中耳疾患に対しては内視鏡下の手術を積極的に取り入れており、低侵襲で短期入院での治療を心掛けております。副鼻腔疾患についても内視鏡手術にて副鼻腔炎から鼻副鼻腔や頭蓋底の腫瘍まで行っております。院内の内科、外科、形成外科、小児科、脳神経外科、放射線科などとの連携を密にとり、疾患や病状により協同で薬物治療や手術治療を行っております。特に頭頸部がんにおいては他科との協同手術症例が増加しています。

対象疾患

【主力疾患】

- 感音難聴・耳鳴
- 突発性難聴
- 伝音難聴
- 慢性化膿性中耳炎
- 真珠腫性中耳炎
- 滲出性中耳炎
- 喉頭がん
- 咽頭がん、舌がん
- 口腔がん
- 副鼻腔悪性腫瘍
- メニエール病
- 良性発作性頭位めまい症
- 唾液線腫瘍
- 慢性副鼻腔炎
- アレルギー性鼻炎
- 慢性扁桃炎
- 急性喉頭蓋炎
- 深頸部膿瘍
- 睡眠時無呼吸症候群
- APD

【対応できる疾患】

- 悪性リンパ腫
- シェーグレン症候群
- ベーチェット病
- 多発性軟骨炎

専門外来

1. 頭頸部腫瘍外来
2. めまい外来
3. 慢性中耳炎外来
4. 難聴・耳鳴外来
5. アレルギー外来
6. 聴覚リハビリ外来
7. 睡眠時無呼吸外来
8. 遺伝性難聴外来
9. 甲状腺腫瘍外来
10. 鼻副鼻腔外来
11. APD 外来



すなみ きしこ

角南 貴司子 [専門・担当]

診療科部長/教授

神経耳科、めまい、側頭骨外科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
阪本 浩一 さかもと ひろかず	准教授	小児難聴/遺伝性難聴/アレルギー/言語障害
大石 賢弥 おおいし まさひろ	講師	頭頸部腫瘍/甲状腺腫瘍
高野 さくらこ たかの さくらこ	講師	難聴/耳鳴
三輪 徹 みわ とおる	講師	神経耳科/めまい
神田 裕樹 こうだ ゆうき	講師	神経耳科/めまい/側頭骨外科
寺西 裕一 てらにし ゆういち	病院講師	副鼻腔・頭蓋底外科/頭頸部腫瘍
梶本 康幸 かじもと やすゆき	病院講師	甲状腺腫瘍/耳鼻咽喉科全般
河相 裕子 かわい ひろこ	病院講師	耳鼻咽喉科全般
横田 知衣子 よこた ちえこ	医員	頭頸部腫瘍
山本 祐輝 やまもと ゆうき	医員	頭頸部腫瘍
竹宮 由美 たけみや ゆみ	医員	鼻副鼻腔/耳鼻咽喉科全般
亀井 優嘉里 かめい ゆかり	医員	甲状腺腫瘍/耳鼻咽喉科全般

主な診療実績 (2022年度)

耳科手術	130件	鼻科手術	221件	頭頸部手術	249件
鼓室形成術	48件	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	100件	頸部郭清術	75件
人工内耳手術	6件	視神経管開放術	1件	頭頸部腫瘍摘出術	185件
アブミ骨手術	5件	涙嚢・鼻涙管手術	2件	甲状腺良性腫瘍摘出術	27件
顔面神経減荷術	4件			バセドウ病手術	5件
鼓膜形成術	13件	口腔咽喉頭手術	272件	甲状腺悪性腫瘍摘出術	26件
乳突削開術	25件	舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	143件	気管切開術	70件
試験的鼓室開放術	2件				

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。
地域医療機関の先生方へ

初診の際は聴力などの検査データがあれば同封いただければ幸いです。

Anesthesiology & Pain Clinic

診療方針

医療の進歩は低侵襲手術やロボット支援手術など高度で正確な手術を普及させ、大きな合併疾患をお持ちの方や高齢者の手術も可能にしました。それに伴って手術を希望される方の数も年々増加しており、その要望に応える事が麻酔科の大きな課題となっております。私たち麻酔科医は手術をお受けになる患者さんの全身の状態を術前から把握し、手術中の痛みと、さまざまな危険から守る事を専門としています。何の不安も痛みもなく手術を受けていただけることを目標とし、安全、安心と迅速さをモットーに日々の診療を行っております。

ペインクリニック科部門では、難治性の痛みや癌の痛みからの開放をめざし、最先端の医療も取り入れて幅の広い手法で日々の診療に努力しております。患者さんの1日でも早い日常生活への復帰の手助けとなることが、わたしたちの最大の喜びであり、そのために日々の研究・診療に取り組んでおります。

診療科の特徴

麻酔科術前診察外来では、手術予定の患者さんを診察し、最も適した麻酔方法を検討して、麻酔について詳しく説明いたします。

ペインクリニック科とは痛みを総合的に診断し治療する診療科です。痛み治療を第一に行うのが特徴です。慢性化した疼痛は生体の危険信号ではなく患者さんを悩ませるだけです。そのような患者さんに対して神経ブロックに加えて、疼痛疾患に有効な各種の治療法、すなわち薬物療法、刺激鎮痛法、理学療法、心理療法、手術的処置などを総合的に適用し治療を行います。

日本のペインクリニックは麻酔科医を中心に運営され、神経ブロックによる治療が多いのですが、疼痛の治療には整形外科医、脳神経外科医、精神科医、神経内科医、臨床心理士、看護師、理学療法士などの協力を得た集学的治療が重要です。そのために他科・他部門との連携を密に行っています。

対象疾患

【主力疾患】

- 帯状疱疹関連痛
- 腰痛症
- 膝股関節症
- 脊椎症
- 脊柱管狭窄症
- 複合性局所疼痛症候群 (CRPS)
- 三叉神経痛
- 癌性疼痛
- 頭痛
- 非定型顔面痛
- 肋間神経痛
- Failed Back Surgery Syndrome
- 求心路遮断性疼痛
- 肩関節周囲炎
- 頸肩腕症候群
- 遷延性創部痛
- 閉塞性動脈硬化症
- 閉塞性血栓血管炎

【対応できる疾患】

- 舌痛症
- 会陰部痛



もり たかし

森 隆

診療科部長／教授

[専門・担当]

手術麻酔

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
松浦 正 まつうら ただし	診療科副部長／准教授	手術麻酔
矢部 充英 やべ みつひで	講師	手術麻酔／ペインクリニック／緩和医療
田中 克明 たなか かつあき	講師	手術麻酔／情報システム
末廣 浩一 すえひろ こういち	講師	手術麻酔
舟井 優介 ふない ゆうすけ	講師	手術麻酔／小児麻酔／心臓麻酔
堀 耕太郎 ほり こうたろう	講師	手術麻酔／心臓麻酔
山崎 広之 やまさき ひろゆき	講師	手術麻酔／ペインクリニック／緩和医療
藤本 陽平 ふじもと ようへい	講師	手術麻酔
辻川 翔吾 つじかわ しょうご	講師	手術麻酔／心臓麻酔
日野 秀樹 ひの ひでき	講師	手術麻酔／小児麻酔／心臓麻酔
向 陽 むかい あきら	病院講師	手術麻酔
木村 文 きむら あや	病院講師	手術麻酔

主な診療実績（2022年度）

①治療実績

麻酔科管理症例	5671 件	ロボット支援手術（全身麻酔管理）	448 件
全身麻酔	5070 件	ハイブリッド手術（全身麻酔管理）	200 件
全身麻酔＋硬膜外麻酔	237 件	神経ブロック（ペインクリニック）	847 件
全身麻酔＋伝達麻酔	164 件	脊髄刺激療法（ペインクリニック）	5 件
脊椎麻酔	524 件		
ペインクリニック 新患患者数	367 名		
再診患者数	7697 名		
入院患者数	20 名		

②先進医療・特殊医療

脊髄硬膜外刺激電極埋め込み術	Racz カテーテルによる経皮的硬膜外腔癒着剥離術
椎間板内治療	

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

Plastic & Reconstructive Surgery

診療方針

当形成外科は交通の要所である天王寺駅より徒歩7分と至便の立地にあり、これまで実に多くの患者さんにご利用いただいて参りました。形成外科部門は1993年に皮膚科と耳鼻咽喉科の協力により誕生いたしました。以来、順調に発展しつつ、2015年1月には元村尚嗣が初代教授として拝命され、今日を迎えるにいたっております。これからも日々の診療内容の充実とともに、新技術開発などの臨床研究にも力を入れて参ります。多くの患者さんからの声援と支持に助けられ、大学病院、大阪市立総合医療センター、関連病院での医療サービスを充実中です。形成外科関係の疾患や外傷でお悩みの方は、当病院または関連病院にご相談ください。最善のサービス提供を目指します。

診療科の特徴

形成外科とは体表面を中心とする先天性・後天性の醜形・機能障害を、おもに外科的手段によって正常に近づけ、肉体的・精神的苦痛を取り除くことを目的とする科です。

診療項目として以下が挙げられます。

- ・ケガ（きれいに治すことも目標にします）
- ・顔面骨折（新鮮、陳旧性）
- ・やけど（新鮮熱傷、熱傷後後遺症）
- ・あざ
- ・皮膚腫瘍（良性、悪性）
- ・先天異常（唇顎口蓋裂、小耳症、多合趾（指）症など）
- ・皮膚潰瘍（褥瘡、虚血性潰瘍、糖尿病性足病変など）
- ・がんの切除後の再建（頭頸部、体幹、四肢）
- ・乳房再建
- ・リンパ浮腫
- ・偏頭痛外科（2023年4月より開設）

専門的な知識と診療技術を持ち、これらの領域に関して適切に対応する診療を行い、必要に応じて他領域の専門医と共同して治療を行います。特に、当科は他科との連携を得意とし、多くのチーム医療を行っています。

対象疾患

【主力疾患】

- 新鮮外傷・熱傷
- 顔面外傷・骨折
- 種々の先天異常
- 母斑・血管腫・良性腫瘍
- 悪性腫瘍切除後再建外科
- 瘢痕・瘢痕拘縮
- 褥瘡・難治性潰瘍
- 皮膚悪性腫瘍
- 頭蓋顎顔面外科

【対応できる疾患】

- 熱傷・軟部組織損傷
- 鼻骨・頬骨・上下顎骨折
- 手足の先天異常
- 母斑性疾患
- 血管腫
- 良性腫瘍
- マイクロサージャリーを含めた再建外科
- 瘢痕・瘢痕拘縮の改善
- 褥瘡
- 慢性潰瘍
- 皮膚悪性腫瘍
- リンパ浮腫
- 顎変形症
- 偏頭痛外科



もとむら ひさし

元村 尚嗣

診療科部長／教授

[専門・担当]

再建外科（外傷後・術後変形、顔面神経麻痺、乳房再建）、
皮膚悪性腫瘍

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
諸富 公昭 もろとみ ただあき	診療科副部長／准教授	頭蓋顎顔面外科
藤川 平四朗 ふじかわ へいしろう	病院講師	小児外科
前田 周作 まえだ しゅうさく	病院講師	再建外科、マイクロサージャリー
藤井 奈穂 ふじい なほ	病院講師	レーザー
出口 綾香 でぐち あやか	病院講師	乳房再建／偏頭痛外科
姜 成樹 かん せんす	後期研究医	一般形成外科
小島 空翔 こじま つばさ	後期研究医	一般形成外科
入潮 実季 いりしお みき	後期研究医	一般形成外科
松井 千明 まつい ちあき	前期研究医	一般形成外科
荒井 恵里佳 あらい えりか	前期研究医	一般形成外科
小倉 一真 おぐら かずま	前期研究医	一般形成外科

主な診療実績（2022年度）

頭頸部再建	15件
自家組織による乳房再建	13件
外科系再建	10件
その他の再建外科症例	17件
マイクロサージャリー症例	46件
皮膚悪性腫瘍切除	29件
顔面骨骨折	31件
先天異常に対する小児外科症例	27件
眼瞼下垂症	36件
レーザー	260件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

血液内科 （血液内科・造血細胞移植科）

外来受付

2階17番

月～金曜日初診を受け付けています。白血病が疑われる場合は、事前の予約がなくても、ご連絡いただければ対応させていただきます。

Department of Hematology and hematopoietic cell transplantation

診療方針

血液内科・造血細胞移植科では、基本方針（患者さんと共に医療チームが一丸となって病気に立ち向かう、エビデンスに基づいた安全で質の高い医療を提供する、血液疾患に対する高度先進医療の推進および開発研究を行う、優れた知識・技術・科学的思考・倫理観を備えた人間味の豊かな血液内科医を育成する）に従い、血液疾患、特に白血病や悪性リンパ腫に対してエビデンスに基づく標準的な治療に加えて、造血幹細胞移植推進拠点病院として骨髄、末梢血、臍帯血を用いた同種造血幹細胞移植療法を積極的に実施し、最先端の CAR-T 治療も行っております。また、当科では地域の先生方との病診連携により、患者さんの様々なニーズに答えていくため、ホームドクターを持っていただいております。

診療科の特徴

- ①造血幹細胞移植推進拠点病院として血縁および非血縁（骨髄バンク、臍帯血）ドナーからの同種造血幹細胞移植を積極的に実施し、造血器悪性腫瘍の完治をめざしています。また、複数の CAR-T 治療も実施しております。
- ②移植サポートチーム（医師・歯科医師・看護師・造血幹細胞移植コーディネーター・薬剤師・歯科衛生士・理学療法士・管理栄養士・臨床工学技士・放射線技師・臨床検査技師・MSW・患者会など）が、患者さんの病状にあわせて最も適した治療・ケアを提供しています。
- ③治療法の選択肢は様々ありますので、患者さん自身の希望に合わせて十分なインフォームド・コンセントをさせていただき、治療方法を一緒に考えています。患者さんのための日曜セミナーを毎年開催し、積極的な情報提供を行っております。
- ④最新の標準治療の提供に加えて、新薬の国際共同治験、厚生労働科学研究をはじめ国内外の研究機関との共同研究や施設独自の研究的な治療も積極的に行っております。

対象疾患

【主力疾患】

- 急性骨髄性白血病 ●急性リンパ性白血病 ●慢性骨髄性白血病 ●非ホジキンリンパ腫
- ホジキンリンパ腫 ●成人T細胞白血病・リンパ腫 ●骨髄異形成症候群 ●慢性リンパ性白血病
- 再生不良性貧血 ●真性多血症 ●骨髄線維症 ●本態性血小板血症 ●特発性血小板減少性紫斑病
- 多発性骨髄腫 ●マクログロブリン血症 ●慢性活動性 EB ウイルス感染症

【対応できる疾患】

- 発作性夜間ヘモグロビン尿症 ●溶血性貧血 ●悪性貧血 ●血友病 ●フォン・ヴィルブランド病
- 無顆粒球症



ひの まさゆき

日野 雅之

[専門・担当]

診療科部長／教授

血液内科全般、造血幹細胞移植、セカンドオピニオン

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中前 博久 なかまえ ひろひさ	診療科副部長／准教授	血液内科全般／造血幹細胞移植
中嶋 康博 なかしま やすひろ	講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
西本 光孝 にしもと みつたか	講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
岡村 浩史 おかむら ひろし	講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
高桑 輝人 たかくわ てるひと	病院講師	血液内科全般／多発性骨髄腫
久野 雅智 くの まさとも	病院講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
幕内 陽介 まくうち ようすけ	病院講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
酒徳 一希 さかとく かずき	病院講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
井戸 健太郎 いど けんたろう	病院講師	血液内科全般／造血幹細胞移植
堀内 美令 ほりうち みれい	病院講師	血液内科全般／造血幹細胞移植

主な診療実績（2022年度）

同種末梢血幹細胞移植術	24件	骨髄採取術	10件
同種骨髄移植術	11件	自家末梢血幹細胞移植	10件
臍帯血移植術	5件	CAR-T療法	10件
末梢血幹細胞採取術	27件		

取り組み

- ①治療実績：2023年3月までに832例の同種造血幹細胞移植を実施しています。骨髄バンクドナーの採取は全国一の567例行っています。実績は当医学部 血液腫瘍制御学のホームページで公開しています。
- ②先端医療：移植後シクロホスファミド大量療法を用いた血縁HLA半合致移植（ハプロ移植）を実施しています（2023年3月までに186例）。また難治性の造血器悪性腫瘍に対するCAR-T療法を実施しています。
- ③毎週木曜日の午前中に完全予約制で移植相談外来およびセカンドオピニオン外来を開設しております。お手数ですが、紹介状をお願いします。別途費用が必要です。
- ④治験：新薬の治験を数多く実施しています。
- ⑤コンソーシアム：大阪市立総合医療センター、大阪府済生会中津病院、生長会府中病院、大阪鉄道病院、大阪みなと中央病院、四天王寺病院、寺元記念病院、石切生喜病院、LIGARE 血液内科太田クリニック・心斎橋と連携し、血液疾患全般に対応しております。

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

脳神経内科

外来受付

初診は、紹介元の医療機関等から地域医療連絡室を通じてご予約をおとりください。

・受付場所…脳神経内科（2階15番） ・診察受付…9:00～10:30 ・診療時間…9:00～16:45

※初診のときは、外来診察担当表をご確認ください。

認知症含め脳神経内科の初診は、月～金です。

専門外来の受診を希望される場合は、まず担当医の初診外来（担当医が初診担当していない場合は、他の初診医）を受診してください。

Neurology

診療方針

脳神経内科は、脳卒中、認知症、運動疾患といった高齢化社会で最も重要な疾患を取り扱う診療科の一つです。特に認知症については、60歳以降では10歳ごとに発症リスクが倍になる疾患であり、適切な鑑別診断、早期からの治療や環境調整、地域医療との連携などが重要です。当科では認知症に対する最先端の検査機械をそろえ、心理士による認知機能の専門的な評価、治験をはじめ最先端の治療法を導入し、地域の期待に応えられるように日々努めています。今後も、(1) 市民への貢献を心掛ける、(2) 先端医療を開発し、迅速な導入に努める、(3) 研修・教育機関としての役割を果たす、の3つを基本方針とし、診療に臨んでいきます。

診療科の特徴

市民の皆様、地域の診療機関の先生方から強い要望のあった3領域についての診療を柱に大幅に診療枠を拡大します。

- (1) 脳血管障害：急性期脳梗塞に対するrt-PAを用いた血栓溶解療法、血管内治療を行います。脳外科との協力のもと脳出血も診療します。
- (2) 認知症診療：大阪市認知症疾患センターの一つとして、大阪市内の認知症診療をリードしていきます。アミロイド・タウPETやFDG-PET、生化学的マーカーを用いての最先端の医療や治験などを実施します。
- (3) 変性疾患：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など、神経内科専門医の診療を必要とする難病に対応します。こうした神経内科医療を実現するために、これまで以上に、他科（他の内科、脳外科、放射線科、救急科、リハビリ科）との連携を強めていきます。その他、てんかん、頭痛などの機能性疾患、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性筋炎、多発神経炎などの自己免疫疾患、神経感染症など幅広く診療していきます。

対象疾患

【主力疾患】

- 脳梗塞
- 脳出血
- アルツハイマー病
- レビー小体型認知症
- パーキンソン病
- 脳血管性認知症
- 片頭痛・群発性頭痛
- もやもや病
- パーキンソン症候群
- 脊髄小脳変性症
- 多系統萎縮症
- 筋萎縮性側索硬化症
- 多発性硬化症
- ギランバレー症候群
- 脳炎・髄膜炎
- ミトコンドリア脳筋症
- 多発筋炎・皮膚筋炎
- 筋無力症
- 前頭側頭葉型認知症
- てんかん

【対応できる疾患】

- 進行性核上性麻痺
- 肥厚性硬膜炎
- 筋強直性ジストロフィー
- 急性散在性脳脊髄炎
- ハンチントン病
- 進行性多巣性白質脳症
- 大脳皮質基底核変性症
- アミロイドニューロパチー
- Churg-Strauss症候群
- 遺伝性ニューロパチー
- 筋ジストロフィー（成人）
- 後天性代謝性ミオパチー
- 家族性性対麻痺
- ウィルソン病
- 本態性振戦
- 良性発作性頭位変換性めまい症
- 周期性四肢麻痺
- 書痙
- 正常圧水頭症
- Crow-Fukase症候群



いとう よしあき

伊藤 義彰

[専門・担当]

診療科部長／教授

脳神経内科、脳血管障害、認知症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
蔦田 強司 つただ つよし	講師	脳神経内科
武田 景敏 たけだ あきとし	診療科副部長／講師	脳神経内科／高次機能障害／認知症
三野 俊和 みの としかず	講師	脳神経内科
長谷川 樹 はせがわ いつき	病院講師	脳神経内科／パーキンソン病／認知症

専門外来の紹介

◆脳卒中外来

担当医：伊藤義彰

対象疾患：脳梗塞、脳出血慢性期の再発予防、ハイリスク患者のリスクコントロールを行います。また、まれな脳血管障害として遺伝性脳血管障害、凝固異常症に伴う脳血管障害、血管奇形などの診療も行います。

◆パーキンソン等外来

担当医：長谷川樹

対象疾患：加齢に伴う症状との鑑別の為、MRIだけでなくDAT スキャンという頭の画像検査を行います。パーキンソン病は薬剤によって症状が良くなる病気ですが、長期の内服、薬剤の調節が必要ですので、専門外来での加療が有効です。

◆遺伝疾患外来

担当医：伊藤義彰

対象疾患：従来の遺伝子検査では不明である遺伝性の神経疾患

◆失語症外来

担当医：武田景敏、水田秀子

対象疾患：変性疾患、脳血管障害など神経疾患による失語症

◆若年性認知症外来

担当医：武田景敏

対象疾患：様々な認知症

◎受診方法：かかりつけ医に紹介状を作成いただいたうえで、担当医の初診外来を受診してください。

主な診療実績（2022年度）

筋生検 10件

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

Oral and Maxillofacial Surgery

診療方針

歯科口腔外科は口腔内の細菌による歯周炎（歯周病）の治療を担当しています。口腔内の細菌は心筋梗塞・狭心症、誤嚥性肺炎、糖尿病、早産、さらには認知症、動脈硬化や血栓の形成など多くの疾患と関わっていることが解ってきました。そこで歯周炎の原因である口腔内の細菌のコントロール、すなわち口腔内感染症を制御することにより、医科の多くの病気の治療へ関わることを当科の治療方針と位置付けています。特に当院での全身麻酔の手術前に口腔ケアを行うことにより、手術による合併症、術後のトラブルを予防することに努めています。

診療科の特徴

大阪公立大学大学院医学研究科歯科口腔外科学は学内で最も新しい教室として、2015年4月1日に設立されました。医学部附属病院においては、2015年10月1日より病院5階の歯科口腔外科診療室にて診療を開始しております。2012年からのがん対策推進基本法では、医科と歯科の密接な連携に基づいた医療を推進することが求められ、厚生労働省からは特定機能病院には歯科口腔外科の設置が求められました。その医科歯科連携を実現するという理念のもとに設立された当科は、医学部附属病院において、全身麻酔手術、抗がん剤治療、造血幹細胞移植治療を受ける周術期患者の口腔機能管理を担当しております。がん治療の拠点病院である当院では食道癌、血液悪性疾患を中心とした多くのがん患者さんの治療を実施しております。がん治療中の患者さんは口の中に口内炎をはじめ多くの苦痛を抱えておられるので、当科はその口腔内の問題点の解決を重要課題と認識しております。一方、地域中核病院として近隣開業歯科医の先生との連携をはかり、一般歯科医院では困難な歯科治療や口腔外科的疾患の治療を受け入れ、その治療を担当しております。例えば親知らずの抜歯、歯科治療中の炎症の急性化による感染症、難治性口内炎、顔面外傷、顎変形症など、歯科の領域であっても、入院、手術の必要となる患者さんの治療を受け持っております。

大学病院として、診療のみならず、研修医を受け入れる教育機関として、さらに最新医療の情報を発することができる研究機関としての役割を担えるようスタッフの充実を図ることを目指しております。

対象疾患

【主力疾患】

- 周術期口腔機能管理
- 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（顎骨骨髓炎）
- 睡眠時無呼吸症候群（口腔内装置による治療）
- 智歯周囲炎（親知らずの抜歯）
- 顎顔面の急性炎症
- 顎変形症
- 顎関節症
- 口腔粘膜疾患
- 顎骨嚢胞

【対応できる疾患】

- 口腔領域腫瘍
- 難治性口内炎
- インプラント治療



なかはら ひろかず

中原 寛和

[専門・担当]

診療科部長／教授

歯科口腔外科

スタッフ・専門領域

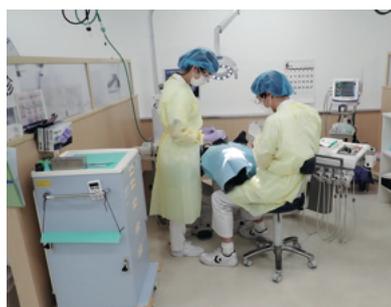
氏名	役職	専門領域
森本 泰成 もりもと やすなり	病院講師	歯科口腔外科
中川 聖子 なかがわ せいこ	研究医	歯科口腔外科
中村 彩乃 なかむら あやの	研究医	歯科口腔外科
荒井 良輔 あらい りょうすけ	医員	歯科口腔外科
鍛冶谷 里咲 かじや りさ	医員	歯科口腔外科
中原 望由花 なかはら みゆか	医員	歯科口腔外科
徳岡 勲 とくおか いさお	医員	歯科口腔外科
大谷 朋弘 おおたに ともひろ	医員	歯科口腔外科

主な診療実績 (2022 年度)

抜歯症例	35 件	唾液腺疾患	2 件
消炎手術	6 件	インプラント関連手術	9 件
良性腫瘍手術 (嚢胞含む)	21 件	計	89 件
癌・前癌病変関連手術	8 件		
顎顔面外傷	8 件		

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書 (診察予約申込書) に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。



診療室は入院中の患者さんに車いす、歩行器での受診も可能なスペースを確保しております。

Department of Infectious Diseases

診療方針

近隣施設や院内からご紹介いただいた感染症症例の専門的な検査・診断や治療を行っています。必要に応じて入院加療も可能です。受診するには、依頼書（診療情報提供書（紹介状）、検査結果、画像検査等）が必要です。

診療科の特徴

本院の感染症内科は2015年の10月に創設され、12月から外来・病棟業務を開始しています。感染症一般を幅広く診療していますが、特に呼吸器感染症に関しては診療経験が豊富で、細菌・ウイルス・真菌・抗酸菌感染症等の診断・治療を行っています。その他、本院入院中の全科より感染症の相談を受けており、専門的な立場から一緒に患者さんを診療させていただいています。また、感染制御の立場からも院内全体の適切な感染症診療を支援しています。

対象疾患

[主力疾患]

- 呼吸器感染症
- 敗血症
- 感染性心内膜炎
- 髄膜炎
- 皮膚軟部組織感染症
- 尿路感染症
- 腸管感染症
- 耐性菌感染症
- 真菌感染症
- 抗酸菌感染症

[対応できる疾患]

- 輸入感染症（一類感染症は除く）
- 性感染症
- 不明熱
- 寄生虫感染症

特徴と実績

現在、火・木・金の午前中に外来を行っています（受付時間午前9時～午前10時30分）。呼吸器感染症や性感染症を中心に、一般感染症を診療します（上記：対象疾患）。必要に応じて入院診療も可能です。

アカデミックな環境で、感染症の原因究明を目指し、治療にあたります。外来や入院、そして院内の感染症診療に関するコンサルト業務を担当しています。モットーは「即日対応、依頼にNOはない」です。感染症内科として2015年12月に外来診療を開始以来、院内外から毎週新患をご紹介いただいています。従来より院内の感染症コンサルトを行ってまいりましたが、これまで約4500名の感染症診療に携わらせていただきました。

基本的には感染症が改善するまで担当医と一緒に診療を行います。



かけや ひろし

掛屋 弘

診療科部長／教授

[専門・担当]

感染症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
山田 康一 やまだ こういち	診療科副部長／講師	感染症
柴多 涉 しばた わたる	病院講師	感染症
井本 和紀 いもと わき	病院講師	感染症
覺野 重毅 かくの しげき	医員	感染症
河本 健吾 かわもと けんご	医員	感染症

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。

ゲノム診療科

Department of Clinical Genomics

診療方針

遺伝医学の進歩に伴い、病気の診断と治療に遺伝子を調べるものが広く応用されています。「ゲノム医療」とは単に遺伝子診断をすることではなく、さまざまな手法を用いてゲノム（ヒト一人がもちあわせている遺伝情報のセット）から得られた情報を、診断と治療に生かしていく医療のことです。具体的には専門医による遺伝学的診断から、遺伝カウンセラーを交えての病気の詳しい説明、検査や治療を受けるかどうかの難しい判断のための情報提供など様々なご要望にできる限り対応させていただきます。当科は「病気のことをもっと知りたい」と希望されている患者さんやご家族が、このような遺伝子・ゲノムからみた身体・病気の情報、診断、予防などについて情報提供すること、今後の治療の方向性をご自身、ご家族が決めていくうえで大きなヒントを得てもらうことを目的にしています。

診療科の特徴

ゲノム診療科は遺伝子というキーワードでさまざまな疾患に対応いたします。どのような疾患でも紹介や相談を受付させていただきますが、我々の特色・特徴は下記のようなものがあります。

- 1) 希少・難病疾患の診断：当院は国立研究開発法人日本医療研究開発機構のプロジェクトである「未診断疾患イニシアチブ（IRUD）」の拠点病院（クリニカルセンター）です。通常の医療の中で病気の原因が判明しない患者さん（いわゆる未診断疾患患者）は治療方法も見つからないまま、様々な症状に悩まされています。このような遺伝学的に未診断疾患の患者さんについて、専門医が最新の遺伝医学を用いて診断を試みます。
- 2) 神経難病の診断：当院は大阪府難病診療連携拠点病院に選定されています。本拠点病院の役割は難病の診断を正しく行う医療の提供、遺伝学的検査及び遺伝カウンセリングの実施、また適宜、他院への紹介などです。ゲノム診療科はこの役割の一端を担います。
- 3) がんゲノム医療：最近「がん」の治療に遺伝子検査で得られた結果を応用する医療が広まってきました（がんゲノム医療）。当院は厚生労働省が指定するがんゲノム医療連携病院に指定されています。がんゲノム医療では、治療が困難ながんを有する患者さんに対して「がん遺伝子パネル検査」を行い、治療法を模索していきます。また、がん遺伝子検査の結果や家族歴から「遺伝性腫瘍」と診断される場合があります。そのような患者さんに医師と遺伝カウンセラーが専門的知識で支援しています。当院ではこのようながんゲノム医療について、専門医と遺伝カウンセラーがサポートいたします。

ゲノム診療科では、診断のための診察や相談、遺伝カウンセリングを行います。そのため、原疾患のフォローアップは原則として行いません。一定の結果が得られた段階で、紹介していただきましたクリニック、病院の主治医の先生方へフィードバックさせていただきます。



すみ としゆき

角 俊幸

診療科部長／教授

[専門・担当]

婦人科腫瘍

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
八代 正和 やしろ まさかず	診療科副部長／研究教授	遺伝性腫瘍／遺伝性腫瘍専門医
瀬戸 俊之 せと としゆき	診療科副部長／病院教授	希少難病・遺伝性疾患全般／ 臨床遺伝専門医・指導責任医
阪本 浩一 さかもと ひろかず	准教授	遺伝性難聴／腫瘍性疾患／臨床遺伝専門医
田原 三枝 たはら みえ	講師	周産期関連／出生前診断／臨床遺伝専門医
大霜 智子 おおしも ともこ	講師	遺伝性皮膚疾患／臨床遺伝専門医
堀田 純子 ほった じゅんこ	医員	希少難病・遺伝性疾患全般
山下 朋代 やました ともよ	医員	希少難病・遺伝性疾患全般

対象疾患

[主力疾患]

- ファブリー病
- ゴーシェ病
- ムコ多糖症等のリソゾーム病全般
- 難治てんかん
- 重度の知的・発達障がいなど小児神経内科疾患
- 染色体異常症
- 先天異常症候群
- 先天代謝異常症
- 脊髄小脳変性症などの遺伝性神経疾患
- 多発性内分泌腺腫症Ⅰ型もしくはⅡ型
- 遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC)
- 家族性大腸ポリポーシス
- リンチ症候群やり・フラウメニ症候群などの遺伝性腫瘍

[対応できる疾患]

- 小児科から成人までの様々な希少・難病疾患に関する診断と遺伝カウンセリング
- 様々な出生前診断に関する遺伝カウンセリング
- 遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング

ご紹介時のお願い

初診予約 診療情報提供書（診察予約申込書）に必要事項をご記入の上、地域医療連絡室へ FAX にてお申込みください。

- ・ 予約は本院地域連携連絡室の所定の用紙をご利用ください。
- ・ 事前に希望する診療内容・相談内容を遺伝カウンセラーからお伺いする場合がありますので、可能であれば患者さんの携帯番号等の連絡先を診療申込書に記入ください。
- ・ 診療内容により保険診療になる場合と自費診療になる場合があります。
- ・ 自費診療での診察になる場合は、同日に他科での診療（保険診療）はできません。
- ・ 自費診療の場合、基本的に遺伝カウンセリング料が発生します。
- ・ 完全予約制です。

リハビリテーション科

外来受付

当院の地域連絡室を通じてご紹介いたします。

受付時間 月曜日～金曜日 午前9時から午後7時まで
(土・日・祝日と年末年始12月29日～1月3日を除く)

※ 患者さんから直接のお申込みは受け付けておりません。

電話 06-6645-2877 (直通)

Rehabilitation Medicine

診療方針

リハビリテーション医学は、患者さん個人個人の最大限のQOL（生活の質）獲得を目的に、発症直後から住み慣れた環境に落ち着くまで、療法、指導、社会資源の選択など様々な介入を横断的かつ継ぎ目なく行う医学となります。

当科は大学病院という特性上、外来において療法を行うことは難しいですが、介入が途切れがちな在宅医療時のリハビリテーション医療に対して、リハビリテーション専門医の立場から指導・環境調整など介入を、かかりつけの先生方と連携を取りながら行うことが可能です。

診療科の特徴

基本的に入院中の患者さんを対象としておりますが、大学病院であるが故の幅広く、多岐に渡る症例のリハビリテーション加療を行っております。症例数は年間2300件程度、整形外科疾患、心臓大血管リハビリテーション、脳血管リハビリテーションを三本柱とし、その他食道癌・血液癌を始めとする腫瘍性疾患、呼吸疾患、二次・三次救急患者さんを対象とするリハビリテーション加療も行っております。

早期退院・早期社会復帰を目標としており、全症例は主科より依頼を受けた上でリハビリテーション科専門医が診察、主疾患のみならず合併症・既往症を加味し、全身的な診断を行ったうえで退院後を見据え、リハビリテーション処方を行っております。

現在取得している施設基準は、運動器リハビリテーションⅠ・脳血管疾患等リハビリテーションⅠ・心大血管疾患リハビリテーションⅠ・がん患者リハビリテーションであり、特に心大血管疾患リハビリテーションにおいては循環器内科・心臓血管外科と密に連携し、専任の療法士を配置しリハビリテーション加療を行っております。

対象疾患

【主力疾患】

【基本的に入院患者さんのみを対象としています。】

- 整形外科疾患全般（脊椎・関節・手の外科 etc.）のリハビリテーション
- 心大血管疾患（心不全・心大血管手術症例）のリハビリテーション
- 脳血管障害全般のリハビリテーション
- がんのリハビリテーション
- 神経筋疾患のリハビリテーション
- 脊髄損傷のリハビリテーション
- 小児疾患のリハビリテーション
- 切断・義肢のリハビリテーション
- 摂食嚥下リハビリテーション

【対応できる疾患】

- 脳性麻痺のリハビリテーション
- 単麻痺患者さんのリハビリテーション
- 二分脊椎のリハビリテーション



てらい ひでとみ

寺井 秀富

[専門・担当]

診療科部長／准教授

脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
池淵 充彦 いけぶち みつひこ	診療科副部長／講師	整形外科・関節外科／リハビリテーション医学
大田 陽一 おおた よういち	講師	整形外科・関節外科／リハビリテーション医学

ご紹介時のお願い

当科は基本的に当院に入院中の患者さんのリハビリテーション診療・加療が中心であり、外来通院での理学療法・作業療法・言語療法の依頼はご遠慮願っております点をご理解くださいますようお願い致します。

また、当科が主科となる形での入院は受け入れていない点も、ご理解くださいますようお願い致します。

・ご紹介のポイント

義肢・装具療法依頼

ポストポリオ症候群の装具・生活指導

脳性麻痺症例の装具・生活指導

二分脊椎症例の装具・生活指導 など

Dept. of Pathology

診療方針

病理診断科は、患者さん一人一人の適切な治療選択のため、可能な限り迅速かつ正確な病理診断業務を行うことを心がけています。また、当科では、大学病院内のみならず、あべのハルカスにある MedCity 21 の健診科からの検体を診断しており、市民の皆様の病気の早期発見にも努めております。病理医は患者さんと直接接することはありませんが、臨床科の一員として皆様の診断・治療に従事しています。

診療科の特徴

病理診断とは、生検、細胞診や手術によって病変部から直接採取された細胞、組織を肉眼的、顕微鏡的に観察し、細胞の形態や構築（並び方）などを基にして、病気の質や悪性度、活動性、進行度を判断することです。腫瘍性・非腫瘍性を問わず様々な疾患で、それぞれの患者さんの病気の本质や広がりを知ることにより、一人一人の患者さんに合った治療の選択や、予後の予測に役に立つことができます。また、日々開発されているがんやその他の難病に対する分子標的薬の適応を調べるコンパニオン診断に対応するよう努力しています。稀な疾患の病理診断に対しては、in situ hybridization など分子遺伝学的な手法の導入や、中央診断、外部のコンサルテーションシステムなどを利用し、できるだけ正確な報告を提供できるようにしています。主治医や患者さんのニーズに応えるため、常に最新の知見や技術を取り入れるよう、努力しています。また、がんゲノム医療の一環として遺伝子パネル検査（NCC オンコパネル検査や Foundation One）や、各種遺伝子関連検査を院内外ともに請け負っております。

病理解剖は、亡くなられた患者さんの病態や、死因究明を目的とした重要な病理診断業務です。当科では、毎年 30 例前後の病理解剖を行い、ほぼ全例臨床病理検討会を行って臨床医と討論しながら生前に行われた診断や治療が適切であったかどうかを検証しています。その結果をフィードバックすることにより、当院の医療の質、ひいては日本の医療の質の向上につながります。

対象疾患

[主力疾患]

- 外科病理一般

[対応できる疾患]

- 外科病理一般

主な診療実績（2022 年度）

組織診断	14520 件
迅速診断	754 件
細胞診	18552 件
病理解剖	25 件



こうはし けんいち

孝橋 賢一

診療科部長／教授

[専門・担当]

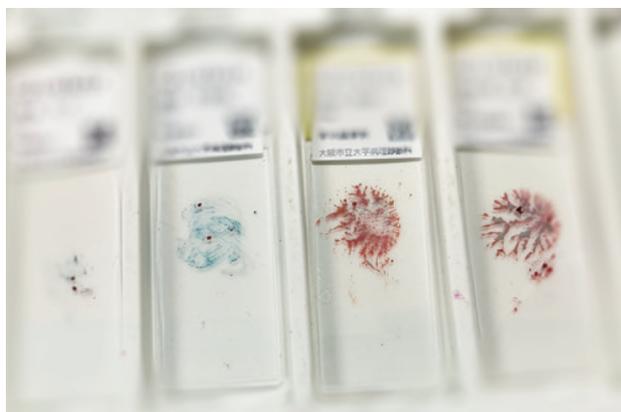
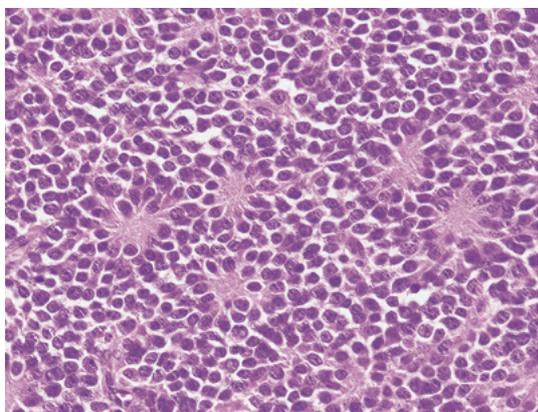
病理全般

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
田中 さやか たなか さやか	病院講師	病理全般
辻尾 希実 つじお のぞみ	後期研究医	病理全般
坂本 香織 さかもと かおり	後期研究医	病理全般
加藤 雅大 かとう まさひろ	前期研究医	病理全般
奥野 高裕 おくの たかひろ	医員	病理全般
野浦 郁恵 のうら いくえ	医員	病理全般

ご紹介時のお願い

初診予約 小児固形腫瘍、骨軟部腫瘍についてはコンサルテーションを随時受け付けています。



集中治療科

Department of Intensive Care Medicine

診療方針

集中治療科は、2022年4月1日に誕生した新しい診療科です。集中治療室（ICU）は古くは麻酔科が、最近では救命救急部が管理してきました。また、心血管集中治療室（CCU）は循環器内科が管理していました。2022年からは、集中治療科が、ICUとCCUおよびハイケアユニット（HCU）を統括して管理、運用することになりました。古くて新しい診療科として、急性期の患者さんの治療を行いたいと考えています。

当科の方針

- ・速やかな標準治療の提供
- ・集中治療における医師間レベルのばらつきの軽減
- ・医療安全の向上
- ・人工呼吸の離脱や早期退室、早期リハビリテーションなど退室後のADLも考慮した効率的ベッドコントロール
- ・集中治療教育および研究

診療科の特徴

当科としては、地域医療の先生方からの直接の紹介は受け付けていません。しかし、先生方から各診療科に紹介していただいた患者さんを一緒に診療させていただくことで、間接的にかかわりたいと思っています。術後の患者さんの入室が多いため、心臓血管外科、脳神経外科、消化器外科、肝胆膵外科などの外科系の診療科とは大きくかかわっています。また、循環器内科（急性心筋梗塞、心不全）や脳神経内科（脳卒中）、血液内科などの内科とも密接に連携をとりながら診療をすすめています。また、院内患者さんの急変の対処、急変に至るまでに医療を開始するRRS(Rapid Response System)を、救命救急センターの先生、特定看護師と協力しつつ行っています。

対象疾患

[主力疾患]

- 術後（心臓血管外科、食道外科、脳神経外科など）
- 急性冠症候群（ACS ホットライン）、心不全
- 脳卒中（ホットライン）

[対応できる疾患]

- 院内患者さんで集中治療が必要な状態



ふじい ひろみち

藤井 弘通

病院教授

[専門・担当]

心臓血管外科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
江原 省一 えはら しょういち	診療科副部長／准教授	循環器内科

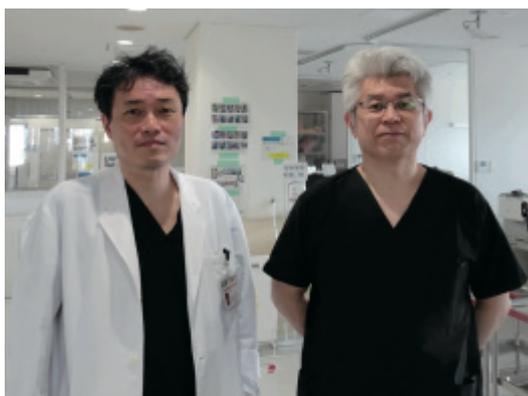
主な診療実績（2022年度）

ICUとCCUが一つとなり、集中治療センター（ICU／CCU）として2022年4月より新しく開設されました。2022年度は858症例が入室しました。現在集中治療センターは10床で運用されていますが、最大16床まで運用する予定です。HCUも2023年5月8日より通常の運用となりました。12床までの受け入れが可能となります。地域診療の先生方から紹介された患者さんの診療がスムーズになるよう、他診療科と連携しながら管理運営を行いたいと思っています。

現在の集中治療科医師は循環器関係の2名ですが、循環器内科、心臓血管外科の先生たちと外科専攻医、循環器内科前期研究医の先生たちの協力のもと診療しています。今後は集中治療科として、専門が多岐にわたる様に医師を増やし、あらゆる疾患についても理解できる大きなチームになっていきたいと思っています。

ご紹介時のお願い

院外からの直接紹介は受け付けておりません。該当診療科へのご紹介をお願い申し上げます。



緩和ケア内科

Palliative care internal medicine

診療方針

2022年4月、緩和ケアセンター開設に伴い、新しい診療科として緩和ケア内科が開設されました。現在スタッフは一人ですが今後増員を目指していきます。

診療科の特徴

日本緩和医療学会の認定研修施設です。

緩和ケアセンター・緩和ケアチームの一員として院内外の緩和ケア活動に従事しています。院内心不全緩和ケアチームと協同し、心不全に対する緩和ケアも提供しています。緩和ケア内科としての病棟はないことから緩和ケア目的の入院には対応できません。

対象疾患

[主力疾患]

- 悪性腫瘍

[対応できる疾患]

- 心不全



かわぐち ともや

川口 知哉

診療科部長／教授

[専門・担当]

肺腫瘍

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中尾 吉孝 なかお よしたか	診療科副部長／講師	緩和ケア認定医

■■■ memo ■■■

A series of horizontal dashed lines for writing.

中央臨床検査部 (臨床検査科)

Department of Clinical Laboratory

外来受付

受付時間

- ・採血・採尿・採痰
受付は午前8時～午後3時、採血開始は午前8時です。
- ・心電図／ABI検査
受付は午前8時30分～午後3時です。
- ・生理検査予約分
受付は午前9時～午後3時30分です

業務内容

迅速かつ正確な検査成績を診療側に提供することを理念とし、以下の検査を行っています。

- ・採血業務（採血、出血時間、糖負荷試験、血沈検査、治験・臨床研究採血、尿素呼気検査等）
- ・検体検査（血液検査、生化学・免疫検査、細菌真菌ウイルス検査、遺伝子検査、一般検査等）
- ・生理機能検査（心電図、呼吸機能検査、血圧脈波、脳波、筋電図検査、各種超音波検査等）
- ・外部委託検査（外注検査の品質管理、検査データ検証、電子カルテ取込み作業等）
- ・麻酔科検査（術中・術後における血球計数・血液ガス分析等）
- ・耳鼻科検査（平衡機能検査等）
- ・治験・臨床研究支援（採血、分析測定、検体処理・保管管理、データ管理等）

部門の特徴

中央臨床検査部は2017年8月に認定番号RML01350としてISO15189認定を受け国際的な品質マネジメントシステムにより検査を行っております。検体検査は医師のオーダー情報に基づき、自動バーコード貼付装置で検査容器にバーコードラベルを添付し、採血時には3点照合を行い検体誤認を防止しています。また臨床検査システムと搬送ラインを組み合わせることで業務の効率化と省力化を推進しています。質の高い検査を行うために学会発表や研修会参加等を活発に行い、専門分野の認定資格を積極的に取得することに努めています。

- ・緊急検査は24時間体制を整え血液検査だけでなく髄液検査や微生物検査等にも対応しています。
- ・生理機能検査は画像ファイリングシステムを導入し検査データの保存やデータ過去歴の参照の簡便化等を図り、超音波検査は上級医によるダブルチェック体制を構築し、循環器領域は当日診察前心エコー図検査を行ない迅速な検査報告を行なっています。検査は超音波検査士認定を取得している技師を中心に行っており担当技師全員が認定を取得すべく研鑽を積んでいます。
- ・国家資格である「臨床検査技師免許」・「検体採取並びに味覚検査及び嗅覚検査の実施に必要な知識及び技能取得講習会」修了者以外に技術・知識の向上の為、認定資格の取得に努めています。

主な認定資格:緊急臨床検査士、二級甲類臨床検査士、輸血検査技師、HLA検査技術者、超音波検査士（消化器、循環器、体表、健診、産婦人科 各領域）、認定一般検査技師、認定血液検査技師、骨髄検査技師、医療情報技師、日本サイトメトリー技術者、感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）など





ひの まさゆき

日野 雅之

[専門・担当]

部長

血液専門医、造血細胞移植認定医、臨床検査専門医

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中前 美佳 なかまえ みか	副部長	臨床検査専門医
中前 博久 なかまえ ひろひさ	准教授	血液専門医・指導医/総合内科専門医・指導医/ 造血幹細胞移植認定医/臨床検査専門医
井戸 健太郎 いど けんたろう	病院講師	認定内科医/血液専門医/臨床検査専門医
山下 亘 やました わたる	保健主幹	医療情報技師
安保 浩二 あぼう こうじ	保健副主幹	生理機能検査担当/認定心電検査技師/医学修士
中家 清隆 なかいえ きよたか	保健副主幹	医療環境管理士/抗酸菌症エキスパート
水原 祐次 みずはら ゆうじ	主査	採血室
滝沢 恵津子 たきざわ えつこ	主査	免疫検査担当/ 感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)
長岡 智香 ながおか ちか	主査	一般検査担当/認定一般検査技師/ 二級臨床検査士微生物
奥井 靖子 おくい やすこ	主査	生化学検査担当
岡山 裕紀子 おかやま ゆきこ	主査	外注/システム担当/二級臨床検査士微生物
橋本 深香 はしもと みか	主査	生理機能検査担当/認定超音波検査士
福田 雅代 ふくだ まさよ	主査	生理機能検査担当/認定超音波検査士
川原 宏恵 かわはら ひろえ	主査	血液検査担当/緊急臨床検査士
藤長 久美子 ふじなが くみこ	主査	採血室看護師

主な検査機器・設備

- 臨床検査システム QREXIA
- 採血業務支援システム i・pres with×5 台+採血台 14 台
- 検体搬送システム IDS-CLAS X1
- 多項目自動血球分析装置 XN9100、血液凝固自動分析装置 CN6000、遺伝子分析装置 i-densy IS5320、血液ガス分析装置 ABL800FLEX PLUS、血小板凝集能測定装置 CN6000
- フローサイトメトリー Navios EX
- ディスクリット方式臨床化学自動分析装置 JCA-BM8040GX、JCA-BM6010G
- 全自動糖分析装置 GA09 II α、グリコヘモグロビン分析装置 HA-8190V
- 全自動免疫測定装置 Alinity i システム、HISCL-800、ルミパルス L2400、cobas pro
- 電気泳動装置 Minicap Flex Piercing
- 全自動尿分析装置 US-3500、全自動尿中有形成分 UF-5000
- 心電計、ホルター心電図装置、運動負荷心電図装置、ABI / CAVI 装置
- 呼吸機能測定装置、脳波計、筋電図 誘発電位測定装置、睡眠検査記録装置
- 超音波診断装置 (心エコー、腹部・体表エコー、血管エコー等) ALOKA LISENDO880、Vivid E9、iE33、Aplio500、EPIQ CVx HI VISION Ascendus、LOGIQ E9 with XDclear、Aplio800、ALOKA ARIETTA850

中央放射線部

Department of Radiology

業務内容

中央放射線部は、CT・MRI・核医学検査に代表される画像診断、および放射線治療・Interventional Radiology (IVR; 画像下治療) の治療分野において、高度な医療提供を推進しています。

放射線検査においては、診断参考レベル (DRLs 2020) より、すべての検査において少ない被ばく線量で行っていることを確認しており、患者さんに安全かつ安心して検査を受けていただけるよう努める一方、病院スタッフに対しても、放射線に関する教育ならびに啓発活動も行っています。また、救命救急センターの時間外緊急検査については、2名の放射線技師により迅速に対応しています。更には、施設に隣接する臨床研究・イノベーション推進センターと連携して、各種臨床治験業務に参画し、高度な医療技術と画像診断装置を利用することで、これらを積極的に支援しています。

部門の特徴

画像診断の検査部門では、最新診療装置 (3テスラ MR 装置ならびに 320列 MDCT 装置) を利用して、高度な画像診断を実施しています。血管内手術・IVR センターでは、世界初の肝がんへの肝動脈塞栓療法 (TAE) を行うなど、先進的な IVR を実施しています。放射線治療部門では、通常の放射線治療に加えて、強度変調放射線治療 (IMRT / VMAT) や定位放射線治療など、高精度放射線治療も行っています。また 2022 年、西日本で初めて稼働した「MR リニアック」装置を用いた高度な放射線治療を行っています。一般撮影部門では、カセット型フラットパネル撮影機器を多数枚導入し、X線画像の画質向上、検査時間短縮に加え、大幅な患者被ばく線量低減を実現しています。核医学部門では、腫瘍等の FDG-PET 検査、脳血流 SPECT 検査をはじめ、あらゆる核医学検査を実施しています。2023 年 4 月 SPECT/CT 装置を新たに導入し、より高精度で質の高い診断が可能となっています。また、2019 年 10 月、最新の半導体 PET/CT 装置 (Biograph Vision) 導入により、FDG-PET 画像診断の向上と共に、あべのハルカス 21 階の健診部門 (先端予防医療部附属クリニック MedCity21) の人間ドックにも本装置を使用し、がん疾患などの早期発見に活用しています。

主な検査機器・設備

- MRI 装置 4 台 (Achieva 3.0T;1.5T、Ingenia 3.0T、Magnetom Vida)
- CT 装置 4 台 (Aquilion ONE 2 台、Sensation Cardiac64、LightSpeed VCT)
- 血管造影撮影装置 2 台 (Artis zee TA PURE + SOMATOM Definition AS+、Artis zee BA Twin)
- 心血管撮影装置 (Artis zee BC)
- 手術室ハイブリッド血管撮影装置 (Allura Clarity FD20)
- MR リニアック装置 (Elekta Unity)
- 高エネルギー放射線治療装置 2 台 (Elekta Synergy、Elekta VersaHD)
- 腔内照射装置 (microSelectron HDR-V3)
- 放射線治療計画用 CT 装置 (SOMATOM Confidence)
- SPECT/CT 装置 2 台 (Symbia Pro.specta (診断用 CT 搭載型)、BrightView X)
- SPECT 専用ガンマカメラ (GCA9300R)
- 半導体 PET/CT 装置 (Biograph Vision)
- PET/CT 装置 (Biograph16)
- 骨塩定量装置 (Horizon QDR)
- カセット型フラットパネル撮影機器 22 枚 (Aero DR、CALNEO C)
- コンピューテッドラジオグラフィ装置 2 台 (FCR PROFECT)
- フラットパネル撮影装置 2 台 (Digital DIAGNOST VR、TH)
- FPD 搭載 X 線透視装置 5 台 (EXAVISTA、ASTX-I9000、DREX-UI80 3 台)
- FPD 搭載ポータブル撮影装置 6 台 (MobileDaRt Evolution MX8)



みき ゆきお

三木 幸雄

部長

[専門・担当]

画像診断

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
澁谷 景子 しぶや けいこ	副部長	放射線治療
市田 隆雄 いちだ たかお	保健主幹	Interventional Radiology (IVR; 画像下治療) / 放射線治療
宇都宮 あかね うつのみや あかね	保健副主幹	放射線治療 / MedCity21
山田 英司 やまだ えいじ	保健副主幹	MR / 画像診断全般
小川 隆由 おがわ たかよし	保健副主幹	透視
岸本 健治 きしもと けんじ	主査	一般撮影
渡辺 晋一 わたなべ しんいち	主査	CT
井上 誠 いのうえ まこと	主査	一般撮影
庄垣 雅史 しょうがき まさちか	主査	一般撮影
佐原 朋広 さはら ともひろ	主査	放射線治療
中村 敦 なかむら あつし	主査	一般撮影
長畑 智政 ながはた のりまさ	主査	放射線治療
横山 貢治 よこやま こうじ	主査	一般撮影
山永 隆史 やまなが たかし	主査	核医学
中島 麻美子 なかじま まみこ	主査	健診 / MedCity21
高尾 由範 たかお よしのり	主査	Interventional Radiology (IVR; 画像下治療)



PET-CT



MR



MR リニアック

病理部

Diagnostic Pathology

業務内容

- ・病理診断：切除および内視鏡学的検査等によって採取された材料や手術摘出材料から顕微鏡標本作製を行い、病理組織診断を行っています。必要に応じて特殊染色・酵素抗体法・蛍光抗体法・電子顕微鏡による詳細な検討も行います。
- ・術中診断：手術中に腫瘍の進行度、悪性度や切除断端への腫瘍浸潤の有無などの判断を行うため、凍結組織標本および迅速細胞診により診断を行っています。
- ・細胞診検査：婦人科細胞診、胸腹水などの体腔液、喀痰、尿およびその他の穿刺材料について形態学的な観点から悪性度の有無を判定します。また、液状化細胞診（LBC）を導入し、精度向上に向けて努力しています。
- ・病理解剖：生前の診断、治療効果の評価や死因を明らかにするために行われます。医学の発展に貢献するための情報を得る唯一の機会でもあります。解剖症例は多数の医師の参加のもとに臨床病理検討会で検討され、生前の診断と治療が検証されます。病理解剖症例数が多い病院ほど医療の質は良くなります。
- ・がんゲノム関連検査対応：癌治療のためのコンパニオン診断薬による検査、遺伝子パネル検査等に対応しており、専門病理医による腫瘍含有率の判定を実施しています。
- ・治験協力：臨床医による治験のための病理診断や標本作製を受託し、貢献しています。
- ・医療安全対策の実施：検査前の材料品質管理、検体の受付～報告、報告後の既読確認に至るまで、バーコードによるシステム管理を行い、各工程での照合によるリスク軽減を実施しています。
- ・関連病院への協力：院外の病理解剖、セカンドオピニオン（標本診断）、がんゲノム関連検査の請負により地域医療へ貢献しています。
- ・材料の保管および管理：診断後のパラフィンブロックやプレパラートは診断・教育・研究のために利用できるよう整理整頓し、一定の温度湿度で管理しています。

部門の特徴

日本病理学会認定施設、日本臨床細胞学会教育研修施設

ISO15189 認定施設、がんゲノム医療連携病院

- ・病理支援システムを使用したトラッキングシステムにより検査を実施しています。
- ・組織診断、細胞診断時には過去の履歴や標本を閲覧でき、精度管理として診断に役立てています。
- ・診断困難症例などのコンサルテーションも随時受け付けています。
- ・MedCity21 健診科およびクリニックでの組織診断および細胞診も実施しています。
- ・学会や研修会へ参加し、認定取得も積極的に行い、検査精度の向上に努めています。
- ・院内の各部署と連携を取りながら、安全に検査を進められるよう業務改善に努めています。



こうはし けんいち
孝橋 賢一
 部長

[専門・担当]

病理全般、病理専門医、病理専門医研修指導医、
 細胞診専門医、細胞学会教育研修指導医、分子病理専門医

スタッフ・専門領域

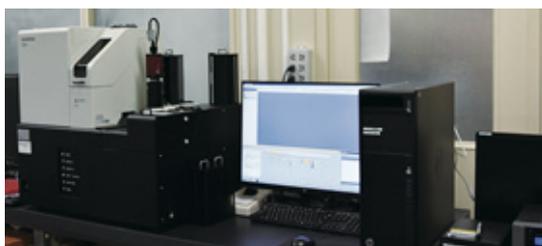
氏名	役職	専門領域
田中 さやか たなか さやか	病院講師	病理全般／病理専門医／病理専門医研修指導医／ 細胞診専門医／細胞学会教育研修指導医
塩見 和彦 しおみ かずひこ	保健副主幹	病理部・免疫・委託担当／細胞検査士／国際細胞検査士／ 認定病理技師／二級臨床検査士（病理）／電子顕微鏡二級技師／ 遺伝子分析科学認定士（初級）／特定化学物質四アルキル等 取扱い主任者／有機溶剤取扱い主任者／がんゲノム医療コーディネーター ／認定臨床染色体遺伝子検査技師
安藤 加奈江 あんどう かなえ	主査	病理部担当／細胞検査士／認定病理技師／二級甲類臨床病理技術士／ 特定化学物質四アルキル等取扱い主任者／有機溶剤取扱い主任者／ 医療安全管理者

係員は11名在籍し、様々な資格を有し、病理部の精度向上に努めています。

主な資格取得：危険物取扱者（乙類1類および4類）／第一種衛生管理者／毒物劇物取扱者／がんゲノム医療コーディネーター等に複数名の取得者が在籍しています。

主な検査機器・設備

全自動免疫染色装置、バーコード読み取り式スライドガラス印字装置 包埋カセット印字装置、蛍光顕微鏡装置 自動染色装置・自動封入機、液状化細胞診検体処理装置、バーチャルスライドシステム等、安全性に配慮した検査機器を導入しています。



バーチャルスライドシステム装置



液状化細胞診検体処理装置



全自動免疫染色装置
Dako OMNIS

参考

大阪大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院となり、がん医療の発展にさらに貢献していきます。

中央手術部

Department of Central Surgical Room

業務内容

患者さんが安心して手術を受けて頂く環境を提供するために、多職種が連携して、清潔環境の維持、手術機器の滅菌や準備、薬剤管理、機器整備、診療材料の調達、迅速な術中検査やレントゲン撮影、安全管理が行えるシステムを構築しております。常に、医師、看護師、臨床工学技士、医学生への教育やフィードバックを行ない、人材育成に注力することにより、幅広い診療科の高度な手術が実施できるように努力しております。円滑な手術室運営が行えるよう、麻酔科医師と手術看護師が連携を行ない、術後回復室や手術室を効率的に運用することにより、緊急手術も含めてできる限り患者さんをお待たせすることのないように配慮しております。

部門の特徴

2022年度手術実績 7,971 件（麻酔科管理症例 5,623 件）と急増する手術件数と多様に進化していく手術に対応するために、現在、手術室 18 室（バイオクリーンルーム 3 室、内視鏡手術対応手術室 1 室、局所麻酔対応手術室 1 室、ハイブリッド手術室 1 室を含む）で運営を行なっております。また今年度には 1 室増室予定となっており、高度な医療、手術を受けていただけるよう活用していく予定です。麻酔科医師 2 名以上の当直と手術看護師 2 交代制とシフト出勤制、臨床工学技士の当直により 24 時間手術受け入れ体制を維持しています。中央手術部内に最新の手術機器の洗浄、滅菌装置を有しており、オーダーシステムに連動することにより、迅速な手術機器の展開を可能にしています。安全管理面において、危機の予測や迅速な対応をするために中央手術室内にモニターシステムを導入し、全手術室のバイタルサインや手術室内映像をリアルタイムで確認できるようにしています。手術に関するオーダーリングや保険請求、麻酔中のバイタルサインや使用薬の記録は電子カルテをベースにした記録、保存システムを採用しており、医療者間で情報共有、第三者によるチェックが可能となっています。また、ワイヤレス送信 X 線ポータブル撮影装置を採用することで、術中、術後に迅速かつ精細な X 線撮影画像を提供できるようになり、手術後の状態確認がスムーズに行えるようになっていきます。手術室内にサテライト薬局を配置することにより、薬剤師による薬剤の出納管理を厳格に行なっています。2020 年からダヴィンチ Xi を 2 台体制として様々な分野でのロボット支援手術を推進しています。



もとむら ひさし

元村 尚嗣

部長

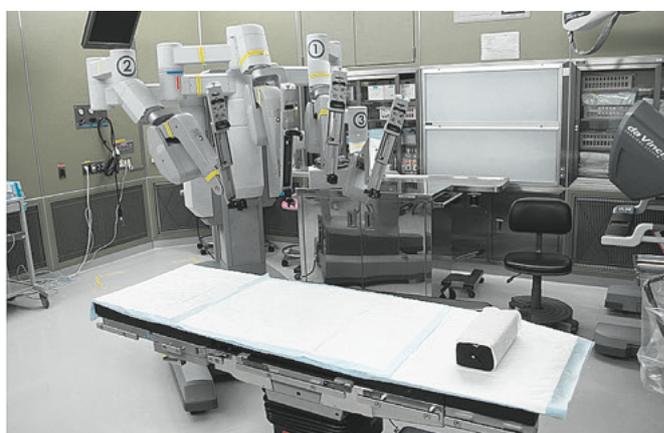
スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
松浦 正 まつうら ただし	副部長	麻酔科副部長兼務
定 亮志 さだ りょうじ	主査・医療機器部主査兼務	臨床工学技士

主な検査機器・設備



ハイブリッド手術室



ロボット支援手術装置：ダヴィンチ Xi



外科用 X 線透視装置 :O-arm

救命救急センター

Trauma and Critical Care Center

業務内容

大阪公立大学医学部附属病院における救急診療部門は、1993年新病院竣工時に中央診療部門として開設された救急部に端を発します。開設当初から大阪府における三次救急医療施設として重篤な救急患者さんの診療の一翼を担ってきましたが、2010年4月には施設改修を行い、救命救急センターとしての認可を受けました。院内各診療科との協力体制のもと、大阪市内で唯一の大学附属病院救命救急センターとして、地域の救急医療に貢献しています。

部門の特徴

救命救急センターのスタッフは、救急医学会指導医や救急科専門医を中心に構成されています。それぞれが、救急医として必要な初期診療、手術、重症患者管理の能力を身につけ、外傷、熱傷、中毒、脳卒中、急性心不全、急性呼吸不全などの重篤な救急患者さんに対し24時間体制で高度な救命医療を提供しています。また、院内の心臓血管外科や脳神経外科、整形外科、内視鏡部、集中治療部、産婦人科、小児科とも緊密な連携を図り、大学病院における救急部門として常に高度な医療を行える体制を構築しています。

尚、救命救急センターへの受診は、救急隊からの搬送や他の医療機関からの転院に限定しており、患者さん自身からの受診依頼には対応していませんのでご了承ください。

【危機対応能力育成プログラム】

近年、専門性を重視した診療が実践されるなか、個々の医師の診療領域は一部の分野に特化されつつあります。しかしながら、日々の診療のなかでは、予期しない病態の悪化や状態の急変など専門領域の知識と技能のみでは対応することが困難な事態も生じます。このような状況においても、専門性にかかわらず医師として常に適切な対応を行うことが求められます。このため、医師には specialist としての技能に加え、少なくとも日々の診療での危機に対応できる能力を備えることが不可欠です。危機対応能力を身につけることは医療事故の減少、患者さんのアウトカムの改善にも役立ちます。医師育成に対するこのような考えのもと、救命救急センターでは、救急診療を経験させるのみでなく危機対応能力を育成することを目的としたプログラムを設けています。

主な検査機器・設備



認定施設一覧

日本救急医学会 救急科専門医指定施設

日本外傷学会 外傷専門医研修施設

日本救急医学会 指導医指定施設

日本熱傷学会 熱傷専門医認定研修施設

日本集中治療医学会 専門医研修施設



みそばた やすみつ

溝端 康光

センター長

[専門・担当]

救急医学 教授、救急医学、外傷医学、Acute care surgery、
災害医学、集中治療医学、麻酔科学

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
西村 哲郎 にしむら てつろう	准教授	救急医学／重症熱傷／心肺蘇生／集中治療医学
内田 健一郎 うちだ けんいちろう	准教授	救急医学／外傷外科学／心臓血管外科学／ 集中治療医学
岡島 祥憲 おかはた よしのり	病院講師	救急医学／小児科学／集中治療医学
宮下 昌大 みやした まさひろ	病院講師	救急医学／外傷外科学／整形外科／手の外科／ マイクロサージャリー
佐尾山 裕生 さおやま ゆうき	病院講師	救急医学／外科学／集中治療医学
河本 晃宏 かわもと あきひろ	病院講師	救急医学／内科学／集中治療医学
日村 帆志 ひむら ほし	病院講師	救急医学／外科学／集中治療医学
芳竹 宏幸 よしただけ ひろゆき	病院講師	救急医学／外科学／集中治療医学
栗正 誠也 くりまさ せいや	後期研究医	救急医学／外科学／集中治療医学
脇田 史明 わきた ふみあき	後期研究医	救急医学／麻酔科学／集中治療医学
松塚 栄恵 まつづか さかえ	後期研究医	救急医学／外科学／集中治療医学
上坂 侑子 うえさか ゆうこ	後期研究医	救急医学／外科学／集中治療医学
松尾 健志 まつお けんじ	後期研究医	救急医学／集中治療医学
藤井 諒太 ふじい りょうた	前期研究医	救急医学／集中治療医学
富金原 健太 ふきんばら けんた	前期研究医	救急医学／集中治療医学
山口 聖也 やまぐち せいや	前期研究医	救急医学／集中治療医学

主な診療実績（2022年度）

手術・処置・症例等の名称	
外傷	177 件
ERT／大動脈遮断	12 件
DCS	9 件
頭頸部顔面	36 件
体幹部	21 件
骨盤／四肢	83 件
脊椎	8 件
熱傷	8 件
手術症例数 294 件	

受け入れ件数	
外傷	216 件
疾病	343 件
熱傷	16 件
CPA	188 件
それ以外	13 件
不明	0 件
合計	776 件

集中治療センター (ICU/CCU)

Intensive Care Center (ICU/CCU)

業務内容

集中治療センター (ICU/CCU) は、集中治療室 (ICU) と心血管集中治療室 (CCU) を統合して、一つのユニットとして 2022 年 4 月 1 日より運用されました。院内で集中治療管理が必要となった患者さんに入室していただくユニットです。集中治療科と各診療科の医師、看護師、臨床工学技師、薬剤師、栄養士、理学療法士とともに患者さんの集中治療センター入室中のみならず、退室後の生活を見据えた診療を行います。地域医療を担っている先生方からの直接紹介はありませんが、患者さんの状態によって、紹介いただいた診療科からの依頼で入室することがあります。現在 10 床で運用中ですが、必要に応じて 16 床まで増床する予定です。

●入室対象の患者さん

- ・術後の患者さん (心臓血管外科、食道外科、脳神経外科、肝胆膵外科など)
- ・入院中に状態が悪化した患者さん (敗血症、ショック、心不全、呼吸器不全など)
- ・救急搬送された急性冠症候群、脳卒中の患者さん

部門の特徴

集中治療科は、2022 年 4 月 1 日に新設された診療科です。集中治療センター (ICU/CCU) とハイケアユニット (HCU) をあわせて管理します。集中治療医が専従し統括管理することで、①速やかな標準治療を提供する、②医師間での診療レベルのばらつきを減らす、③医療安全を高める、④人工呼吸離脱や早期退室、早期リハビリなど患者さんの退室後の ADL も考量した効率的ベッドコントロールを行う、⑤集中治療教育、および研究を行う、などを目指しています。われわれ集中治療科は各診療科の医師のみならず、看護師やコメディカルとともにチーム医療を実践し、院内の重症患者はもちろん、地域医療の先生方から紹介された急性冠症候群 (循環器内科) や脳卒中 (脳神経内科) 患者さんに迅速に対応できるよう日々励んでおります。



ふじい ひろみち

藤井 弘通

病院教授／集中治療センター長

[専門・担当]

心臓血管外科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
江原 省一 えはら しょういち	准教授	循環器内科

参考

当センターには、個室が4室あります。そのうち2室が陰圧個室で、コロナウィルス患者さんにも対応ができるようになっています。血液透析（HD）は1日最大4人まで可能です。手術室の画像もリアルタイムにチェックすることができ、時間差のない患者さんの受け入れが可能です。

入院中の患者さんの急変をできる限り早期に発見し対処することや、急変する前に集中治療センターに入室させて治療を行うシステム Rapid Response System（RRS）が、2022年4月1日より本格的に始動されました。集中治療科と救命救急センターの医師、特定看護師（看護師特定行為研修修了者）とともに活動を行い、入院患者さんのさらなる安全を確保するように取り組んでいます。

※特定看護師とは・・・相対的医療行為の中でもより高度な行為を行うことが認められた看護師のことです。人工呼吸器からの離脱や鎮静薬の調節、動脈ラインの挿入などを医師の指示のもとに行うことができる看護師のことです。

リハビリテーション部

Rehabilitation Department

業務内容

リハビリテーション科専門医の診察に基づいて個々の患者さんの障害に応じた治療プログラムを作成し理学療法や作業療法、摂食・嚥下療法、言語療法、聴覚検査各種を行っています。

理学療法では座位・立位・移動などの日常生活に必要な基本的動作能力の改善をはかっています。作業療法では日常生活を送るのに必要な応用的動作能力の獲得を目指しています。摂食・嚥下療法では食べるという咀嚼嚥下機能の回復を促しています。また、耳鼻咽喉科外来にて小児言語発達遅滞や構音障害に対して、評価・助言指導、言語訓練を行い言語発達、学習面などをサポートしています。

当科は脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション（Ⅰ）、運動器リハビリテーション（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）、心大血管リハビリテーション（Ⅰ）、がんのリハビリテーションの施設基準承認を受けており、脳および脊髄の中樞神経疾患、各種末梢神経疾患や筋疾患、四肢や脊椎などの骨関節疾患、各種の呼吸器疾患や胸部外科手術に伴う呼吸障害、心疾患など大学病院特有の特殊な疾患の急性期リハビリテーションを実施しています。

部門の特徴

各診療科と連携し、以下の内容に力を入れております。

- ・ 整形外科での関節外科や外科における胸腹部外科術に対して各種のクリニカルパスの利用
- ・ 三次救急患者に対する早期からの介入
- ・ 循環器内科や心臓外科と連携し、心不全や心大血管術前後に対する包括的心臓リハビリテーションの実施
- ・ 人工呼吸器からの離脱、また閉塞性や拘束性肺疾患の急性増悪による換気制限に対する呼吸理学療法の実施
- ・ 造血幹細胞移植等に関するがんリハビリテーションの実施
- ・ 高次脳機能障害に対する指導の実施
- ・ 食道癌等の開胸術後や脳血管障害後の摂食・嚥下訓練の実施
- ・ 乳癌に対する理学療法の実施
- ・ 義肢装具の作成と修正に関する相談研究活動
- ・ 人工内耳のマッピングや聴取能評価の実施
- ・ 音声障害、言語発達遅滞、構音障害に対する評価・指導の実施

研究活動

- ①歩行分析に関すること
- ②全人工股関節置換術に関すること
- ③食道癌術前後の呼吸理学療法に関すること
- ④心臓リハビリテーションに関すること
- ⑤血液内科疾患に関すること
- ⑥三次救急患者に対する早期介入のプロトコールに関すること



てらい ひでとみ

寺井 秀富

[専門・担当]

部長

脊椎脊髄外科、脊柱変形、側弯症

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
池淵 充彦 いけぶち みつひこ	副部長	人工関節／リハビリテーション一般
大田 陽一 おおた よういち		
辻 英次 つじ ひでつぐ	副主幹	
三好 隆志 みよし たかし	主査	
加藤 良一 かとう りょういち	主査	

主な検査機器・設備

三次元動作解析装置 Vi c on512

多成分測定用フォースプレート K I S T L E R社製

筋機能測定装置 Cybex

心肺運動負荷試験装置 CPX

内視鏡センター

Endoscopy center

業務内容

内視鏡センターは、大阪公立大学医学部附属病院中央部門に属し、内視鏡検査・治療を基盤にして業務しています。その業務内容は、上部・下部消化管内視鏡、気管支鏡を用い、上部消化管の良性・悪性疾患の診断、下部消化管における腫瘍性病変や炎症性腸疾患の診断、さらには呼吸器領域での診断・治療などであり、特定機能病院として様々な疾患に対する診断から治療を行う場としての役割を担っています。その中でも、食道・胃・大腸の早期がんに対する内視鏡的切除術、消化管狭窄などの拡張術、さらには超音波内視鏡を用いた穿刺診断や interventional なカテーテル術など、最新の技術を常に取り入れつつ、日々活動しています。また、暗黒とも言われていた小腸に対するカプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡を用いた検査や、内視鏡的止血術を中心とした治療も数多く行っています。消化器内科はもとより消化器外科、呼吸器内科から診療科別・臓器別に専属の複数名の医師が、院内ならびに院外からの患者さんに対して日々の診療枠の中で役割を担い、専属の看護師・臨床工学技士・診療放射線技師とともに運営しています。

部門の特徴

内視鏡診断・治療の進歩はめざましく、早期消化管がんに対しては、画像強調内視鏡・拡大内視鏡検査による正確な診断を行い、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）などの適切な治療を行っており、その治療件数は年々増加の一途にあります。胆管や膵臓疾患への診断・治療には、内視鏡的逆行性胆管膵管造影法（ERCP）だけでなく、積極的に超音波内視鏡検査（EUS）や超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）を用いることで、より安全、迅速、かつ正確に診断を行い、早期に適切な治療ができるように努めています。小腸病変への診断・治療を行っていることも当センターの特徴であり、医学部附属病院関連施設のみならず近隣基幹病院や医院・クリニックからの紹介患者さんも多数受け入れています。

主な診療実績（2022年度）

上部消化管内視鏡検査	3886 件	小腸バルーン内視鏡検査	153 件
ESD・上部EMR	388 件	小腸・大腸カプセル内視鏡検査	40 件
胃食道静脈瘤治療	62 件	EUS・FNA	671 件
イレウス管・消化管ステント留置術	50 件	上部・下部バルーン拡張術	367 件
ERCP・EST	408 件	大腸ポリペクトミー・EMR	635 件
下部消化管内視鏡検査	955 件	POEM（内視鏡的筋層切開術）	37 件



ふじわら やすひろ

藤原 靖弘

センター長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
平良 高一 たいら こういち	副センター長	

人工じん部

Department of Artificial Kidney

業務内容

腎不全患者に対する血液透析・オンライン血液濾過・血液濾過透析療法を中心に、腹膜透析療法の導入・管理、種々の疾患に対するアフレスシス治療業務を行っています。

膠原病および神経疾患に対する血漿交換療法・選択的血漿交換療法 (SePE)・免疫吸着療法・DFPP 療法など高度な体外循環療法を行っており、皮膚科疾患や潰瘍性大腸炎およびクローン病に対する血球除去療法なども積極的に行っています。SePE 療法では IgG を中心にした病院物質を除去することが可能で人血漿の使用量を減少させることができるため積極的に行っております。最近、心臓血管外科手術を受けられる血液透析患者が増加してきており、その術前後の不安定な時期の血液透析治療を如何に安全に行うかということを目指して、循環動態を安定させるために積極的にオンライン血液濾過透析療法を施行しています。

生体腎移植については夫婦間での移植数の増加に伴い血液型不適合腎移植症例が増加しています。人工腎部では DFPP 療法・血漿交換療法・SePE 療法を用いて治療を行うことで、積極的に血液型不適合腎移植をサポートしています。また、最新の治療を提供することに努めております。

部門の特徴

大阪公立大学医学部附属病院では 1964 年から病棟で透析を開始し、1966 年 6 月に人工腎室を開設し、本格的に慢性腎不全治療としての血液透析を開始しました。開設当時は腎不全患者さんに血液透析を施行すること自体が非常に困難でありましたが、めざましい医療機器の発展により血液透析の導入が外来で十分行えるようになりました。長期血液透析患者さんの増加及び糖尿病を原因疾患とする患者さんの増加に伴い多くの合併症を有する患者さんの外科手術・カテーテル治療が積極的に行われるようになってきている現在、我々人工腎部では病棟での CHD・CHDF の施行を含め、全身状態の安定していない患者さんに積極的に治療を行っています。さらに、人工腎部では腎不全にかかわる手術も担当しており、内シャント作製術 (AVF)・PD チューブ挿入術 (PD)・副甲状腺全摘出術 (PTx)・手根管症候群 (CTS) などの手術も施行しており、概要を下に示します。

	AVF	PTA	PTx	PD	CTS
2020 年	42	74	4	3	0
2021 年	69	65	6	2	0

主な診療実績 (2022 年度)

内シャント作製術	52 件	シャント瘤	3 件	CAPD チューブ抜去	0 件	ステントグラフト	3 件
経皮的血管拡張術	83 件	内シャント閉鎖	4 件	手根管開放術	0 件	カフ型カテーテル	5 件
人工血管植え込み術	5 件	副甲状腺摘出術	2 件	ばね指根治術	1 件		
人工血管抜去術	1 件	CAPD チューブ挿入術	6 件	動脈表在化	0 件		

主な検査機器・設備

- 血液透析装置 (on-line HDF 対応) 12 台 (NCV-10 : 2 台、NCV-2 : 8 台、NCV-2 : 2 台)
- 多目的血液浄化装置 4 台 (ACH-Σ : 3 台、KM-9000 : 1 台)
- 持続的血液浄化装置 1 台 (TR55X)
- LDL アフェレーシス装置 1 台 (MA-03)
- 人工炭酸泉装置 1 台 (Carbomedica)
- 血流測定装置 1 台 (HD -023)
- 超音波診断装置 2 台 (SONIMAGE HS2、SonoSite FC1)



たけもと よしあき

武本 佳昭

部長

[専門・担当]

血液浄化療法

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
長沼 俊秀 ながぬま としひで	講師	血液浄化療法 / 腎移植

輸血部

Department of Transfusion Medicine

業務内容

【沿革】

1993年に病院中央部門として輸血部が設置され、小林絢三部長・黒木哲夫副部長のもと輸血部運営が開始されました。

【概要】

輸血療法を必要とされる患者さまに対して安全な血液製剤を迅速に供給するため、輸血関連検査、輸血用血液製剤とアルブミン製剤管理業務および移植医療補助業務を行なっています。また、自己血採血補助業務および管理業務を行っています。その他、細胞治療薬管理業務や輸血後のフォローのため、輸血副作用管理および製剤の使用記録保管を行っています。

【輸血関連検査業務】

患者さまに適合した血液製剤を供給するため、血液型、不規則抗体検査および交差適合試験を行っています。

【輸血用血液製剤およびアルブミン製剤供給業務】

血液製剤およびアルブミン製剤の厳密な保管・管理を行い、緊急時でも速やかに供給できるよう24時間体制で行っています。また、輸血副作用防止のため、濃厚血小板製剤や赤血球製剤の洗浄業務を院内で行って、血漿成分によるアレルギーなどの副作用防止対策を行っています。

【自己血採血補助業務および管理業務】

安全に自己血を採血し、最適な条件で返血できるよう厳密な管理を行っています。

【移植医療補助業務】

造血幹細胞移植のための細胞保管処理および管理業務を行なっています。また、適合性検査としてHLA タイピング検査およびHLA抗体検査を行っています。

【細胞治療薬管理業務】

ヒト再生医療等製品など細胞治療薬の保管・管理を行っています。

【輸血副反応管理および製剤の使用記録保管】

すべての血液製剤について輸血副作用の有無をチェックし、重篤な副反応に対しては迅速に対応できる体制を行っています。そのため院内で使用した血液製剤およびアルブミン製剤の使用記録を20年間保管しています。また、輸血前後感染症検査を行っています。



えのもと まさる

榎本 大

部長

[専門・担当]

内科学、肝胆膵疾患、輸血学

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
藤野 恵三 ふじの けいぞう	主査	輸血専任技師／認定輸血検査技師／ 認定 HLA 検査技術者／細胞治療認定管理師
蓮輪 亮介 はすわ りょうすけ	係員	輸血専任技師／認定輸血検査技師／ 認定 HLA 検査技術者／細胞治療認定管理師
松本 有紀 まつもと ゆき	係員	輸血専任技師／認定輸血検査技師／ 細胞治療認定管理師

部門の特徴

血液型および不規則抗体検査は全自動輸血検査装置を用いて迅速で正確な結果報告を行っています。血液型検査においては、亜型検査の精度を高めるため遺伝子検査を導入しています。不規則抗体検査においては高い精度で同定検査を行っています。また、特殊検査として、HLA 抗体検査、血小板抗体検査を行っています。

大学病院輸血部として、研究・教育の面でも大きな役割を担っています。当院医学部生、研修医教育はもちろん、他施設の臨床検査技師養成学校および大学の学生に対する教育施設となっています。また、日本輸血・細胞治療学会の輸血認定医、認定輸血検査技師および学会認定輸血看護師についての研修認定施設となっており、毎年、全国の受験希望者の研修を受け入れ、今後の輸血医療を担う医療者の教育に貢献しています。

【年間使用数・血液製剤（単位数）、アルブミン（グラム数）】

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
赤血球製剤 (RBC)	13,726 単位	13,492 単位	12,813 単位
血小板製剤 (PC)	44,970 単位	40,980 単位	39,350 単位
新鮮凍結血漿 (FFP)	9,645 単位	10,197 単位	6,493 単位
5% アルブミン	41,925 グラム	41,727 グラム	40,929 グラム
20% アルブミン	60,375 グラム	59,570 グラム	48,250 グラム

【検査件数】

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ABO・Rh 式血液型検査	14,992 件	13,653 件	13,416 件
不規則抗体検査	14,455 件	13,137 件	13,034 件
抗血小板抗体検査	224 件	61 件	67 件
交差適合試験	8,220 件	7,043 件	5,412 件
直接クームス試験	132 件	115 件	140 件
間接クームス試験	127 件	101 件	128 件
HLA タイピング検査	271 件	369 件	397 件
HLA 抗体検査	889 件	578 件	353 件
リンパ球クロスマッチ	90 件	31 件	32 件

医療情報部

Department of Medical Information

業務内容

当院では、診療科及び中央部門の情報化、ネットワーク化を通じて、患者の診療情報を医師・看護師等の医療従事者が共有することにより、大学病院の使命である大規模急性期医療、先進医療の支援を行っています。具体的には、病院情報システムを導入し、電子カルテ・オーダーリング・診療支援・外来看護支援・病棟看護支援を行っており、病院内で各部門が管理する臨床検査・放射線・薬剤・給食・手術・材料・医事・看護・リハビリ・病理・輸血等のシステムと有機的な連携を図っています。日々の業務としては、病院情報システム及び院内LANに係る企画・調整、改善、開発、運用管理等を行っています。

また、診療情報管理室では、診療記録の適正な取り扱いという視点から業務を行っており、診療情報管理士によるカルテ・退院時サマリーの点検、がん登録の実施、カルテ開示対応さらには診療時に発生した紙文書のスキャンニング、紙カルテ・フィルムの保管・搬送、診療記録閲覧室の運営等の業務を行っています。診療情報管理については、2015年1月から統合管理システムを導入し、診療関連文書の一覧性の向上を図るとともに、電子署名・タイムスタンプの導入によって電子化の一層の推進に寄与しています。

部門の特徴

医療情報部は、病院情報システムや診療記録の管理に関する中心的な役割を担っています。

医療情報部長の下に事務職の組織である医事運営課医療情報担当がおかれており、情報システム担当は病院情報システムの企画、運用管理における診療科や中央部門との連絡調整、システムの保守管理を行います。診療情報管理担当は診療記録の適正な管理やがん登録に関する業務を行います。また、関係する委員会の開催等の業務を担い、現場ニーズを把握しながら円滑な業務運用を図っております。日々進歩する医療技術の向上とともに医療現場のシステム化の要求も高まりを見せており、こうした要求に適切に対応できるように心がけています。

2007年5月に導入した電子カルテシステムは、定期的なシステム更新を実施することで日々進歩する医療に貢献しています。更新毎に医療ニーズの変化に対応した基本方針を立案しその実現を果たすことにより、患者サービスの向上や質の高い医療の提供、臨床研究の推進に大いに寄与しています。これに加えて、地域医療連携の推進という目標を掲げ、今後とも地域医療の拠点として、大学病院の役割を果たしていきたいと考えております。



ひの まさゆき

日野 雅之

部長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中前 美佳 なかまえ みか	准教授	
岡村 浩史 おかむら ひろし	副部長／講師	

システム構成図



薬剤部

Department of Pharmacy

業務内容

薬剤部の主な業務は次のとおりです。

1. 調剤室：調剤支援システムを導入し、正確に効率よく処方チェックと調剤を行い、安全なおくすりを提供しています。
2. 病棟薬劑室：患者さんへの薬劑管理指導ならびに内服、注射処方へのチェック、医師への処方提案などを通して、医薬品適正使用とチーム医療に貢献しています。
3. 注射薬供給室：患者さん毎に1施用単位で注射薬を供給することで、医薬品安全使用に努めています。
4. 製剤室：治療上必要ではあるが、製品として販売されていない薬劑などについて、専門知識を活かして院内製剤の製造を行なっています。
5. 麻薬・覚醒剤管理室：医療用麻薬と覚醒剤原料の調剤・薬品管理を行っています。
6. 化学療法室：院内で実施されるすべてのがん化学療法について投与量や投与計画をチェックし、抗がん剤を無菌的に混合調製しています。
7. 医薬品情報室：国内、国外で使用されている医薬品の情報を収集し、情報提供を行っています。
8. 出納管理室：医薬品の購入と適正な在庫管理ならびに品質管理に努めています。特に品質管理については納品までの流過程におけるデータの収集も行い、品質確保に努めています。

部門の特徴

薬剤部では、医薬品のエキスパートとして各診療科・中央部門・看護部門等と連携をとり、医療チームの一員として薬物治療ならびに医療安全に貢献しています。

(病棟活動)

2013年10月から、病棟専任薬劑師を配置し、病棟薬劑業務を開始しました。入院患者さんへの薬劑管理指導業務に加え、持参薬の鑑別、内服・注射処方に対しても、検査データなどを利用し、処方チェックの精度を向上させ、医師へ処方提案や情報提供を行い、医薬品適正使用を推進しています。

(中央手術部サテライト薬局)

専任薬劑師が常駐し、手術に使用する医薬品の供給・管理を行い、麻薬、毒薬、吸入麻酔薬等のハイリスク医薬品の適正管理を行っています。

(がん化学療法)

薬劑師は、投与量、投与間隔、投与方法から配合変化や吐き気止め薬の選択等についてチェックを行っています。2018年3月から内服抗がん剤の服用を開始される患者さんへ薬劑師外来において服薬支援を開始しました。患者さんより得られた副作用などの情報は必要に応じて主治医にフィードバックし、処方提案を行うなど、安全で適正な抗がん剤治療に貢献しています。

(医薬品安全使用)

医療安全管理部の専任安全管理者（薬劑師）との連携を密にし、院内での医薬品関連の医療事故防止対策の立案等、医療安全に貢献しています。



なかむら やすたか

中村 安孝

部長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
高橋 典子 たかはし のりこ	副部長	薬剤業務全般／庶務・連絡調整／中央業務
須田 泰記 すだ やすき	副部長	薬剤業務全般／教育・医薬品安全管理
河崎 尚史 かわさき ひさし	副部長	薬剤業務全般／病棟業務

薬剤部の取り組み

各々の薬剤師が積極的に研修会、学会等に参加することによりスキルアップを図り、専門薬剤師の取得を目指すなど医療チームの一員として専門性を高める努力を行っています。

(研修施設認定)

日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 認定薬剤師制度研修施設

日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設

日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修施設

(2023年4月現在)

(認定資格)

日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師

日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師

日本医療薬学会 がん専門薬剤師

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師

日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師

日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師

日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師

日本糖尿病学会 糖尿病療養指導士

日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法認定薬剤師

日本循環器学会 心不全療法指導士

日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師等

(2023年4月現在)

臨床研究：医薬品の有効性・安全性確保と適正使用推進のため、薬物動態に関する研究、薬剤疫学調査研究を主なテーマとして臨床研究に取り組んでいます。

看護部

Nursing Department

業務内容

看護部では、大阪公立大学医学部附属病院の理念に基づき「患者さんの生命と個別性を尊重し、看護実践能力の向上に努め、質の高い看護を提供します」と看護理念を掲げています。看護部内に看護教育・研究研修センターを設置し、看護部と看護学部が連携して専門職としてのキャリア支援を行う体制を整えています。また、優れた知識、確かな技術と科学的思考、そして高い倫理性をもって看護が提供できるように、専門看護師や認定看護師を活用した教育体制を充実させています。さらに、臨床の現場では、患者さんやご家族の意思を尊重したチーム医療を推進し、安全で質の高い医療の提供に尽力しています。地域連携を強化し、切れ目のない医療サービスが提供できるよう、患者総合支援センターの更なる充実に取り組んで参ります。2015年度からは、日本看護協会のDiNQL（労働と看護の質向上のためのデータベース事業）にも参加し、看護職が働き続けられる環境整備と看護の質向上を目指した取り組みを行い、夜勤時間の短縮を全部署に導入するなど、看護師が元気に安心して働き続けられる職場環境整備に積極的に取り組んでいます。また、この事業に参加している特定機能病院45施設とのベンチマークを行い、看護の質の可視化と新たな課題への取り組みも行っていきます。

部門の特徴

【概要と体制】

看護提供体制	：一般病棟（7：1以上）精神病棟（13：1以上）
看護職員数	：約1000名
看護方式	：固定チームナーシング
勤務体制	：変則2交代制
認定看護管理者	：2名
認定看護師	：27名
専門看護師	：5名
特定行為修了者	：32名

【教育と研修】

看護職員の資質の向上とキャリア開発に繋がるための教育プログラム（クリニカルラダー）、専門領域別研修、看護管理者には組織変革に求められる看護管理能力を明確にすることによって、個々の管理能力開発と計画的な管理者育成ツール（マネジメントラダー）を実施しています。また、各々のキャリア志向の向上につながるように、2020年度よりファーストレベル・セカンドレベルなど院外での管理者研修の受講の院内公募制を導入しました。

【看護方針】

- 看護実践能力の開発・育成に努め、専門性を発揮します。
- 「保健師助産師看護師法」「看護者の倫理綱領」「看護業務基準」等を指針に、自らの提供する看護の質を保証します。
- 社会・医療の動向に目を向け、継続ある看護を提供します。



なんじょう ゆみ

南條 幸美

看護部長

[専門・担当]

看護部門統括

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中 麻里子 なか まりこ	副部長	人事
辻村 ヒロミ つじむら ひろみ	副部長	診療報酬関係／感染対策／中央部門
佐々木 由美子 ささき ゆみこ	副部長	病院情報システム／病棟
古川 まゆみ ふるかわ まゆみ	副部長	看護補助者担当／庶務／危機管理／病棟
瀬脇 純子 せわき じゅんこ	副部長	教育／病棟
上田 節子 うえだ せつこ	副部長	医療連携／危機管理／外来部門
遠藤 弘子 えんどう ひろこ	副部長（兼任）	医療安全
一ノ瀬 光海 いちのせ こうみ	師長	看護補助者担当／庶務
北浦 久代 きたうら ひさよ	師長	教育
鶴田 理恵 つるた りえ	師長	がん看護専門看護師
阿部 美佐子 あべ みさこ	師長	特定行為研修担当／急性・重症患者看護専門看護師
竹田 律子 たけだ りつこ	副師長	教育
曾我 智美 そが ともみ	副師長	皮膚・排泄ケア認定看護師
井上 佳世 いのうえ かよ	看護主任	特定行為研修担当／クリティカルケア認定看護師
馬場 華奈己 ばば かなこ	看護主任	精神看護専門看護師
林 純代 はやし すみよ	看護主任	皮膚・排泄ケア認定看護師
岩田 恵子 いわた けいこ	看護主任	緩和ケア認定看護師

看護部の取り組み

当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。がん看護専門看護師、緩和ケア・がん化学療法・がん放射線療法看護認定看護師等がんに関わる看護のスペシャリストが、「がん患者説明外来」を開設し、患者さんや家族に対して、病状・治療方針について適切な情報提供を行い、心理状態に配慮したケアを行うことで患者さんの意思決定を支援しています。さらに現場のフィジカルアセスメント能力向上にむけた、シュミレーション学習に力を入れ、実践能力強化を図っています。また、2017年度には「看護師の特定行為に係る指定研修機関」としてスタートしました。現在、集中治療領域パッケージ研修に直接動脈穿刺法による採血を加えた「急性重症ケアコース」と、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、血糖コントロールに係る薬剤投与関連について研修を実施しています。

業務内容

【入院患者食事管理業務】

安全・安心をモットーとし、適正な衛生管理のもと、入院患者さんの QOL（生活の質）向上に貢献するとともに、治療に寄与できる質の高い食事を提供することを目指しています。

【食種】	一般食	：常食、軟食、小児食、幼児食、刻み食、ソフト食、介助食 等	約 30 食種
	治療食等	：糖尿食、腎臓食、肝臓食、心臓食、消化管術後食、免疫不全食 等	約180食種

【栄養食事相談業務】

栄養食事相談は、入院・外来の患者さんを対象に、病態に合わせた食事の相談を主治医の指示により実施しています。

糖尿病（1・2型糖尿病、糖尿病性腎症、妊娠糖尿病等）、肝臓病（肝不全、脂肪肝、肝炎等）、肥満、膵臓病、腎臓病（腎炎、腎不全、透析等）、心臓病、高血圧症、消化管術後、炎症性腸疾患、先天性代謝異常等、様々な栄養食事指導を予約制にて毎日実施しています。

また、集団指導として、糖尿病教室、腎臓病教室、心臓リハビリ減塩教室、母親教室を開催しています。

【栄養管理業務】

栄養管理は、入院患者さんに対して毎週栄養評価を実施するとともに、医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師、管理栄養士による栄養サポートチーム（NST）を設置し、週に一度カンファレンスを行い、より適切な栄養管理、食事提供、栄養補給が出来るよう活動しています。

【サテライトNST設置病棟（主な診療科）】

17 西病棟（小児医療センター）、15 東病棟（消化器外科）、15 西病棟（肝胆膵外科）、11 西病棟（肝胆膵内科）、7 階病棟（血液内科）、4 階病棟（ECU・救急）

【NST設置外来】

化学療法センター栄養外来



えもと まさのり

繪本 正憲

栄養部長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
服部 俊一 はっとり としかず	保健副主幹	【担当】 人事 / ICT
藤本 浩毅 ふじもと ひろき	主査	【担当】 栄養管理 / 危機管理 / 医療安全

部門の特徴

■ 栄養部の理念 ■

私たちは、食事は医療の一環として療養に寄与する食事の提供に努めるとともに、

1. 真心を込めて、安全で美味しい食事の提供に努めます。
2. チーム医療に積極的に参加し、治療に即応できる体制を作ります。
3. 栄養学の進歩にたゆまぬ努力を続け、地域住民の信頼を得られるスペシャリストの育成に努めます。

[スタッフ]

管理栄養士の資格以外にも様々なライセンスを取得し、専門性を発揮できるよう取り組みを行っています。

管理栄養士 12 名

病態栄養専門（認定）管理栄養士	7 名
NR・サプリメントアドバイザー	3 名
糖尿病療養指導士	5 名
NST 専門療法士	2 名
静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	1 名
がん病態栄養専門管理栄養士	2 名
腎臓病療養指導士	1 名
医療情報技師	1 名
栄養指導専門士	1 名
肝炎コーディネーター	2 名

[入院患者食事]

安心・安全な食事を提供するため、食材については、産地や原材料の管理を行い、調理後の料理は保温・保冷配膳車によって適温の食事を配膳しています。また、病態や治療に合わせた個別対応についても積極的に対応を進めています。そのほか、産科病棟では出産された方を対象に出産祝膳、18 階特別病棟では幕の内ご膳を提供しています。

[栄養食事相談・栄養管理]

栄養食事相談は、糖尿病、腎臓病などの慢性疾患をはじめ、フェニルケトン尿症、シトルリン血症、糖原病などの先天性代謝異常といった専門的な栄養食事相談にも対応しております。入院患者さんの栄養管理においては、より治療に密接な対応がとれるよう、サテライト NST を要所に設置し、サテライト NST を設置していない病棟については、全体を総括するコア NST がサポートしています。また、日本臨床栄養代謝学会が認定する NST 専門療法士の臨地修練施設として修練生の受け入れをしています。

医療機器部

Department of Medical Device

業務内容

●臨床工学室（ME センター）

- ・中央管理医療機器（人工呼吸器・除細動装置・各種モニター・各種ポンプなど）の貸出し、及び保守管理業務
- ・人工腎部、並びに重症系部門における特殊血液浄化療法を中心とした臨床支援業務
- ・医療機器、診療材料物品の情報管理業務
- ・末梢血幹細胞採取業務

●診療材料室

- ・病棟や手術室を含む中央部門で使用される器材、物品類の洗浄・滅菌業務
- ・ディスプレイ製品・衛生材料の院内供給業務
- ・診療材料物品の登録管理業務

●中央手術部（IVR センター含む）

- ・手術用医療機器（麻酔器・電気メス・手術用顕微鏡・手術支援ロボットなど）の保守管理業務
- ・心臓血管外科手術時における人工心肺装置の操作、及び保守管理業務
- ・不整脈治療（ペースメーカー・埋め込み型除細動・カテーテルアブレーションなど）に関する臨床支援業務
- ・カテーテル手術全般における臨床支援業務

●医療機器情報室

- ・購入申請される診療材料物品の添付文書内容等に関する導入前確認業務
- ・医療機器の不具合に関する情報管理業務
- ・診療材料の適正納入価格に関する検討

●集中治療センター（ICU/CCU）

- ・各種医療機器の保守管理
- ・生命維持装置（血液浄化装置・ECMO など）の操作
- ・医療機器に関する教育活動

部門の特徴

- ・ME センターでは、630 機種、7,300 台以上の医療機器を中央管理しています。ここでは機器の更新計画、並びに購入から廃棄に至るまでのライフサイクルに関わり、円滑かつ効率的な機器運用を図っています。
- ・診療材料室では常に安全で適切な器材・診療材料を各部署に提供できるように管理調整を行っています。
- ・中央手術部で使用される全ての医療機器が臨床工学技士により管理されており、術中の医療機器のトラブルについても迅速に対応しております。また、医療機器導入の過程に臨床工学技士が関わり、医師、看護師の意見を集約し、運用面、安全面を考慮した最適な医療機器整備を図っています。
- ・医療安全管理部と連携して、医療機器や診療材料物品に関連する安全対策に取り組んでおります。
- ・医療従事者の方に医療機器に対する理解と知識を深めて頂くことを目的として、年間 100 回以上の病院スタッフ向け勉強会を開催しています。
- ・緊急手術や医療機器トラブルに対応するため、全日宿直体制を実施しています。
- ・不整脈治療・カテーテル手術・末梢血幹細胞採取・集中治療など、幅広い業務支援を実施しています。



しばた としひこ

柴田 利彦

部長

[専門・担当]

副病院長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
松尾 光則 まつお みつのり	保健副主幹	臨床工学技士／統括
定 亮志 さだ りょうじ	主査	臨床工学技士／中央手術部担当
平石 遊子 ひらいし ゆうこ	主査	臨床工学技士／診療材料室担当
北村 孝一 きたむら こういち	主査	臨床工学技士／医療機器情報室担当

主な検査機器・設備

滅菌関連装置（オートクレーブ 8 台・プラズマ滅菌器 4 台・EOG 滅菌器 4 台・RO 純水製造装置 2 台・システム乾燥器 3 台・減圧沸騰式洗浄器 2 台・カート洗浄消毒装置 1 台・ウォッシャーディスインフェクター 7 台）



MEセンター（人工呼吸器・除細動装置・血液浄化装置・輸注ポンプ・フットポンプ・吸引装置など）



臨床研究・イノベーション推進センター

Center for Clinical Research and Innovation : CCRI

業務内容

- 企業治験・医師主導治験等の受託・実施・支援に関する業務
 - ・ 治験事務局
 - ・ 治験薬管理
 - ・ 治験ネットワークの運用
 - ・ コーディネーター
 - ・ 治験審査委員会事務局
 - ・ 製造販売後調査の受託 等
- 臨床試験・臨床研究支援に関する業務
 - ・ 調整事務局
 - ・ データマネジメント
 - ・ EDC システム「REDCap」の運用、ユーザー教育
 - ・ モニタリング
 - ・ 健常人の研究対象者募集
 - ・ コーディネーター
 - ・ 統計解析
 - ・ 薬剤管理
 - ・ 「おおさか臨床試験ボランティアの会」の運営
- 医薬品・医療機器等の開発、早期実用化の支援に関する業務
 - ・ 医療ニーズ探索支援
 - ・ イノベーション創出支援相談
 - ・ 研究シーズ探索・マッチング支援
 - ・ 薬事支援
- 教職員・支援者への治験・臨床研究の活性化等に資する教育に関する業務

部門の特徴

2017年8月1日、臨床研究・イノベーション推進センター（Center for Clinical Research and Innovation : CCRI）を創設し、新たに臨床研究分野およびイノベーション創出分野を設置しました。本センターは公立大学病院の使命として実施する臨床研究の適正性をより一層確保し、研究の推進を積極的に支援するとともに、産学の連携を推進することにより、わが国の医療の発展に寄与し、地域医療の中核としての役割を果たします。また、次世代の臨床研究・イノベーション創出を支える優秀な人材の育成を通して広く社会に貢献します。

臨床研究分野は、システム開発部門、データサイエンス部門から構成されます。米国バンダービルト大学と学外提供についてライセンス契約を結び、世界医学アカデミアで標準とされている電子データ集積システム REDCap をこれまでに全国の50を超える施設、100以上のプロジェクトに提供しています。REDCapを用い、統計専門家を含む臨床研究の専門家が研究計画立案から終了まで、学内外の医師主導治験及び特定臨床研究も広く支援しています。

イノベーション創出分野は、治験実施管理部門、イノベーション創出部門、研究支援・教育部門から構成されます。治験実施管理部門は、質の高い治験データの取得を目指し、医薬品・医療機器等の治験を円滑かつ適切に実施するためのサポート体制を提供します。当院では、すべての診療科で治験の実施が可能であり、2022年度は医師主導治験を含め、新規治験39件を受託し、継続試験を含めると208件の治験を実施しています。イノベーション創出部門は、学内研究シーズ・医療ニーズの掘り起こし、研究シーズと開発企業とのマッチング、薬事行政相談への対応支援など、産学連携・早期実用化を積極的に推進します。

さらに、研究支援・教育部門は、臨床研究分野とイノベーション創出分野の横断的な部門として、治験・臨床研究の活性化等に資する教育を実施しています。また1000名近くからなる、「おおさか臨床試験ボランティアの会」を通し、健常人対象とする臨床研究を支援しております。



ひの まさゆき

日野 雅之

[専門・担当]

センター長

副院長・センター統括血液腫瘍制御学教授

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
新谷 歩 しんたに あゆみ	臨床研究分野長	臨床研究分野統括 医療統計学 教授
野中 孝浩 のなか たかひろ	イノベーション創出分野長	イノベーション創出分野統括 健康・医療イノベーション学教授
立石 千晴 たていし ちはる		イノベーション創出支援担当 健康・医療イノベーション学 准教授
信田 佳克 しのだ よしかつ	保健副主幹	治験支援担当
下村 祥子 しもむら しょうこ	主査	治験支援担当
吉田 寿子 よしだ ひさこ		生物統計担当 医療統計学 特任准教授
藤井 比佐子 ふじい ひさこ		研究実施管理担当 健康・医療イノベーション学 特任講師
小野寺 理恵 おのでら りえ		イノベーション創出支援担当 健康・医療イノベーション学特任講師


大阪公立大学 医学部附属病院
臨床研究・イノベーション推進センター
 Center for **C**linical **R**esearch and **I**nnovation

患者総合支援センター

各種受付

総合案内 8:30～16:45
 医療相談 9:00～16:45
 がん相談 9:00～16:45
 医療安全相談 9:00～16:45
 地域医療連絡室 9:00～19:00
 セカンドオピニオン受付 13:00～15:00

Patient Advocacy Center

業務内容

当院では、地域医療連携を推進し、患者さんの療養生活の支援を円滑にすすめるために、2011年に当センターを設置しました。

地域医療連携では、診療予約サービスや退院支援などの取り組みを充実し、着実に成果を上げています。

当院と地域医療機関等との情報や意見交換の場として、「医療連携 Face-to-Face の会」を年3回開催しています。当院の医師が先進医療の現状を症例呈示やトピックスとして紹介し、顔の見える形でお伝えしています。

病気や障害を抱えたとき、患者さんやご家族は不安や悩みをお持ちになられると思います。患者さんの療養生活の支援のひとつとして、患者さんやご家族の治療や生活の不安などの心配ごとを伺い、少しでも解消できるよう当センターの相談員が、解決のお手伝いをさせていただきます。

部門の特徴

【地域医療連携】

かかりつけ医や地域医療機関と医療連携を図り、当院への患者さんの紹介や逆紹介を円滑に進めます。介護、福祉施設や保健所などの行政機関と連携を深め、患者さんの療養生活を支援しています。

【療養生活支援】

① 相談支援について

ア 受診相談では、初診の際に受診科の相談や案内を行っています。

イ 医療相談では、診療内容の相談、医療費や福祉、介護サービスなどの相談を行っています。

② がん相談、セカンドオピニオンについて

ア 当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されています。がん相談支援センターとして、相談員ががんに関する情報提供を行うとともに、療養上の不安や悩みについて一緒に考え、解決のお手伝いをさせていただきます。

イ セカンドオピニオンについてのご相談や受付を行っています。

③ 入退院支援、在宅療養支援について

安心して入院していただくために、入院申し込み時から、患者さんの相談をお受けし、医師や看護師等と協働し、当院の退院時、地域医療機関への転院やかかりつけ医、訪問看護、訪問介護などを利用し、自宅療養が円滑に行えるよう退院の準備をお手伝いします。これらを一貫して行うために入退院支援センターを設置しております。

また、当院への外来通院中や在宅療養中の患者さんが安心して必要な治療や介護が継続できるように支援しています。

④ 患者さんへの医療情報の提供について

患者さん、ご家族に医療情報の提供や市民医学講座などの開催案内を行っています。

⑤ 療養生活支援について

療養生活が豊かになるよう、病院ボランティア活動の支援や院内コンサートなどの行事を実施しています。

- ・ ご意見箱の設置
- ・ 院内イベント情報発信
- ・ 院内ボランティア活動の支援
- ・ 患者満足度調査の実施

主な政策事業との携わり

地域がん診療連携拠点病院
 大阪府肝疾患診療連携拠点病院
 大阪市認知症疾患医療センター
 がんゲノム医療連携病院

大阪府難病診療連携拠点病院
 造血幹細胞移植推進拠点病院
 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
 仕事と治療の両立支援、就労支援 等



すみ としゆき

角 俊幸

センター長

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
上田 節子 うえだ せつこ	副センター長	
河野 桂子 こうの けいこ	師長	
伊藤 美樹 いとう みき	副師長(入退院支援センター担当)	
遠原 晴美 とおはら はるみ	副師長(地域連携グループ担当)	
竹林 房代 たけばやし ふさよ	副師長(退院支援グループ担当)	

地域医療連絡室について

地域医療連絡室では、急性期治療を中心とした高度専門医療の役割である「特定機能病院（当院）」と地域医療機関との病診・病病連携を円滑に行うため、以下の業務を行っております。

- ▶ ご紹介患者さんの外来初診日の予約及び受診相談
- ▶ ご紹介患者さんの受診結果、受診状況の連絡窓口
- ▶ ご紹介元医療機関と当院医師との連絡調整
- ▶ 患者さんの逆紹介等の相談
- ▶ 「[外来診察担当表](#)」の発行

初診紹介患者さんの診療予約等について

予約なしで初診窓口（受付時間：午前8時45分から午前10時30分まで）へのご案内も可能ですが（膠原病・リウマチ内科、ゲノム診療科、整形外科、歯科口腔外科、耳鼻いんこう科は完全予約制のため除く）、原則は初診予約をしていただくと初診診療の待ち時間が軽減できます。

（『診療情報提供書（紹介状）』が必要です。）

※患者さんから直接のお申込みは受け付けておりません。

お申込みの手順について

1. FAXでの受付

- ▶ 『診察予約申込書（診療情報提供書）』に必要事項をご記入の上、診療情報提供書とともに地域医療連絡室へFAXにてお申込みください。診察予約申込書は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください。
- ▶ 地域医療連絡室 FAX 06-6646-6215

※カルテを事前に作成いたしますので、内容は正確にご記入をお願いいたします。

2. 地域医療連絡室からのご連絡

診察日時を調整後、FAXにて①『初診予約受付票の送付状』、②『初診予約受付票（外来受診のご案内）』を返送いたします。内容によっては診療科に確認を行いますので、お時間を頂く場合があります。

3. 患者さんへの連絡

ご紹介患者さんへ『初診予約受付票（外来受診のご案内）』、『診療情報提供書（紹介状）』をお渡しください。

受付時間・連絡先について

受付時間	月曜日～金曜日 午前9時から午後7時まで（土・日・祝日と年末年始 12月29～1月3日を除く） ※患者さんから直接のお申込みは受け付けておりません。
電話	06-6645-2877（直通）
F A X	06-6646-6215（直通）
所定用紙	診察予約申込書（診療情報提供書）

初診紹介患者さんの予約日の手続きについて

患者さんのご来院当日は、初診受付 ③番窓口にてお手続きをいたします。

※診療予約日の変更及びキャンセルの場合は、前日までに地域医療機関から地域医療連絡室までご連絡ください。

セカンドオピニオン外来について

当院以外の医療機関で診療を受けておられる方を対象に、診断内容や治療方針について、当院の専門医が意見を提供し、現在の治療の内容や他の治療法等について意見を聞き参考にしていただくことを、セカンドオピニオンといいます。当院各診療科では、2005年7月1日から、セカンドオピニオン外来を実施しております。セカンドオピニオン外来は完全予約制です。

※総合診療科、神経精神科、女性診療科、眼科は対応しておりません。

セカンドオピニオン外来の実施内容

1. 相談の対象となる方

現在受診中の医療機関での診断や治療方針について、「このままでよいのか」あるいは「他の治療法があるのか」等悩んでいる患者さん、またはご家族が対象です。

主にがん疾患、心疾患、脳血管疾患等を対象としていますが、対応診療科は事前にお問い合わせください。

現在の主治医が了承していない場合、転院や訴訟等を目的とされる方は対象となりません。

2. ご用意いただくもの

セカンドオピニオン外来申込書、診療情報提供書（紹介状）、検査資料（レントゲンフィルム、検査データ等）、相談同意書（ご本人以外の方）

3. 費用

1回あたり33,000円（全額自費となり、保険は適用されません。）

4. 実施方法

完全予約制となっております。

セカンドオピニオン外来申込書に必要事項をご記入の上、診療情報提供書と合わせて以下お問い合わせ先（受付）にご提出ください。（郵送もしくは持参）

なお、患者さん以外の方が、ご相談に来られる場合は、相談同意書の提出も必要になります。

5. 相談日時等

患者さんまたはご家族の希望をお聞きし、各専門医と調整のうえ、個別に連絡します。

相談時間は、事前検討、意見書作成、面談を含めて60分以内となっております。

6. お電話でのお問い合わせ先

医療相談窓口・地域医療連絡室 電話 06-6645-3399

お電話でのお問い合わせの受付は、月曜日～金曜日（土、日、祝日、年末年始 12月29日～1月3日を除く）午後1時から午後3時にお願いします。

※本様式は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください

大阪公立大学医学部附属病院 診察予約申込書（診療情報提供書）

FAX：06-6646-6215 / TEL：06-6645-2877

<ul style="list-style-type: none"> 受付時間(9:00～19:00)以降のお申し込みは原則翌営業日の返信となります。また診療情報提供書の内容によりましては、診療科専門医の確認が必要です。 膠原病・リウマチ内科、神経精神科、放射線科、放射線治療科、核医学科、整形外科、感染症内科は、お返事に一週間程度かかる場合がございます。 助産券対応医療機関ではございません。 	医療機関情報
	医療機関名
	住所
	TEL/FAX
	医師名 担当者

患者情報			
フリガナ		旧姓	性別
氏名			<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
生年月日	<input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 昭 <input type="checkbox"/> 平 <input type="checkbox"/> 令 <input type="checkbox"/> 西暦	年 月 日	(歳)
住所	〒		
電話番号	自宅：	携帯：	
当院受診歴	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (診察券番号：)		
ADL	<input type="checkbox"/> 独歩 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 寝たきり(来院方法：)		
身長/体重	血液内科・神経精神科受診患者のみ記載		cm / kg
日本語	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 ()	難聴	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
透析	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 月水金 <input type="checkbox"/> 火木土 <input type="checkbox"/> その他())		
認知症	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	家族付き添い： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(続柄：)	
※未成年、認知症外来、神経精神科、皮膚科腫瘍外来は付き添い必須です			
貴院での状況	<input type="checkbox"/> 外来待機中 <input type="checkbox"/> 帰宅 <input type="checkbox"/> 入院中(退院予定： <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)		
保険情報			
保険者番号		公費負担番号	
記号・番号		公費受給者番号	
続柄	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族	負担割合	<input type="checkbox"/> 0割 <input type="checkbox"/> 1割 <input type="checkbox"/> 2割 <input type="checkbox"/> 3割
お申込内容			
希望医師	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()		
受診希望日	第一希望	年 月 日	()
	第二希望	年 月 日	()
	第三希望	年 月 日	()
不都合日	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()		
持参資料	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 [<input type="checkbox"/> 採血データ <input type="checkbox"/> X-P <input type="checkbox"/> CT <input type="checkbox"/> MRI <input type="checkbox"/> エコー <input type="checkbox"/> その他()]		
病名			
病状及び検査結果	<input type="checkbox"/> 別紙参照 (貴院様指定の診療情報提供書を添付ください)		

医療連携登録医の方は 登録医番号をご記入ください	
ご希望の診療科に ○をご記入下さい	
<input type="checkbox"/> 総合診療科	
<input type="checkbox"/> 循環器内科	
<input type="checkbox"/> 呼吸器内科	
<input type="checkbox"/> 膠原病・リウマチ内科	
<input type="checkbox"/> 生活習慣病・糖尿病センター	
<input type="checkbox"/> 腎臓内科	
<input type="checkbox"/> 骨・内分泌内科	
<input type="checkbox"/> 消化器内科	
<input type="checkbox"/> 肝胆膵内科	
<input type="checkbox"/> 小児科・新生児科	
<input type="checkbox"/> 神経精神科	
<input type="checkbox"/> 皮膚科	
<input type="checkbox"/> 放射線科	
<input type="checkbox"/> 放射線治療科	
<input type="checkbox"/> 核医学科	
<input type="checkbox"/> 消化器外科	
<input type="checkbox"/> 乳腺外科	
<input type="checkbox"/> 心臓血管外科	
<input type="checkbox"/> 肝胆膵外科	
<input type="checkbox"/> 呼吸器外科	
<input type="checkbox"/> 小児外科	
<input type="checkbox"/> 脳神経外科	
<input type="checkbox"/> 整形外科	
<input type="checkbox"/> 泌尿器科・(腎臓移植)	
<input type="checkbox"/> 女性診療科	
<input type="checkbox"/> 眼科	
<input type="checkbox"/> 耳鼻いんこう科	
<input type="checkbox"/> 麻酔科・ペインクリニック科	
<input type="checkbox"/> 形成外科	
<input type="checkbox"/> 血液内科	
<input type="checkbox"/> 脳神経内科	
<input type="checkbox"/> 歯科口腔外科	
<input type="checkbox"/> 感染症内科	
<input type="checkbox"/> ゲノム診療科	

病院記入欄	
-------	--

★ダウンロード場所：病院ホームページ TOP > 医療関係者の方へ > 地域医療連絡室 > 予約の流れ > 「診察予約申込書（診療情報提供書）」※ PDF / Excel

※本様式は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください

大阪公立大学医学部附属病院セカンドオピニオン外来申込書 問合せ番号
—

セカンドオピニオン外来の趣旨を十分理解し、特に訴訟等の目的に使用しないこと及びセカンドオピニオン料として定められた費用（保険適用外）を支払うこと等に同意のうえ、下記のとおりセカンドオピニオン外来を申し込みます。（費用1件33,000円（税込）） ※太線枠内記入のうえ、郵便（〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7 セカンドオピニオン外来担当）もしくは直接持参によりお申込みください。

患者氏名	フリガナ (氏名) 男・女	生年月日	大正・昭和・平成・令和 西暦 年 月 日 歳
	連絡先住所 〒 —		連絡先電話番号
相談者	フリガナ (氏名) 男・女	患者との続柄	本人 家族 ()
	連絡先住所 〒 —		連絡先電話番号
現在の状況	(病院名) 通院中・入院中・その他 () (診療科名) (病名)		
相談目的			
提出できる資料等	<input type="checkbox"/> 紹介状（診療情報提供書等） <input type="checkbox"/> 検査データ <input type="checkbox"/> レントゲンフィルム等（CT等含む） <input type="checkbox"/> その他 ()		
相談したい内容			

※以下は病院側記入欄ですので記入しないでください。

	相談可否	可・否	(否の理由)	診療科部長確認欄

申込書受理	担当診療科・医師	相談予約日時	相談者への連絡	相談料
年 月 日	(診療科)	年 月 日	年 月 日	(説明) <input type="checkbox"/> 完了
(受理者)	(医師名)	時 分	(連絡者)	(徴収) <input type="checkbox"/> 完了

2022. 4

★ダウンロード場所：病院ホームページ TOP > 相談窓口 > セカンドオピニオン > 「セカンドオピニオン外来申込書」 ※ PDF

※本様式は当院ホームページよりダウンロードしてご利用ください

大阪公立大学医学部附属病院
セカンドオピニオン外来相談同意書

私（患者さま氏名）_____は、本同意書を持参しました

(ご相談者) _____に対して、貴院担当医師が私の疾患に

ついでの治療内容、今後の見通し等につきまして、意見や判断を述べ、私の主治医

あての報告書が作成されることに同意いたします。

年 月 日

患者さま氏名 _____ ①

生年月日（大正、昭和、平成、令和、西暦）
_____年 月 日生〔※ 家族であることを証明できるもの（健康保険証、免許証等）を必ず持参して
ください。〕

2022.4

国際診療支援センター

International Medical Support Center

業務内容

訪日外国人が年々増加しており、今後、大阪においては万博やIR誘致等の国際的なイベントを契機に医療を必要とする機会もさらに増加する見込みです。また、在留外国人も含める全ての居住圏において当院は外国人患者が安全・安心に医療を受けることができるように、院内表示や診療時に必要となる医療文書等の多言語対応、通訳・翻訳ツールの設置など院内体制を整備し、2021年1月25日付でJMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）の認証、2022年4月1日付で大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関として認可を受けています。

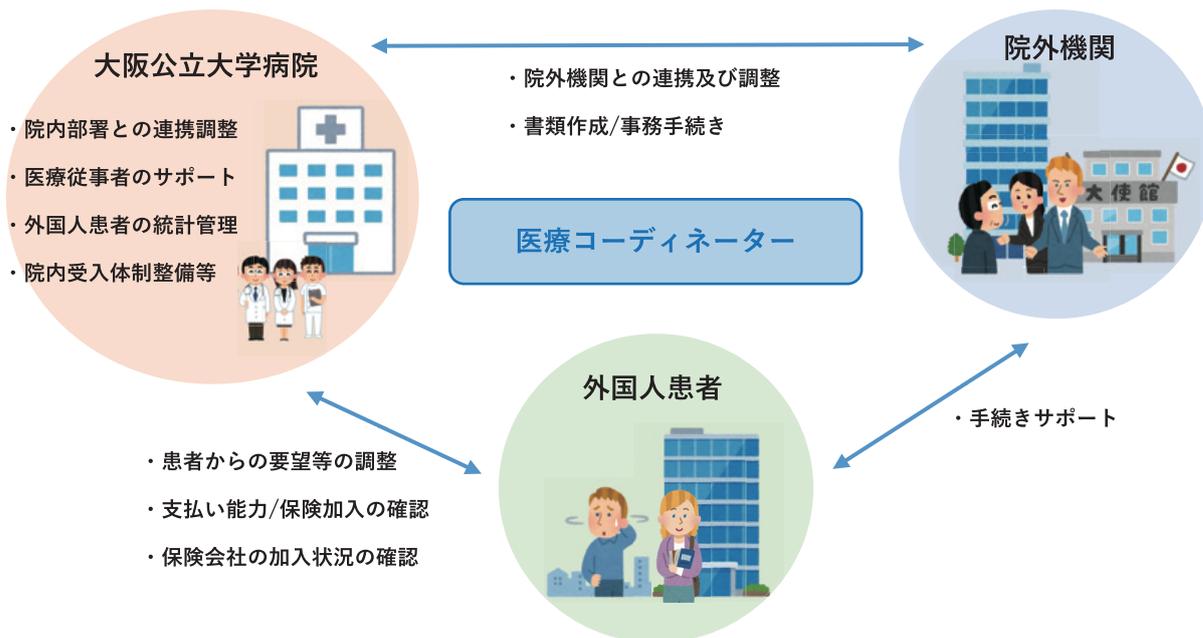
【具体的な業務内容】

- ・ 渡航外国人患者の医療コーディネート業務
- ・ 通訳ツールの管理
- ・ 院内表示・掲示の整備／更新
- ・ 医療文書等の翻訳／更新
- ・ 外国人患者対応マニュアルの更新
- ・ 院内研修／院外研修の案内
- ・ 外国人患者の受診状況の統計／管理



部門の特徴

当部門では在住・訪日・渡航受診の外国人患者さんに対応すべく、院内および院外の調整役となるコーディネーターを専従で配置しています。また、センター長は医師（副院長）、副センター長は看護師（副部長）が兼任し、事務職員やMSWなども含め多職種が協働し外国人患者さんの円滑な診療をサポートしています。





すみ としゆき

角 俊幸

センター長

[専門・担当]

女性病態医学

スタッフ・専門領域

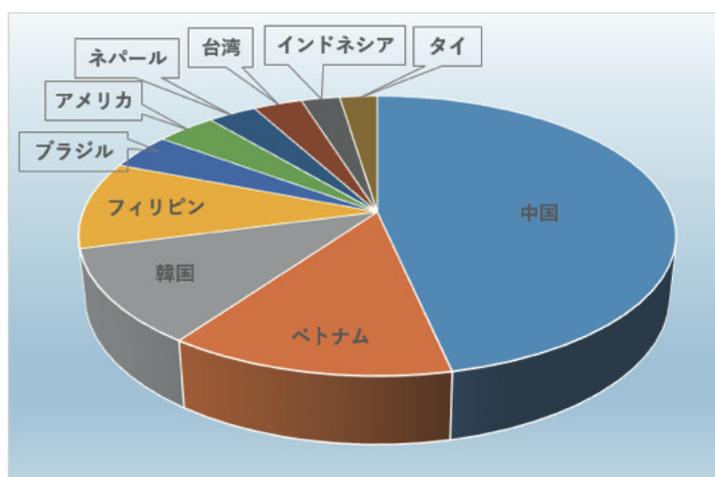
氏名	役職	専門領域
上田 節子 うへだ せつこ	看護部副部長／副センター長	看護師
河野 桂子 こうの けいこ	看護部師長	看護師

外国人実患者数の推移 (2021年4月～2023年3月)



■国籍別 上位10ヵ国(2022年4月～2023年3月)

国籍	人数	割合
中国	644	46.6%
ベトナム	183	13.2%
韓国	152	11.0%
フィリピン	140	10.1%
ブラジル	57	4.1%
アメリカ	53	3.8%
ネパール	43	3.1%
台湾	43	3.1%
インドネシア	34	2.5%
タイ	33	2.4%



先端予防医療部 (附属クリニック MedCity21)

MedCity21, Division of Premier Preventive Medicine

業務内容

あべのハルカス 21 階に開設した先端予防医療部附属クリニック MedCity21 では、大学病院の持つ高い専門性と高度先進医療を活かし、がんや生活習慣病（脳卒中・心筋梗塞・糖尿病・慢性腎臓疾患・肝臓病など）の早期発見・早期治療を目的に人間ドックを主とした健診事業を実施し、予防医療の実践を行います。健診部門にて実施する人間ドックでは総合的な基本 5 コースに加え、専門ドックや各種オプション検査を選択できるようにして幅広い需要に応えてまいります。また、レディースクリニック（産婦人科/乳腺外科）や各種専門外来部門（完全予約制）を併設して、大学病院附属クリニックとしての先進医療を提供いたします。

※予約や取扱い保険についてはお問い合わせください。

部門の特徴

MedCity21 では各分野の常勤専門医 8 名と本学医学部附属病院各診療科医師によって、健診（検診）の診察・検査と総合判定や、レディースクリニック（産婦人科/乳腺外科）や各種専門外来の診療が行われます。MedCity21 と本学医学部附属病院は電子カルテにより検査データ等を共有しており、このことは、健診（検診）者が更に専門的な検査や治療を必要とする際などに、①本学医学部附属病院への直接紹介や、②紹介時のデータ提供、③検査の重複回避、④過去の診療情報の利用等を可能とし、より迅速な診断と治療に繋がります。また、地域での医療を希望される健診受診者や、大学病院での専門的検査・治療を終了した患者さんについては、地域医療機関への紹介窓口となり、地域医療機関との連携を図ります。

このように MedCity21 を中心とする地域健康ネットワークを形成し、健康増進、健康寿命延伸による健康都市大阪の実現に向けて貢献してまいります。

さらに、健診者の同意のもと、健診データや生体試料（血液・尿・遺伝子など）を蓄積するバイオリポジトリ（バイオバンク）を構築しており、それを運営・管理・解析する先端予防医療研究センターにて、疾病の新たな発症予測因子や危険因子、予防因子などの情報を発信してまいります。

主な検査機器・設備

- | | |
|--|--|
| 1. MRI 装置 (1.5 テスラ) | 10. 骨塩定量装置 (DXA 法: 腰椎・大腿骨) |
| 2. 16 列マルチスライス X 線 CT 装置 | 11. コルポスコピー |
| 3. FPD デジタルマンモグラフィ装置 | 12. 胎児心拍モニター |
| 4. 心臓足首血管指数 (CAVI) /
足関節上腕血圧比測定装置 (ABI) | 13. 遺伝子検査 (サインポスト) |
| 5. 肝硬度測定装置 (fibroscan) | 14. 疲労度テスト (テロメアテスト) |
| 6. 経鼻上部消化管内視鏡 | 15. 老化度チェック (筋肉・脂肪量・認知機能・
疲労・ストレス測定) |
| 7. FPD デジタル X 線 TV 装置 | 16. PET / CT 装置 (バイオグラフィビジョン 450)
(本院に設置) |
| 8. FPD デジタル一般撮影 X 線装置 | |
| 9. 超音波検査装置 (心臓・頸動脈・甲状腺・腹部・
乳房・婦人科・周産期) | など |



わたなべ としお

渡邊 俊雄

[専門・担当]

部長/所長/教授

消化器内科

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
福本 真也 ふくもと しんや	副部長/准教授	糖尿病・代謝内分泌疾患/腎臓病全般
木村 達郎 きむら たつお	准教授	呼吸器内科全般/臨床腫瘍学
打田 佐和子 うちだ さわこ	准教授	肝疾患全般
中野 朱美 なかの あけみ	講師	周産期・婦人科全般
灘谷 祐二 なだたに ゆうじ	講師	内視鏡/消化管全般
田内 幸枝 たうち ゆきえ	病院講師	乳腺外科全般
金森 厚志 かなもり あつし	後期研究医	内視鏡/消化管全般

MedCity21 の受診者数 (2022 年度)

人間ドック・各種健診受診者数	14,628 人
上部消化管内視鏡検査 (健診)	7,669 人
上部消化管内視鏡検査 (外来)	40 人



撮影協力：マーソ株式会社



人間ドックコース

標準コース 半日(食事券付)

- 初めて人間ドックを受ける方
- 生活習慣を改善したい方
- 40歳を過ぎたら

人間ドックの標準的な項目を受診頂き病気の早期発見を目指します。検査項目には腫瘍マーカーやピロリ菌検査も含まれています。女性の方はマンモグラフィ又は乳腺超音波と子宮細胞診の検査も実施します。

ライフスタイルコース 半日(食事券付)

- 生活習慣病やメタボリックシンドロームが気になる方
- 血圧、血糖値、脂肪、肥満が気になる方
- 運動不足の方

生活習慣から生じる様々な病気を、早期に見つけるためのドックです。標準コース(上部消化管検査は除く)に、MRI、CTによる画像検査・超音波検査・骨密度測定・糖負荷試験などの血液検査を追加した健診内容になります。

がんコース 半日(食事券付)

- がんが気になる方(がん家系と思われる方など)
- 家族のために

全身のがんを早期に発見するためのドックです。標準コースにCTによる画像検査・超音波検査・腫瘍マーカー・ペプシノゲン検査などの検査項目を追加した健診内容になります。

エグゼクティブコース 1泊2日(夕食・昼食付)

- 時間をかけてくまなく全身を検査したい方
- 生活習慣病やメタボリックシンドロームが気になる方

健診施設にある検査機器をフルに活用します。様々な角度から全身を調べることで病気の早期発見をめざします。健診は1日目の午後から開始し、2日目の午前中までの1泊2日で実施します。

【宿泊:大阪マリオット都ホテル】

PET/CTエグゼクティブコース 1泊2日(夕食・昼食付)

- がんが気になる方(がん家系と思われる方など)
- がん治療後の再発が気になる方
- 病変の早期発見を希望する方
- 時間をかけてくまなく全身を検査したい方

MedCity21で受診いただけるエグゼクティブコースの内容をほぼ網羅し、さらに5mm程度の病変(がん組織も含む)を画像化できる高性能なPET/CT装置による検査を追加したプレミアムなコースです。特にがんが気になる方におすすめです。1日目にMedCity21にて各検査をご受診いただき、2日目に大阪公立大学医学部附属病院にてPET/CT検査をご受診いただきます。 【宿泊:大阪マリオット都ホテル】



専門ドックコース

エイジングチェックコース 約3時間(食事券付)

該当する方に特におすすめ

最近物忘れが気になる方

老化が気になる方

疲れがたまっていると感じる方

現在の老化度、ストレス状態の測定に焦点をあてた健診コースです。各種の検査項目(一般検査・画像検査・血液検査等)に、筋肉年齢・認知機能・神経調和など、身体の老化度をチェックする検査項目を加え、老化予防にご活用頂けます。

脳ドックコース 約2時間

該当する方に特におすすめ

高血圧

糖尿病

肥満

喫煙

MRI・MRA、超音波検査などの検査と血液検査で脳の血管状態を重点的に検査します。無症候性脳梗塞、未破裂動脈瘤、脳腫瘍、脳動脈奇形などの早期発見をめざします。

レディースコース (2時間~3時間)

女性特有の病気(婦人科・乳腺疾患)に特化した女性のためのコースです。婦人科検査や乳腺超音波検査は専門医・女性技師が女性専用フロアで行います。本コースは女性に必要な検査をまとめて行いますので、検査にあまり長時間は取りたくないけれど、女性特有の病気はしっかり検査しておきたいという方におすすめです。

こんな方におすすめ

コースのご案内

スタイリッシュコース

血液検査・乳房検査・婦人科検査を行う、女性のためのベーシックなコース

40歳未満の女性の方へ

若年女性を中心としたベーシックなコースです。

40歳以上の女性の方へ

更年期世代以降に配慮したベーシックなコースです。

ラグジュアリーコース

骨盤MRI検査・甲状腺検査・感染症検査等を追加した女性の体にうれしい、充実のコース

全ての女性の方へ (食事券付)

ベーシックプランに骨粗鬆症や生活習慣病等にも配慮したハイグレードな検査内容です。

※所要時間は混雑状況により変動する場合がございます。



MedCity21の特長

- **最新の医療設備を導入**
高精度な検査で、より早期の病変を見つけます
経鼻式の胃カメラなどの医療機器も充実
- **健診データを活用**
過去の健診データとも比較して
健康状態の推移を医師が判断します
- **女性が安心できるフロア設計**
女性特有の健診をリラックスして受けられるように
女性限定のエリアを設定

窓からの景色もお楽しみください。



撮影協力：マース株式会社

クオリティの高い施設と医療機器の紹介



PET / CT 装置

5 mm 程度の病変（がんも含む）も抽出（画像化）できます。



MRI 装置（1.5 テスラ）

高精度なMRI画像を得ることができます。
楕円形の開口部が圧迫感を軽減します。



16列マルチスライスX線CT装置

開口部が広く圧迫感を軽減します。被ばく量を抑えながら高画質を実現します。



デジタルマンモグラフィ

人間工学に基づき洗練された装置デザイン。高画質で低被ばくの撮影が行えます。



内視鏡

苦痛の少ない経鼻内視鏡を採用しています。



肝硬度測定装置

身体の外側から超音波をあてて肝臓の硬さを測定。検査は数分で終了します。

MedCity21

公立大学法人大阪
大阪公立大学医学部附属病院
先端予防医療部附属クリニック
MedCity21
〒545-6090
大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43
あべのハルカス 21階

06-6624-4011

受付時間：月～土 / 9:00～17:00 休診日除く
休診日：日曜日 / 祝祭日 / その他（年末年始等）



卒後臨床研修センター

Post graduate medical training center

業務内容

卒後臨床研修センターは大学病院としての特徴を活かしながら幅広い初期臨床研修が行えるよう、研修協力病院等と連携したプログラムを組んでいます。もちろん「医師である前に社会人たれ」と人間形成にも力を注いでいます。そのためには研修医の育成のみならず、指導医養成にも力を入れています。毎年「研修指導医養成のためのワークショップ」を開催し、参加者はのべ750名を越えます。さらに初期臨床研修修了後に、全19領域の専門医資格がすみやかに取得できるような連携も十二分に行っています。

本学・当院から一人でも多くの「良医」を輩出すべく、今後も活動を続けて参ります。

部門の特徴

研修プログラムは研修医のキャリア形成に応じて、1年目研修協力病院、2年目大学病院のコース（定員43名）、1年目2年目ともに大学病院4つのコース（定員23名）を設けています。

本プログラムには4つの特徴があります。まず2年目には全員が大学病院で研修し、最大10ヶ月間の選択期間があることです。原則として、各診療科で最低2ヶ月間の研修期間が確保され、じっくりと研修できます。バイキングスタイルで好きなプログラムを自分で組み立てていくことが可能です。

2つ目は2年目の地域医療研修（1ヶ月間）で、青森県での研修が選択可能であることです。毎年30名超の研修医が青森県で研修を行い、「とても勉強になった」、「血圧を測っただけなのに、ありがとう、と言われてうれしかった」、「青森の風土に触れて新鮮であった」と大好評です。また、2018年度から、北海道帯広市（十勝リハビリテーションセンター 他）での地域医療研修も可能です。

3つ目は、「緩和ケア研修会」の受講、定期CPCへの出席、卒後臨床研修センター主催の「研修医の明日に役立つ実践セミナー」、「プライマリ・ケア合同カンファレンス」さらに医学部同窓会主催の「卒後研修会」など多くのセミナーや講習会もカリキュラムに組み入れられていることです。

最後は、2007年3月に開設したスキルスシミュレーションセンター（SSC）です。毎年12,000名超の利用者があり、本邦でもトップクラスの稼働率です。特に研修医に対して9項目の侵襲的な手技を義務化講習として勤務時間中に開催し、さらに「Teaching is learning」、すなわち後輩研修医や学生指導でより効率的な医療研修を確立しています。当院での2年間の臨床研修修了者は、「さまざまな後輩指導の機会を得て、自身が大変勉強になった」とコメントするようになります。

このように本プログラムは大学病院としての特徴を活かしながら、幅広い初期臨床研修を行えるように配慮しています。卒後臨床研修センターは、本プログラムを通じて、当院から一人でも多くの「良医」を輩出するために、これからも努力を続けて参ります。



しゅとう たいち

首藤 太一

[専門・担当]

センター長

総合診療科教授・全体総括、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ コースプログラム責任者

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
溝端 康光 みぞばた やすみつ	教授	救命救急センター・Ⅰコースプログラム責任者
角 俊幸 すみ としゆき	教授	女性診療科・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳコースプログラム責任者
掛屋 弘 かけや ひろし	教授	感染症内科・Ⅰコースプログラム責任者
元村 尚嗣 もとむら ひさし	教授	形成外科・Ⅰコースプログラム責任者
栩野 吉弘 とちの よしひろ	准教授	総合診療科・Ⅰコースプログラム責任者
寺井 秀富 てらい ひでとみ	准教授	整形外科・Ⅰコースプログラム責任者
金子 幸弘 かねこ ゆきひろ	教授	細菌学・Ⅴコースプログラム責任者



SSCでの研修医義務化講習会の様子

がんセンター

Cancer center

業務内容

がん診療の進歩により、手術療法、放射線療法、化学療法、分子標的療法に加え、免疫細胞療法やがん遺伝子の情報に基づき、一人一人に合った個別化がん治療など、がんに対する治療が多様化し、予後が大きく改善してきています。加えて、がんやがん治療に伴う身体的・精神的苦痛の軽減、充実したサバイバーシップの実現なども重要です。当院は大学病院として集学的、包括的な治療や、身体的・精神的・社会的サポートを行う体制を整備し、より多くの患者さんのニーズにあった総合的なチーム医療が提供できるように、「化学療法センター」「ゲノム医療センター」「高精度放射線治療センター」「緩和ケアセンター」を統合し、2022年4月にがんセンターを設立しました。当院の理念に基づき、がん拠点病院として地域住民の健康に寄与する質の高いがん医療を提供するとともに、大学病院としてこころ豊かで信頼されるがん専門医療人を育成し、特定機能病院として高度先進医療の提供や新たながん治療を目指した臨床研究による治療成績の向上に貢献して参ります。さらに、就労支援を含むがん診療に関連した相談支援やセカンド・オピニオン、地域医療機関との連携にも積極的に取り組んでいます。

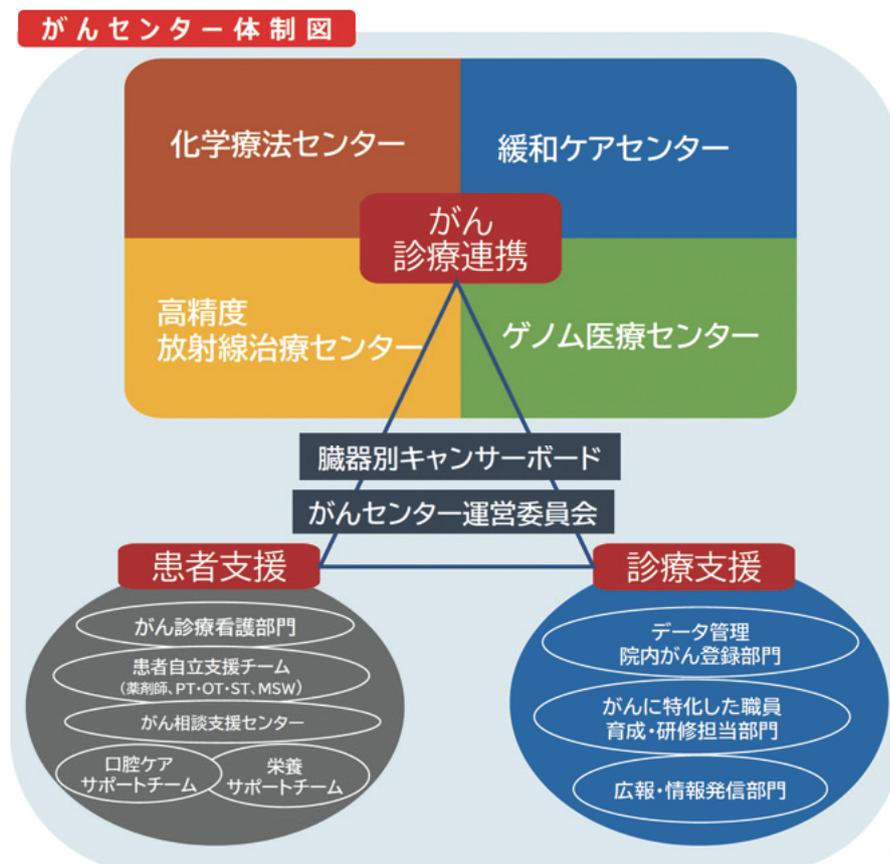


ひの まさゆき

日野 雅之

センター長

システム構成図



ゲノム医療センター

Medical Genomics Center

業務内容

近年、ゲノム医療の目覚ましい進歩により、病気と遺伝情報のかかわりが急速に明らかにされつつあります。

ゲノム医療センターでは、主治医から紹介を受けた患者さんの遺伝子に関係する病気に関わる疑問や不安に対し、臨床遺伝学を専門とする医師や、日本遺伝カウンセリング学会および日本人類遺伝学会認定の遺伝カウンセラーを中心としたチームで遺伝カウンセリングによる対応を行っています。適切な遺伝や医学的な情報をお伝えし、心理面の支援を行うことで、患者さんの理解や治療方針の選択をサポートしています。

また、当院は厚生労働省からがんゲノム医療連携病院に指定されており、腫瘍組織の遺伝子変異を明らかにすることによって一人ひとりの体質や病状に合わせた治療（投薬）などを行うがんゲノム医療を推進しています。ゲノム医療センターでは、院内の各部門やがんゲノム医療中核病院等の他医療機関と連携しながら、がんゲノム医療の入口となるがん遺伝子パネル検査を行っています。

部門の特徴

当部門は、2016年10月に遺伝診療センターとして設立され、主に小児科・内分泌内科・神経内科・皮膚科・耳鼻咽喉科領域における遺伝性疾患を対象に、専門的な診療や遺伝カウンセリングを行ってきました。その後2019年4月に名称をゲノム医療センターに変更し、あらゆる遺伝性疾患やがんゲノム医療などのより幅広い遺伝診療を担う部門として機能を拡大しています。また、2020年4月に各科の遺伝診療を集約して行う外来部門としてゲノム診療科が設立されたことで、ゲノム診療科とリンクしながらこれまで以上にきめ細かい患者サポートを行っています。

また、遺伝カウンセリングやがん遺伝子パネル検査に加え、下記のような取り組みを行いゲノム医療の発展に貢献しています。

- ・未診断疾患診断イニシアチブ (IRUD) 拠点
診断が困難な希少疾患の診断精度の向上や病態の解明と治療法の開発を目指した国主導の研究プロジェクトである IRUD へ参加しています。当研究では複数の症状がみられるものの、検査を尽くしても診断がつかない状態の患者さんを対象に網羅的遺伝子解析を行い、病因となる遺伝子を同定して治療や予後の見通しの参考としています。当院はプロジェクトの拠点病院に指定されています。
- ・遺伝性腫瘍のカウンセリングおよび検査の外来部門を設置しています。
- ・がん遺伝子パネル検査に基づいた治療方針決定のための専門者会議を行っています。
- ・多岐に渡る疾患に関するご相談をお受けしています。2022年度の遺伝カウンセリング件数は469件でした。

主な検査機器・設備

プライバシーに配慮し、落ち着いた環境でお話ができるよう、外へ音の漏れにくい個室の遺伝カウンセリングルームを設置しています。



すみ としゆき

角 俊幸

センター長

[専門・担当]

女性病態医学



スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
八代 正和 やしろ まさかず	副センター長	がんゲノム医療担当／癌分子病態制御学
瀬戸 俊之 せと としゆき	副センター長	遺伝性疾患全般／臨床遺伝学
馬場 遥香 ばんば はるか	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング
浄弘 裕紀子 じょうぐ ゆきこ	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング
小野 智愛 おの ちえ	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング
酒井 恵利 さかい えり	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング

化学療法センター

ATC : Ambulatory Treatment Center

業務内容

抗がん剤や生物学的製剤の治療を外来通院を行いながら受ける施設です。治療チェア（12台）、治療ベッド（13床）、薬剤部薬剤調製室、外来診察室、処置室、カンファレンスルーム、受付などで構成されています。

【業務内容】

- ・ 外来通院治療開始前オリエンテーション
- ・ 治療に伴う副作用の管理（薬剤師や看護師によるサポート）、薬剤師外来による内服抗がん剤の指導
- ・ 治療中の安全管理（休薬期間、減量基準など）
- ・ レジメン管理
- ・ チーム医療（栄養外来、緩和ケアチーム、カンサーボードなど）

【化学療法センターで治療を行っている主な疾患】

肺癌、乳がん、大腸癌、胃癌、膵臓癌、治験治療 など

部門の特徴

抗がん剤治療を日常生活や仕事を継続しながら通院のできる外来化学療法が普及し、患者さんのQOL（生活の質）が大きく向上してきました。これは抗がん剤の副作用が軽減し、また制吐剤などにより薬剤の副作用が十分にコントロールできるようになってきたからです。

近年、分子標的薬や免疫療法などの新しい抗がん剤が次々に承認され、様々ながん種において選択できる治療が増えてきました。多くの治療法の投与量や投与期間、副作用管理など、安全性の高い治療を安心して受けて頂けるように安全対策にも取り組んでいます。

抗がん剤治療中の栄養障害は治療の完遂率を低下させるほか、患者さんのQOL（生活の質）低下を招きます。当センターの栄養外来では、専門の職種であるNST 専門療法士と認定医師が患者さんの状態に合わせて栄養サポートを行っています。

患者さんには通院治療中の副作用の対処方法などについて、看護師や薬剤師から十分に説明を行います。また、入院を必要とするような症状に対しては各診療科外来や当直体制を通じて、患者さんに安心していただけるように対応しています。



かわぐち ともや

川口 知哉

[専門・担当]

センター長

呼吸器内科学・臨床腫瘍学教授

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
金田 裕靖 かねだ ひろやす	准教授	臨床腫瘍学
澤 兼士 さわ けんじ	講師	臨床腫瘍学
谷 陽子 たに ようこ	病院講師	臨床腫瘍学

主な検査機器・設備

化学療法センターでがんの治療を受けている皆さまへ

栄養外来のお知らせ

毎週月曜日 15:00~(予約制)

消化器外科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師が
あなたの栄養に関するお悩み相談にお答えします。

栄養不足に陥っていませんか...?

- 3か月以内に3kg以上体重が減少した
- 思うように食事が摂れない、食欲がない
- 口内炎がでやすい、治りが悪い
- 吐き気が家で食べる気がしない
- 腸内が落ちたと感じる
- 医師に栄養をつけるように言われた

当てはまる方は受診をお勧めします

その他、
「どれくらい栄養が必要なのか教えてほしい!」
「療養の進捗があっても食べやすい食事教えてほしい!」
「本などで得た栄養に関する知識が正しいのか教えてほしい!」
「先生が助けてくれた経験が役に立ちたい!」
等のご相談もお受けいたします。



ベッド・テレビ付き



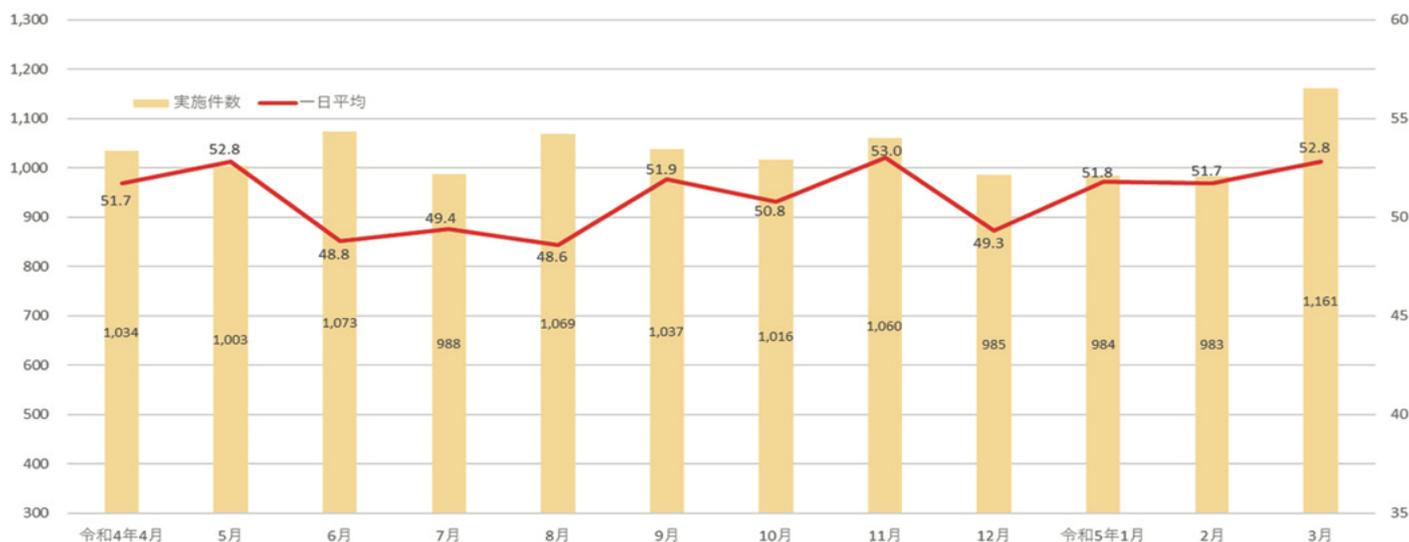
リクライニングチェア・テレビ付き



受付と外待合



外来と中待合室



令和4年度 月別・1日平均実施件数推移 (化学療法+生物学的製剤)

緩和ケアセンター

Palliative care center

業務内容

当院では2007年に緩和ケアチームが発足、院内外に対し緩和ケアを提供してきました。2022年4月のがんセンター開設に伴い、その下部組織として、より専門的な緩和ケアを提供すべく緩和ケアセンターが開設されました。

- ・緩和ケアチームによる病棟ラウンド
- ・緩和ケア外来
- ・看護外来
- ・緩和ケア関連の研修会・講演会等の運営
- ・地域施設との連携

部門の特徴

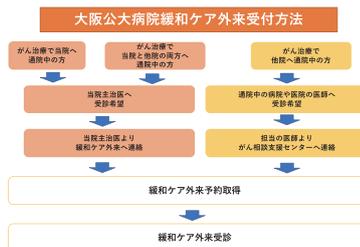
日本緩和医療学会の認定研修施設です。

緩和ケア外来について

- ・がん患者の身体的、精神的苦痛に対するコンサルテーションを行なっています。
- ・告知を受けておられるがん患者、及びその家族が対象です（家族のみの受診はできません）。
- ・完全予約制です。
- ・緩和ケア外来での処方や検査は行いません。必要な場合主治医の先生に依頼いたします。
- ・緩和ケア目的での救急・時間外の受診には対応していません。
- ・緩和ケア病棟がありませんので、緩和ケア目的の入院には対応していません。

詳細については当院ホームページの「がん情報」ページをご確認ください。

<https://www.hosp.omu.ac.jp/consultation/cancer/kanwa-care/kanwa-care.html>



かわぐち ともや

川口 知哉

センター長

[専門・担当]

呼吸器内科学、臨床腫瘍学教授

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
中尾 吉孝 なかお よしたか	副センター長／講師	緩和ケア認定医
鶴田 理恵 つるた りえ	ジェネラルマネージャー／師長	がん看護専門看護師
矢部 充英 やべ みつひで	講師	緩和ケア認定医／ペインクリニック
影山 祐紀 かげやま ゆうき	講師	精神科専門医／精神科指導医／精神保健指定医／ 産業医
池上 里美 いけがみ さとみ		緩和ケア認定看護師
岩田 恵子 いわた けいこ		緩和ケア認定看護師
原林 六華 はらばやし りか		薬剤師
石神 友介 いしがみ ゆうすけ		薬剤師
藤本 浩毅 ふじもと ひろき	主査	管理栄養士
野井 香梨 のい かおり		管理栄養士
城所 友樹 じょうしよ ともき		MSW

高精度放射線治療センター

High-Precision Radiotherapy Center

業務内容

当院では通常の放射線治療だけでなく、高精度放射線治療と呼ばれる先進的な治療に早くから取り組んできました。高精度放射線治療には強度変調放射線治療 (IMRT) / 強度変調回転放射線治療 (VMAT)、定位放射線治療、画像誘導放射線治療といった治療法・照射技術が含まれます。何れの技術も放射線治療の成績向上や副作用の軽減に大きく寄与してきました。

画像工学や IT 技術の開発と並行して、これらの技術は今現在も急速に進歩しています。これらの先進的な技術を駆使した放射線治療を患者さんに安心して受けて頂けるよう、放射線物理学に精通した医学物理士が放射線治療専門医と連携し、放射線治療計画やその検証作業、日々の安全確認や精度管理を行っています。

部門の特徴

当院がんセンターの一部門として、2022年に設立しました。がん診療に取り組むほぼすべての診療科、部門と連携し、高精度放射線治療の実践とその精度管理、および臨床研究や開発を行っています。

2022年5月からは、MR リニアック (Unity、エレクタ社製) が稼働を開始しました。MR リニアックは体内にある腫瘍をMRIにてリアルタイムに、かつ三次元的に視認しながら放射線を狙い撃ちすることのできる画期的な装置です。欧米を中心に世界有数のがんセンターや大学病院にて使用が開始され、既に様々な種類のがんの治療に取り入れられています。日本ではまだ殆ど稼働していませんが、西日本では当院が唯一、使用可能な施設となります。

今後、この装置を中心として体にやさしい新たながん治療の提供、開発を行うとともに、国際水準に適合した先進的な施設として、最先端のがん治療を安心、安全に提供できるよう万全の体制づくりに取り組んでいます。



主な検査機器・設備

- ・MR リニアック装置 1 台 (Unity)
- ・高エネルギー放射線治療装置 2 台 (Synergy、VersaHD)
- ・放射線治療計画用 CT 装置 1 台 (SOMATOM Confidence)



しぶや けいこ

澁谷 景子

センター長 / 教授

[専門・担当]

放射線治療全般



MR リニアック

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
棕本 宜学 むくもと のぶたか	副センター長	医学物理学 / 放射線治療計画

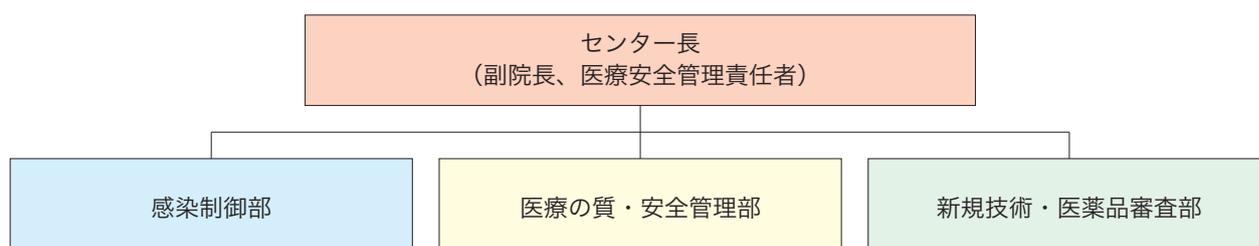
医療安全センター

Medical Safety Management Center

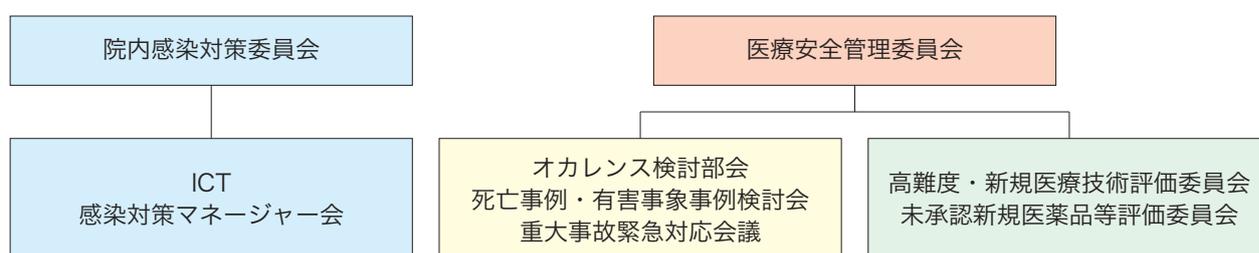
業務内容

2019年4月に医療安全に係る部門を集約した医療安全センターを設立しました。医療安全センターには、医療の質・安全管理部、感染制御部、新規技術・医薬品審査部を配置し、院内における医療安全の推進、医療の質の向上、感染対策、高難度新規医療技術・未承認薬等の安全使用の推進に当たっています。また、各部門で委員会や部会の設置、院内ラウンドを実施し、情報共有や職員の研修にも務めています。

医療安全センター



各部門の委員会・部会



すみ としゆき

角 俊幸

センター長

[専門・担当]
女性病態医学

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
柴田 利彦 しばた としひこ	新規技術・医薬品審査部長	心臓血管外科教授
掛屋 弘 かけや ひろし	感染制御部長	臨床感染制御学教授
山口 悦子 やまぐち えつこ	医療の質・安全管理部長	医療の質・安全管理学病院教授

新規技術・医薬品審査部

Department Evaluation of Highly Difficult New Medical Technologies and New Unapproved Drugs

業務内容

「高難度新規医療技術」（今まで当院で実施したことのない医療技術であってその実施により患者の死亡その他の重大な影響が想定されるもの）や、「未承認新規医薬品等」（国内での使用が承認されていない医薬品や高度管理医療機器、保険適応外の医薬品・検査・治療等）を用いた医療の提供について以下の業務を実施しています。

- 「高難度新規医療技術」、「未承認新規医薬品等」を用いた医療の提供可否の決定
- 「高難度新規医療技術評価委員会」、「未承認新規医薬品等評価委員会」の運営
- 有害事象の把握、実施条件の遵守状況の確認
- 各診療科等から提出される申請のチェック
- 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関する研修会の開催
- 臨床経過のモニタリング など

部門の特徴

大阪公立大学病院は、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力等を備えた特定機能病院として承認されています。2016年6月の医療法施行規則の改正により、特定機能病院の承認要件が見直され、「高難度新規医療技術」や、「未承認新規医薬品等」を用いた医療提供の適否決定に関する運用手順が定められました。

新規技術・医薬品審査部は、「高難度新規医療技術」や「未承認新規医薬品等」を用いた医療を安全に提供できるのか検討し、実施の可否を決定する部門として、2019年4月に設置されました。実施の可否を決定するために、各分野の専門の医師等で構成される、「高難度新規医療技術評価委員会」、「未承認新規医薬品等評価委員会」と「高難度新規医療技術審査会」、「未承認新規医薬品等審査会」を開催して慎重に審査しています。さらに、高難度新規技術や未承認新規医薬品等を導入した後も、有害事象の把握や実施規程の順守状況の確認等を行い、安全で適正な実施に努めています。

承認件数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
高難度新規医療技術	3件	15件	6件	8件	4件	7件
未承認新規医薬品等	5件	19件	14件	21件	17件	14件



しばた としひこ

柴田 利彦

部長

[専門・担当]

心臓血管外科教授、医療機器安全管理責任者

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
柴多 涉 しばた わたる	講師	感染症内科医師
澤 兼士 さわ けんじ	講師	化学療法センター医師
中村 和徳 なかむら かずのり	保健副主幹	薬剤師
山村 麗子 やまむら れいこ	主査	中央手術部看護師
小出 直樹 こいで なおき	医療安全管理者	臨床工学技士

医療の質・安全管理部

Department of Quality and Safety Management

業務内容

大阪公立大学医学部附属病院医療の質・安全管理部では、患者安全の推進、医療の質向上を目指し業務の充実を図っています。

厚生労働省の指導に基づき、以下の業務を行っています。

- 1) 安全管理体制の構築
- 2) 医療安全に関する職員への教育・研修の実施
- 3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
- 4) 医療事故への対応
- 5) 安全文化の醸成

部門の特徴

医療の質・安全管理部の活動には、以下のような特徴があります。

1. 本院の医療の質・安全管理に関わる具体的な取組みは、病院組織全体、職員一人一人の日常業務上の責務として行うべきものです。そのため医療の質・安全管理部は様々な業務を通じて、すべての職員が自発的・積極的に質の高い医療を求めて活動し、患者さんやご家族と同僚の安全を第一に働けるよう、支援を行います。
2. 本院では、患者中心の医療を目指しています。患者さんやご家族が納得・安心して医療を受けられるために、職員が十分な説明を行えるよう教育や指導・支援、仕組みや環境の整備を行います。
3. 医療に伴う傷害の発生を極力、低減するよう努力し、傷害が発生した後も、患者さんの回復に全力を尽くすため、部署・職種の壁を越えて、迅速かつチームワークよく対応できるよう職員を指導・支援します。
4. 組織を貫く透明性を醸成するため、職員一人一人が患者さんの状況に関する情報共有を徹底し、相互に支援し、患者さんやご家族へ丁寧かつ十分な状況説明を提供します。また重大な傷害が発生した場合は、速やかに監督官庁へ報告し、指導を受けます。
5. 病院各部門と連携・協力して、患者さんやご家族への対応の充実を図ります。
6. 教育病院として、学生に対しても安全を前提とした医療を指導しています。
7. ITを積極的に利用し、効率的に業務を行っています。
8. アニメーションやゲーム、演劇を応用した研修を行い、研修の効果を高めています。



やまぐち えつこ

山口 悦子

[専門・担当]

部長

医療の質・安全管理学 病院教授

スタッフ・専門領域

氏名	役職	専門領域
徳和目 篤史 とくわめ あつし	副部長 医療安全管理者	薬剤師
遠藤 弘子 えんどう ひろこ	保健副主幹 医療安全管理者	看護師
井手尾 浩美 いでお ひろみ	主査 医療安全管理者	看護師
高橋 正也 たかはし まさや	主査	薬剤師
伊賀 祐子 いが ゆうこ	副師長 医療安全管理者	看護師
小出 直樹 こいで なおき	医療安全管理者	臨床工学技士
溝端 康光 みぞばた やすみつ	専門委員 (兼務)	救急医学 教授
繪本 正憲 えもと まさのり	専門委員 (兼務)	代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学 教授
森 隆 もり たかし	専門委員 (兼務)	麻酔科学 教授
石沢 武彰 いしざわ たけあき	専門委員 (兼務)	肝胆膵外科学 教授
前田 清 まえだ きよし	専門委員 (兼務)	消化器外科学 教授
江原 省一 えはら しょういち	専門委員 (兼務)	集中治療医学 准教授
山本 晃 やまもと あきら	専門委員 (兼務)	放射線診断学・IVR学 准教授
榎本 大 えのもと まさる	専門委員 (兼務)	肝胆膵病態内科学 准教授
大塚 憲一郎 おおつか けんいちろう	専門委員 (兼務)	循環器病態内科学 講師
宮本 智子 みやもと のりこ	専門委員 (兼務)	看護部 師長

感染制御部

Department of Infection Control and Prevention

業務内容

感染防止対策の推進のために、以下の業務を行っています。

また、大阪市感染対策ネットワークの中心的役割を担っており、地域における感染防止対策の推進にも取り組んでいます。

- ICT活動（Infection Control Team：感染制御チーム）

- ① 感知情報の解析と管理
- ② 院内感染症のサーベイランス（耐性菌および抗酸菌、その他ターゲットサーベイランス）
- ③ アウトブレイク時の対応
- ④ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導（ラウンドの実施）
- ⑤ 職員への感染防止対策に関する教育と啓発
- ⑥ 感染対策マニュアルの改訂及び感染対策ガイドラインの作成・改訂
- ⑦ 職業感染防止対策の実施
- ⑧ ファシリティー・マネージメントへの関与

- 院内感染症コンサルト

- AST活動（Antimicrobial Stewardship Team: 抗菌薬適正使用支援チーム）

患者さんの菌検出状況や抗菌薬使用状況を把握し、適切に感染症治療が行えるようにサポートしています。

- 地域連携施設の感染対策支援活動

感染対策向上加算1届出8施設と連携し、カンファレンスや相互チェックを行い、感染防止対策の向上に取り組んでいます。また、本院と連携している感染対策向上加算2届出3施設と定期的に年4回、合同で感染制御に関するカンファレンス（協議会）を開催し、研修会やラウンド、相談などを実施しています。大阪市感染対策支援ネットワークでは中心的な役割を担い、地域医療機関・社会福祉施設の感染対策を支援するために、研修会やラウンドを実施しています。

部門の特徴

毎日、感染監視材料からの菌検出や耐性菌検出状況、特定抗菌薬使用状況など全員で情報共有し、各診療科への抗菌薬の提案、指導・相談等のICT活動を行っています。

感染症発生時は、現場の感染対策を確認し、適切な対策が実践できるように速やかに支援しています。

現場で困ったことがあれば、すぐに対応できるように、チーム内で課題を共有し、よりよい感染症対策を提供できるよう協力して取り組んでいます。

抗菌薬適正使用チームは、人員や検査結果の報告体制等を整備し、血液培養陽性例は全例介入、特定抗菌薬使用例や長期使用例についても全例確認しています。支援が必要な事例については、病棟ラウンドを行い直接主治医に感染症の診断と治療のアドバイスをしています。これまで10年間に約5000例程度の相談実績があります。菌血症の死亡率低下ならびに緑膿菌の感受性回復、抗菌薬の使用日数の短縮につなげています。

年度ごとのアンチバイオグラムを作成し適正な抗菌薬使用に努めています。



かけや ひろし

掛屋 弘

部長

[専門・担当]

感染症専門医

スタッフ・専門領域

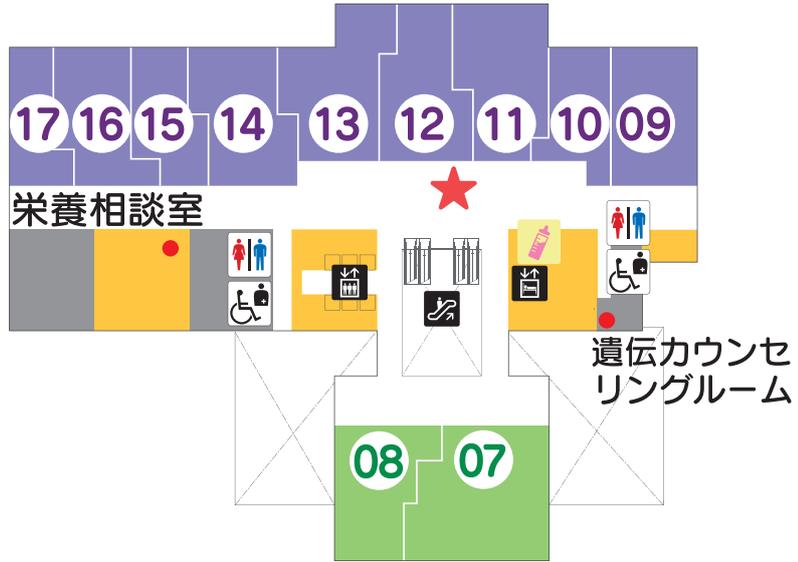
氏名	役職	専門領域
山田 康一 やまだ こういち	副部長	感染症専門医
柴多 渉 しばた わたる	講師	感染症専門医
井本 和紀 いもと わき	病院講師	感染症専門医
仁木 誠 にぎ まこと	保健副主幹	感染制御認定臨床微生物検査技師
岡田 恵代 おかだ やすよ	主査	感染管理特定認定看護師
藤田 明子 ふじた あきこ	主査	感染管理認定看護師
明堂 由佳 みょうどう ゆか	主査	臨床検査技師
藤井 昭人 ふじい あきと	看護主任	看護師
西浦 広将 にしうら ひろのぶ		薬剤師
武井 綾子 たけい あやこ		臨床検査技師
小川 将史 おがわ まさし		臨床検査技師
三谷 佳 みたに けい		臨床検査技師
高山 直美 たかやま なおみ		臨床検査技師
今井 みなみ いまい みなみ		臨床検査技師
土橋 朱音 どばし あかね		臨床検査技師

主な検査機器・設備

- POT (PCR based Open reading frame Typing) 法による遺伝子解析
MRSA や耐性緑膿菌の院内伝播が遺伝子学的に同一であることを証明するために POT 法を行っています。
従来の検査より簡便で、迅速に結果が判明する為、早期にフィードバックが可能になります。
MRSA・ESBL 産生大腸菌・薬剤耐性緑膿菌・薬剤耐性アシネトバクターについて 新規検出例の全例に POT 法を実施しています。
- マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法 (MALDI-TOF MS) の導入
令和元年に MALDI-TOF MS (プルカー・ダルトニクス社製「MALDI Biotyper」) を導入し、細菌同定結果を迅速に報告しています。
- 新型コロナウイルス検査装置の導入
2020年3月以降に、BD マックス™ 全自動核酸抽出増幅検査システム、GeneXpert® システム、FilmArray® システム、GENECUBE® を導入し、新型コロナウイルスの遺伝子検査を行っています。

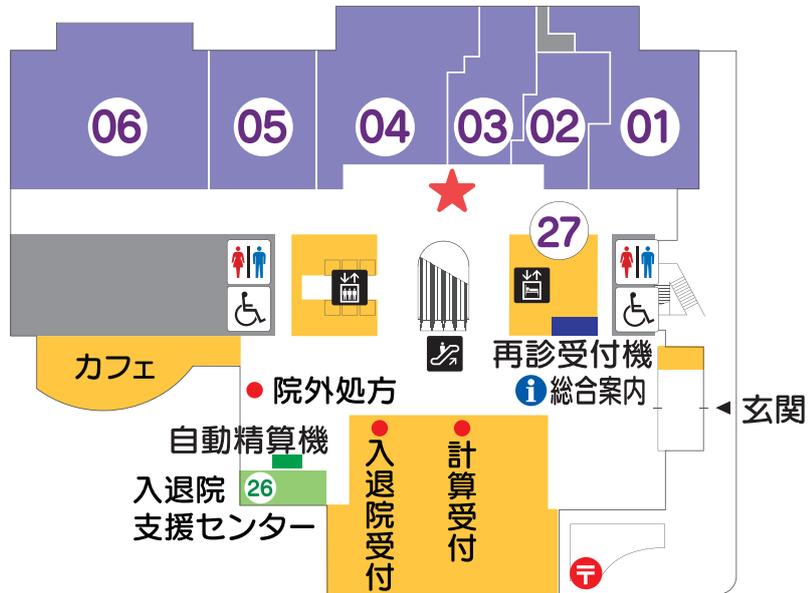
2F

- 07 女性診療科 (産婦人科)
- 08 消化器外科 肝胆膵外科
- 09 皮膚科
- 10 形成外科
- 11 耳鼻いんこう科
- 12 心臓血管外科 呼吸器外科
小児外科 乳腺外科
- 13 循環器内科 呼吸器内科
- 生活習慣病・糖尿病センター
- 14 腎臓内科
- 骨・内分泌内科
- 15 脳神経内科
- 16 消化器内科 肝胆膵内科
- 17 血液内科・造血細胞移植科
- 栄養相談室 薬事相談室
治験相談室 疲労ラボ
- ★ 保険証確認カウンター



1F

- 総合診療科
- 01 膠原病・リウマチ内科
感染症内科 ゲノム診療科
- 02 麻酔科・ペインクリニック科
- 03 脳神経外科
- 04 眼科
- 05 整形外科
- 06 化学療法センター
- 26 入退院支援センター
- 27 ゲノム医療センター
- ★ 保険証確認カウンター



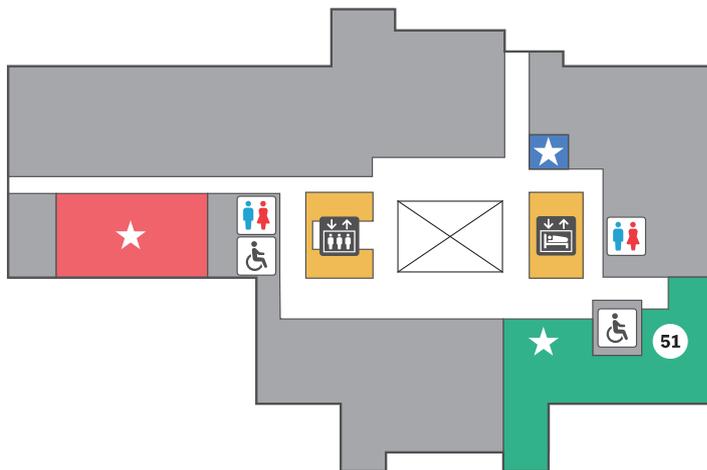
B1

- 31 (B3階) 北MRI・MEG
- 32 北CT
- 33 中央MRI・中央CT
- 34 中央放射線部受付
- 35 放射線治療科 放射線科 (IVR)
- 36 核医学科
- 37 内視鏡センター



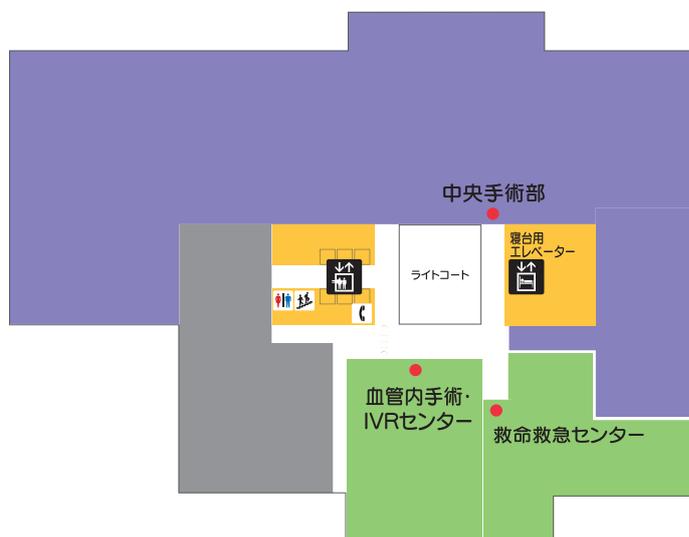
5 F

- 51 歯科口腔外科
- ★ リハビリテーション科
- ★ 講堂
- ★ 美容室



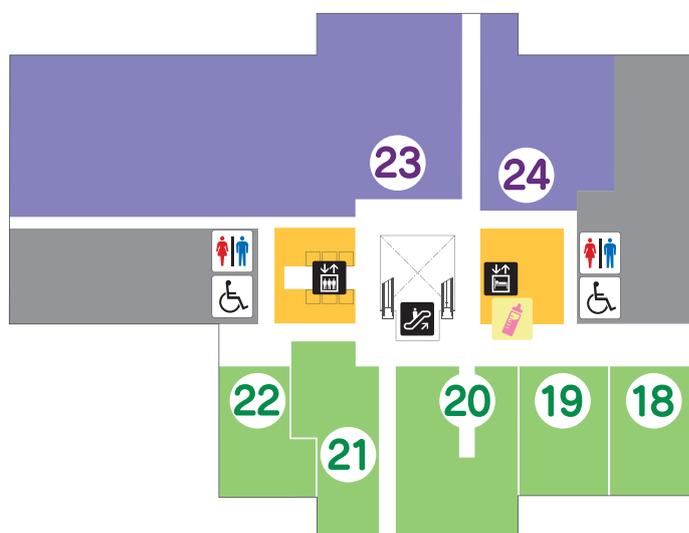
4 F

- 中央手術部
- 救命救急センター
- 血管内手術・IVRセンター



3 F

- 18 小児科・新生児科
- 19 泌尿器科 (腎臓移植)
- 20 生理検査受付 (心臓超音波)
- 21 超音波検査受付 (心臓以外)
- 22 神経精神科
- 23 採血・採尿・採便・採痰受付
- 24 病理診断科 (病理部)
- 肝炎防止調査センター
- 輸血部



8 施設案内

(令和5年5月29日現在)

	西病棟（むらさき色ゾーン）7～18階	東病棟（みどり色ゾーン）6～18階	
18階	会議室	特別病室	
17階	小児医療センター（こども病棟）	女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学） 女性診療科（婦人科腫瘍）	
16階	整形外科／乳腺外科／呼吸器外科	整形外科	
15階	肝胆膵外科／膠原病・リウマチ内科	消化器外科／消化器内科	
14階	腎臓内科／泌尿器科（腎臓移植）／麻酔科／人工じん部		
13階	皮膚科／骨・内分泌内科／ 生活習慣病・糖尿病センター	耳鼻いんこう科／形成外科	
12階	眼科／脳神経内科	脳神経外科／NRCU	
11階	消化器内科／肝胆膵内科		
10階	循環器内科／心臓血管外科	集中治療センター（ICU/CCU）	
9階	HCU	呼吸器内科／感染症内科／総合診療科	
8階	新生児科（NICU・GCU）／分娩室／院内学級	女性診療科（産科・生殖内分泌・骨盤底医学） MFICU	
7階	放射線治療室・無菌治療	放射線科／血液内科／核医学科	
6階	コンビニエンスストア	神経精神科	庭園
5階	歯科口腔外科 リハビリテーション科 事務室 看護部 医療機器部（診療材料室 MEセンター） 医療安全センター（医療の質・安全管理部 感染制御部 新規技術・医薬品審査部） 講堂 美容室		
4階	中央手術部 救命救急センター ECU 血管内手術・IVRセンター 外来手術室		
3階	外来診療部門 中央臨床検査部 病理診断科（病理部） 輸血部 肝炎防止調査センター		
2階	外来診療部門 栄養相談室 薬事相談室 治験相談室 疲労ラボ 遺伝カウンセリングルーム		
1階	外来診療部門 総合案内 入退院窓口・会計窓口・相談窓口 患者総合支援センター 入退院支援センター 化学療法センター ゲノム医療センター おくすり渡し口 在宅医療材料払出室 自動支払機		カフェ 自販機 コーナー
地下1階	外来診療部門 救命救急センター 薬剤部 中央放射線部 内視鏡センター 時間外受付・精算窓口 警備室・防災センター 休日・時間外出入口・駐車場出入口		銀行 自販機コーナー
地下2階	栄養部		

令和5年度 大阪公立大学医学部附属病院概要

発行日：令和5年7月発行

発行：公立大学法人大阪

大阪公立大学医学部附属病院

大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号

06-6645-2121（代表）

